広島文化学園短期大学 自己点検・評価報告書

令和３年度

Hiroshima Bunka Gakuen
Two-Year
College

令和４年６月

目　次

１．　はじめに 1
２．　建学の精神と教育の展開 2
３．　広島文化学園短期大学の沿革 4
４．　短期大学の教育方針と教育計画 8
　４−１　コミュニティ生活学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 11
　４−２　食物栄養学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 13
　４−３　保育学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 15
　４−４　専攻科生活文化専攻の３つのポリシー 17
　４−５　専攻科栄養専攻の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 19
　４−６　専攻科保育専攻の３つのポリシー 21
５．　学科・専攻科の自己点検・評価 23
　５−１　コミュニティ生活学科 23
　５−２　食物栄養学科 27
　５−３　保育学科 32
　５−４　専攻科栄養専攻 36
６．　組織ガバナンスの強化 38
　６−１　組　織 38
　６−２　人事・給与 41
７．　財務基盤の強化 43
８．　広報・学生募集活動の強化 46
　８−１　広　報 46
　８−２　学生募集 48
　８−３　入学者選抜 51
９．　教学の質の向上 54
　９−１　教学マネジメントの確立 54
　９−２　教育課程の改善 54
　９−３　教育方法の改革 55
　９−４　学修成果の把握と活用 56
　９−５　学修支援の強化 57
１０．　学生生活支援の強化 59
　１０−１　学生生活支援体制の強化 59
　１０−２　HBG 夢カルテの改善・活用 60
　１０−３　経済的支援体制の強化 61
　１０−４　自治会活動の支援の強化 61
１１．　就職・キャリア支援の強化 63
　１１−１　就職・キャリア支援体制強化 63
　１１−２　就職支援力の向上 63

１１−３　キャリア形成力の強化 64
１１−４　企業等との連携強化 64
１１−５　資格等取得の支援 65
１２−１　地域連携 66
１２−２　社会貢献 67
１３．　図書館 70
１３−１　学生の学習支援 70
１３−２　教育職員の研究等の支援 71
１３−３　学術情報環境整備 71
１３−４　地域連携 71
１４．システム 73
１５．　ＩＲ 75
１６．　リスク管理 77
１７．　自己点検・評価 80
１７−１自己点検・評価の徹底 80
１７−２　自己点検・評価による PDCA サイクルの確立 80
１７−３　機関別認証評価の受審 81
１７−４　内部質保証のための仕組みづくり 81
１７−５　教職員個人、各部署及び大学全体による PDCA サイクルの確立 81
【参考資料】 83
令和３年度卒業生 83
卒業研究 83
満足度調査結果 87
進路・就職状況 131
就職先一覧 132
職員 SD・FD 研修の実施状況 148

１．　はじめに

学長　坂越 正樹

本学は、平成 21 年 4 月に大学の名称を広島文化短期大学から広島文化学園短期大学に変更して、呉大学から名称変更した広島文化学園大学とともに学園の統合化を推進し、10 年余りを経て、漸く学園アイデンティティ（運営組織・構成員意識）が確立されてきました。その間、学園の教育理念「対話の教育」、教育方針「学習者中心の教育」により「学生の夢の実現」を目指す様々な取組みを行っております。

平成 24 年度には、一般財団法人短期大学基準協会による第２期の認証評価を受審し、厳正な審査を経て平成 25 年 3 月 14 日付で適格認定を受領することができました。平成 27 年度には大手前短期大学との間で相互評価協定を締結し、書面調査、相互の訪問調査、評価表の交換を行い、双方の強みや早期に改善すべき課題の明確化等、相互評価ならではの成果を得ることができました。そして令和元年度には、短期大学基準協会による第 3 期の認証評価を受審し、厳正な審査を経て令和 2 年 3 月 17 日付で適格認定を受領することができました。

また、教育改革に関しては、文部科学省による私立大学等改革総合支援事業(タイプ 1)において、建学の精神「究理実践」を生かした教育の質向上の取組みが連続して採択され、さらに研究面では、広島文化学園大学による研究計画「地域共生のための対人援助システムの構築と効果検証」が、文部科学省の平成 28 年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定され、その後も学園全体における多様な対人援助研究が、継続的に推進されております。

こうした本学園の教育・研究活動における最近の実績は、長年にわたって学園教職員が一体となって自己点検・評価に真摯に取り組み、高等教育機関としての本質を追求し続けてきた成果であると確信しております。この「自己点検・評価報告書」は、本学の教育・研究・社会貢献等の取組み状況を広く社会に公表するとともに、改善すべき課題を明確にして PDCA サイクルを確立するために、全教職員が参画して作成している報告書です。平成 28 年度からは、学園の中期経営計画に基づき自己点検・評価の実施体制を再構築し、報告書の目次も中期経営計画の章立てに合わせて構成しております。

関係各位の忌憚のないご意見を賜り、さらなる教育の質の向上に努めて参る所存であります。

２．　建学の精神と教育の展開

副学長　松元　健治

（１）建学の精神「究理実践」と本学の教育方針

本学の建学の精神は、「究理実践（Theoria cum praxi)」である。この言葉は、理論を追求しそれを実践で確かめ、また実践を通して理論を検証し深めていくという、学び続ける者としてのあるべき姿を表現している。

また、この建学の精神「究理実践」とともに本学が開学以来教育の方針として尊重していることは、「対話の教育」ということである。これは、教師と学生がともに自分自身の未熟を自覚し、実践を通して理論を深めていこうとする過程でお互いの対話を通して成長していこうとする、真の教育のあり方を示している。

また、本学の指導方針は、「ルールを守り、自ら立つ」である。これは、自立を目前にした学生達の自立のための最終段階として、自律と他律の調和が不可欠であるという発達観に基づいて設定されている。そしてこうした発達観から本学では、学生達の経済的自立・精神的自立へ向けての成長をサポートするために学生生活における最低限のルールを定め、学生達がそのルールを守り、正しい価値を自分のものとして定着させることによって、自立を達成することを願っているのである。

（２）教育の展開　～建学の精神を踏まえて～

本学は、建学の精神である「究理実践」に基づいて、常に時代のニーズに応える教育の推進に努めてきた。その代表的な取り組みは次のようなものである。

① 学生の意欲と個性を最も大切にするアドミッション・オフィス（AO）入学制度

本学では、平成 10 年度に全国の短期大学に先駆けてアドミッション・オフィス（AO）入学試験を導入した。AO 入学試験(現在は「総合型選抜(AO)」)は、目的意識と意欲を持ち、本学を通して自己実現を望む学生の入学を促進するための制度である。対話により学生の個性や興味を確認できるとともに、学生は本学の教育内容を事前に理解した上で入学できるため、学生の目的実現のために効果的な教育を展開することができる。

② セミナー&チューター制、「HBG 夢カルテ」

授業計画から生活指導そして就職指導までの大学生活のすべてにわたって、セミナー&チューターが学生を個別にサポートする。その際に活用するのが ICT 活用型支援システム「HBG 夢カルテ」である。学生は、入学時の夢の実現をめざしてセメスターごとに具体的な目標を設定し、その結果を自己評価してさらなる目標設定にフィードバックする過程を通して、最終的な目標の達成をめざしていく。チューターは、学生の活動記録・業績の集積に基づき定期的にアドバイスをして、学生の進路実現を全面的にサポートする。

③ コミュニティ・カレッジ機能の積極的展開

職業や家事等に従事しながら自分のライフスタイルに合わせて履修できる長期履修学生制度を、平成 14 年に全国で初めて導入した。また、地域社会の多様なニーズに対応したコミュニティ・カレッジ的機能を発揮する 21 世紀型の短期大学をめざして、広島市安佐南区との協定に基づく事業や、地元公民館との連携講座の実施、呉地域オープンカレッジネットワーク会議への参加など、地域社会に貢献するための様々な取り組みにチャレンジしている。

④ 認証評価機関による適格認定と改革・改善への取り組み

平成 16 年に改正学校教育法による大学の第三者評価制度がスタートしたが、本学は(財)短期大学基準協会の第 1 回目(平成 17 年度)の審査に挑戦し、厳正な評価の結果、適格と認定された。また平成 24 年度には、学修成果の達成に焦点化した新評価基準により第 2 期の第三者評価を受審し、適格認定を受領した。また平成 28 年度には、大手前短期大学との間で相互評価を実施し、教育の質の向上に向けて課題の明確化を図りさらなる改革・改善に取り組んだ。そして令和元年度には、第 3 期の認証評価を受審し、令和 2 年 3 月 17 日付で適格認定を受領している。

⑤ 学園統合化の推進

平成 21 年 4 月に大学・短期大学の名称を変更し、広島文化学園の名の下に学園のさらなる統合化を推進している。平成 22 年 4 月には、広島長束キャンパスに広島文化学園大学学芸学部(子ども学科・音楽学科)が設置され、委員会の合同開催、学生指導の統一化等により大学と短期大学の連携・協力を促進し、教育・研究の充実を図っている。

⑥ 学修履歴証明書の作成

令和元年度からは、学生が在学中の学修によりどのような力を身に付け、どのような人物に成長したのかを示すために、学修成果可視化のツールとして「学修履歴証明書」を作成し、卒業時に学生に配付している。証明書は、大学の学業データ・ディプロマポリシーの達成度、外部テスト結果等で構成され、学生の学修履歴を証明するとともに、大学として教育活動の PDCA サイクルを促し、教育改善に活用することを目的としている。

⑦ 短期大学将来構想の検討

専門職大学・専門職短期大学の創設など高等教育を取り巻く社会環境が変革しつつある中で、平成 29 年 10 月に理事長の諮問機関として「短期大学将来構想ワーキンググループ(WG)」が設置され、今後の短期大学の在り方・将来構想等について審議・検討された。WG では、審議の結果を、本学における今後の志願者予測、専門職大学・専門職短期大学制度への対応方針、学び直し・リカレント教育のための体制整備等について報告書としてまとめた。さらに令和 3 年度には、短期大学将来構想検討プロジェクトが設置され、全国の短期大学の情勢を勘案しつつ本学の持続的な運営に必要な具体的施策の立案を検討している。

３．　広島文化学園短期大学の沿革

昭和39年 1月25日　学校法人筒井学園寄附行為変更認可（大学設置に係るもの）
広島文化女子短期大学設置認可（入学定員100 名）
昭和39年 4月20日　第１回入学式（被服科第１ 期生入学）
昭和40年 2月 2日　教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭）
広島文化女子短期大学被服科
昭和41年12月 2日　被服科入学定員100名を150名に変更
昭和42年 1月23日　食物栄養科設置認可（入学定員100名）
昭和42年 3月15日　広島文化女子短期大学を栄養士養成施設に指定
昭和42年 4月10日　食物栄養科第１期生入学
昭和43年 2月19日　教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭）
広島文化女子短期大学食物栄養科
昭和44年 4月 1日　被服科を被服学科に、食物栄養科を食物栄養学科に名称変更
昭和45年 3月 4日　全職員協議会・教授会で「究理実践」（対話による教育）を本学園の教育目標とすることに決定
昭和46年 9月 9日　学校法人広島文化学園寄附行為変更認可（名称変更認可）
昭和47年 4月10日　広島文化女子短期大学が衣料管理士を養成する大学に認定（被服学科）
昭和48年 1月26日　被服学科入学定員150名を100名に変更
昭和51年 1月10日　音楽学科設置認可（入学定員器楽専攻30名、声楽専攻40名）
昭和51年 4月10日　音楽学科第１期生入学
昭和52年 1月13日　教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、音楽）
広島文化女子短期大学音楽学科
昭和52年 3月30日　聴講生に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭、音楽）
昭和52年12月26日　専攻科音楽専攻の設置届出受理（入学定員10名）
昭和54年 4月 1日　広島・子供の音楽園開設
昭和56年12月 1日　広島文化女子短期大学が秘書士を養成する大学に認定（被服学科・食物栄養学科食物コース）
昭和57年 1月16日　幼児教育学科設置認可（入学定員50名）
昭和57年 2月 2日　教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二級普通免許状）
広島文化女子短期大学幼児教育学科
昭和57年 4月10日　幼児教育学科第１期生入学
昭和60年12月17日　専攻科音楽演奏専攻の設置及び定員変更届の受理（入学定員音楽専攻5名、音楽演奏専攻5名）
昭和60年12月25日　期間を付した入学定員増認可（被服学科150名、食物栄養学科150名）
昭和62年12月 9日　被服学科を生活文化学科に名称変更
平成 2年12月21日　食物栄養学科を生活科学科に名称変更し、生活科学専攻（100名）・栄養専攻（50名）の２専攻課程を設置

	期間を付した入学定員増認可（生活文化学科175名）
平成 3年12月20日	音楽学科入学定員器楽専攻30名を45名、声楽専攻40名を25名に変更、専攻科音楽専攻の入学定員5名を10名に変更
平成 4年 3月 9日	音楽学科総合音楽コースに秘書士資格認可
平成 4年 3月31日	専攻科音楽専攻、音楽演奏専攻は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定
平成 4年12月21日	専攻科幼児教育専攻の設置受理（定員5名）
平成 6年12月21日	音楽学科専攻科音楽演奏専攻の入学定員5名を10名に変更届文部省受理
平成 6年12月21日	専攻科栄養専攻（入学定員5名）の設置届文部省受理
平成 6年12月21日	生活文化学科の入学定員（学則第２条定員）100 名を50名に、生活科学科生活科学専攻の入学定員（学則第２条定員）50名を25名に変更届文部省受理
平成 6年12月26日	専攻科栄養専攻は栄養士法第２条第１項の規定による栄養士養成施設として厚生大臣指定
平成 7年 2月 1日	専攻科栄養専攻は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定
平成 8年 4月 1日	生活文化学科の生活デザインコース、服飾デザインコース、染色工芸、織物工芸の４ コースをファッションコース、インテリアコースの２コースに改編
平成 9年 2月25日	幼児教育学科を児童福祉法に基づく保母を養成する学校として厚生大臣認可 平成9年4月以降の入学生の養成について適用
平成10年 8月14日	広島文化女子短期大学名称変更に係る寄付行為変更文部大臣認可
平成10年12月22日	専攻科栄養専攻（２年課程）設置届書文部省受理（平成11年4月1日開設）
平成11年 2月10日	専攻科栄養専攻（２年課程）は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定
平成11年 4月 1日	広島文化女子短期大学を「広島文化短期大学」に名称変更（男女共学実施）
平成11年10月22日	入学定員の変更認可 生活文化学科　125名→87名（恒定50＋臨定恒定化37） 生活科学科　生活科学専攻　75名→50名（恒定25＋臨定恒定化25）
平成12年 1月11日	音楽学科を音楽療法士２種養成所として全国音楽療法士養成協議会認定
平成12年 4月 1日	ビジネス実務士養成を開始（生活文化学科、生活科学科、音楽学科）
平成13年12月20日	専攻科生活文化専攻の設置届出受理
平成14年 4月 1日	「長期履修学生」受け入れ制度実施 平成14年１月11日　文部科学省届出
平成14年 4月 1日	専攻科音楽専攻・音楽演奏専攻が音楽療法士（２種）養成所として認定
平成14年 7月30日	コミュニティ生活学科　地域総合科学科（総称）としての適格認定
平成15年 3月 5日	教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二種免許状（庭））コミュニティ生活学科
平成15年 3月26日	保育学科保育専攻が保育士養成施設として指定
平成15年 4月 1日	生活文化学科、生活科学科生活科学専攻の募集を停止し、コミュニティ生活学科を新設（定員87名）し、ファッションコース・食生活コース・キャリアコースを設ける

平成14年5月29日　文部科学大臣認可

平成15年 4月 1日　生活科学科栄養専攻を食物栄養学科に名称変更（定員50名）
平成14年8月16日　文部科学省受理

平成15年 4月 1日　幼児教育学科（定員50名）を保育学科（定員100名）に名称変更、定員増を行い、幼児教育専攻（定員50名）・保育専攻（定員50名）の２専攻課程を設置
専攻分離・定員増　平成14年5月29日　文部科学大臣認可
名称変更　平成14年8月16日　文部科学省受理

平成16年 2月 19日　保育学科保育専攻に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二種免許状）
音楽学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二種免許状（音楽））

平成16年 4月 1日　コミュニティ生活学科　ファッションコース・食生活コース・キャリアコースの３コース制廃止、ファッション・フード・ライフデザインの３領域でフィールド&ユニット制をスタート

平成16年 4月 1日　音楽学科　器楽専攻・声楽専攻の廃止、同時にピアノコース・管弦打楽器コース・声楽コース・総合音楽コースの４ コース制廃止、フィールド&ユニット制をスタート
地域総合科学科（総称）としての適格認定
平成15年9月19日　文部科学省受理

平成16年 9月30日　生活文化学科、生活科学科生活科学専攻、生活科学科栄養専攻の廃止届出受理

平成16年10月 6日　専攻科幼児教育専攻を専攻科保育専攻に名称変更届出受理

平成17年 3月31日　食物栄養学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（栄養教諭二種免許状）

平成18年 3月13日　保育学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二種免許状）

平成18年 3月23日　㈶短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定

平成18年 4月 1日　保育学科幼児教育専攻・保育専攻の廃止、入学定員の変更
コミュニティ生活学科87名→120名、音楽学科70名→80名、保育学科100名→130名

平成19年 4月 1日　広島文化短期大学呉阿賀サテライトキャンパス開設

平成21年 4月 1日　広島文化短期大学を「広島文化学園短期大学」に名称変更
旧学章に変えて新学章を制定

平成22年 4月 1日　音楽学科募集停止、専攻科音楽専攻・専攻科音楽演奏専攻募集停止
平成21年7月　文部科学省届出
入学定員の変更
コミュニティ生活学科120名→100名、保育学科130名→70名
平成21年7月　文部科学省届出

平成23年 4月 1日　音楽学科及び専攻科音楽演奏専攻廃止
平成23年4月　文部科学省届出

平成24年 4月 1日　入学定員の変更
コミュニティ生活学科100名→80名、保育学科70名→90名

	平成23年6月　文部科学省届出
平成25年 3月14日	一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定
平成26年 7月16日	学園創立50周年記念式典挙行
平成27年 3月 1日	学園創立50周年記念誌発行
平成27年 8月30日	徳山大学との連携協力に関する協定書締結
平成27年 9月11日	大手前短期大学との相互評価に関する協定書締結
平成27年11月15日	あかね同窓会50回記念祝賀会挙行
平成28年 5月12日	大手前大学・短期大学との連携協力に関する協定書締結
平成28年12月 1日	株式会社フレスタとの産学連携に関する協定書締結
平成29年 4月 1日	入学定員の変更
	保育学科90名→100名
	平成28年 6月　文部科学省申請
令和 2年 3月17日	一般財団法人短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定
令和 3年10月 7日	専攻科保育専攻、栄養専攻、生活文化専攻の学生募集停止に係る届出

４．　短期大学の教育方針と教育計画

平成 20 年 12 月「学士課程の構築に向けて(学士課程答申)」により、教学経営において各大学が、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、そして「入学者受入れの方針」の三つの方針を明確に示すことが求められた。本学では、この学士課程答申を踏まえて、三つのポリシー策定の作業に取り掛かり、平成 22 年度に最初の三つのポリシーを策定した。その後平成 25 年度には、大学全体のポリシーを作成するなどの修正を行った。

その後、平成 28 年 3 月に学校教育法施行規則が改正され、三つのポリシーが法定化されるとともに、中央教育審議会より「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」が提示された。本学では、教育課程委員会を中心にして国のガイドラインに対応した新たなポリシー策定のための協議を行い、運営会議、教授会、執行部会議、学園経営企画会議等の手続を経て、平成 29 年度版を完成させた。

広島文化学園短期大学の三つのポリシー(令和３年度版)

【１．ディプロマ・ポリシー(卒業の認定に関する方針)】

本学では、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する要件として、所定の単位を修得し、広島文化学園の建学の精神である「究理実践」に基づき、専門の知識・技術、職業又は実際生活に必要な能力、幅広く深い教養及び総合的な判断力、豊かな人間性を身に付けることを求めている。

具体的には次の 4 つの力を身に付けることを求める。

ア　知識・理解

専攻する特定の学問分野及び職業生活や社会生活に必要な基本的な知識を体系的に理解する。

イ　汎用的技能

専攻する特定の学問分野に関する知的活動や職業生活、及び社会生活に必要な汎用的技能を身に付ける。

ウ　態度・志向性

社会人としての必要な態度と志向性を身に付ける。

エ　総合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題を解決する能力を身に付ける。

【２．カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)】

卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。

なお、学修方法、学修内容、学修成果の評価は、次のように定める。

ア　学修方法

授業は、講義、演習、実験、実習、又は実技のいずれか、又はこれらの併用により行う。また各

授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学内外での行事や地域連携活動等、実践を通した学びを重視する。

イ　学修内容

教養教育に関する授業科目、専門教育に関する授業科目、キャリア教育に関する授業科目をバランスよく配置するとともに、大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育の充実を図る。

ウ　学修成果の評価

ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」をカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。

【３．アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)】

建学の精神「究理実践」に基づく教育目的を理解し、入学後の修学に必要な学力として、基礎的知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持ち、本学の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を、多様な入学者選抜方法により受け入れる。

ア　入学を希望する人に求める内容

(ｱ) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(ｲ) 身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を有している。

(ｳ) 基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。

(ｴ) 入学を希望する学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。

(ｵ) 入学を希望する学科の教育内容を十分に理解している。

イ　入学者選抜の基本方針

各学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の３要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施する。

選抜区分	学力の３要素		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
総合型選抜	◎ （調査書）	◎ （自己アピール／面談）	◎ （面談・調査書）
学校推薦型選抜	◎ （調査書）	○ （小論文／志望理由書／面接）	◎ （面接・調査書）
一般選抜	◎ （調査書）	◎ （学科試験／小論文）	○ （調査書）
大学入学共通テスト	◎ （調査書）	◎ （共通テスト）	○ （調査書）
社会人特別選抜	○ （調査書）	○ （小論文）	◎ （面接・調査書）

注１：「学力の３要素」のうち、Ⅰは「知識・技能」、Ⅱは「思考力・判断力・表現力」、Ⅲは「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を表す。

注２：◎は特に重視する、〇は重視する、を表す。
注３：(　　）内は、評価方法を表す。

【４．アセスメント・ポリシー（学修成果の評価に関する方針)】

広島文化学園短期大学では、ディプロマ・ポリシー（DP)、カリキュラム・ポリシー（CP)、 アドミッション・ポリシー（AP）の 3 つのポリシーに基づく教育の実施と、それらの自己点検・ 評価を通した改善・改革の取組を、教育の質保証の中核として位置づけている。

本アセスメント・ポリシーは、3 つのポリシーに基づき、短期大学レベル・学科レベル・科目レベルの 3 段階で、学生の学修成果を評価するための方針・内容・方法等を定めるものである。学修成果の達成状況を、量的・質的データを用いて測定・評価した結果を全学的に集約し、各レベルと各部署にフィードバックして、教育の改善、質向上を組織的かつ継続的に推進する。

ア　短期大学全体のアセスメント・ポリシー

短期大学としてのディプロマ・ポリシーに示す 4 つの区分（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）ごとに、「学修到達目標」と「具体的な下位項目」をカリキュラムマップで示し、下記の学科及び科目ごとの方針により達成状況を評価する。 評価に際しては、単位修得状況、卒業要件達成状況、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価、進路決定率、資格取得率、学生調査、企業アンケート等から、学修成果の達成状況を総合的に評価するとともに、評価の結果を教育実施の現状把握と課題の明確化、全学的な教育改革・改善に活用する。

イ　学科のアセスメント・ポリシー

各学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。

(ｱ) ディプロマ・ポリシーに示す 4 つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、
達成度を 4 つのレベルでルーブリック評価する。レベル 3 以上を達成すべき水準とする。

(ｲ) 学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。

(ｳ) 学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を 4 つのレベルでルーブリック評価する。レベル 3 以上を達成すべき水準とする。

ウ　科目ごとのアセスメント・ポリシー

科目ごとの成績評価は、カリキュラムマップにおける当該科目の位置付けや到達目標、科目の特性等を踏まえて、科目担当教員がシラバスに明示した適切な評価方法に沿って行い、学生の学修 成果の達成状況を総合的に評価する。また学生による授業評価結果を分析して、シラバスで提示している到達目標の達成状況を評価する。成績評価及び学生による授業評価結果の分析を次年度のシラバスに反映させて、継続的な授業の改善に努める。

4－1　コミュニティ生活学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	コミュニティ生活学科	衣、食、住、人間関係等の生活に関わる幅広い専門的知識と技能を養い、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。 コミュニティ生活学科では、所定の単位を修得し、以下にあげることを身につけた学生に卒業を認定し、短期大学士(生活総合学)の学位を授与する。 １．知識・理解 （１）生活に関する知識を身につけている。 （２）衣生活、食生活、人間関係に関する基本的知識を身につけている。 （３）ファッション分野・フード分野の専門的知識を身につけている。 （４）社会的及び職業的自立を図るために必要な知識を身につけている。 ２．汎用的技能 （１）生活に関する技能を身につけている。 （２）衣生活、食生活、人間関係に関する基本的技能を身につけている。 （３）ファッション分野・フード分野の専門的技能を身につけている。 （４）社会的及び職業的自立を図るために必要な汎用的技能を身につけている。 ３．態度・志向性 （１）個性豊かな生活づくりをする姿勢を身につけている。 （２）地域社会の文化形成に貢献する姿勢を身につけている。 ４．総合的な学習経験と創造的思考力 （１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 （２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。
カリキュラム・ポリシー	コミュニティ生活学科	コミュニティ生活学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養科目・専門科目・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。 １．学修方法 （１）実施する授業の形態は、講義、演習、実習をバランスよく配置し、知識と技能の修得をはかる。 （２）学生の主体的な学びを促すアクティブ・ラーニングを実施する。 （３）学内外での授業・研究等の成果発表やボランティア活動など、実践的な教育を重視した教育を実施する。 ２．学修内容 （１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。 （２）専門科目は、生活に関する基本的知識・技能を総合的に養う「ライフデザインフィールド」、ファッションに関する専門的知識・技能を養う「ファッションフィールド」、フードに関する専門的知識・技能を養う「フードフィールド」、社会的及び職業的自立を図るために必要な知識と技能を養う「キャリアサポートフィールド」を設け、それぞれの目標達成のために必要な科目を配置する。 （３）初年次教育として「セミナーⅠ・Ⅱ」を配置し、学生生活への適応および学修スキルの向上をはかる。 ３．学修成果の評価 （１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」をコミュニティ生活学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。 （２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。

		（3）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置づけ、総括的に評価を行う。 ①幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。 ②専門科目は、生活に関する基本的知識・技能を総合的に養う「ライフデザインフィールド」、ファッションに関する専門的知識・技能を養う「ファッションフィールド」、フードに関する専門的知識・技能を養う「フードフィールド」、社会的及び職業的自立を図るために必要な知識と技能を養う「キャリアサポートフィールド」を設け、それぞれの目標達成のために必要な科目を配置する。
アドミッション・ポリシー	コミュニティ生活学科	コミュニティ生活学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及びコミュニティ生活学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。コミュニティ生活学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 1．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 2．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 3．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 4．コミュニティ生活学科での学びや経験を社会で活かしたいという意欲や目的意識がある。 5．コミュニティ生活学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	コミュニティ生活学科	コミュニティ生活学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 1．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 2．学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 3．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

4-2　食物栄養学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に卒業を認定し、短期大学士(栄養学)の学位を授与する。 １．知識・理解 （１）栄養士として必要な「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」に関する最新の知見を取り入れた専門的知識を理解している。 （２）栄養士の役割について理解している。 （３）社会的自立を図るために必要な知識を理解している。 ２．汎用的技能 （１）栄養士として必要な専門的技能を修得している。 （２）対象者一人一人の状態に応じた献立作成、調理、栄養指導ができる。 （３）社会的自立を図るために必要な技能を身に付けている。 ３．態度・志向性 （１）対象者一人一人の食生活に即した栄養指導を構想することができる。 （２）自らの食生活を振り返り、自己評価することができる。 ４．総合的な学習経験と創造的思考力 （１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 （２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。
カリキュラム・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実践する。 １．学修方法 （１）実施する授業の形態は、講義、演習、実験、実習のいずれか、又は、これらの併用により行う。 （２）各授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。 （３）栄養士として地域の健康づくりに貢献する姿勢を養うため、実践の機会を設けたカリキュラム編成とする。 ２．学修内容 （１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。 （２）専門科目は、栄養士免許、栄養教諭二種免許状、フードスペシャリスト受験資格を取得するために必要な科目を取り入れたカリキュラム編成にする。 （３）大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育は、多様な入学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びが実践できるよう、少人数制の「セミナーⅠ」「セミナーⅡ」で実施する。 ３．学修成果の評価 （１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」を食物栄養学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。 （２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 （３）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置付け、総括的に評価を行う

アドミッション・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び食物栄養学科の教育内容を理解し、本学及び食物栄養学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。 食物栄養学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 １．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 ２．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 ３．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 ４．食物栄養学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。 ５．食物栄養学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 １．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 ２．学生の学修成果を総合的に判断する指標としてGPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 ３．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

4-3　保育学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	保育学科	保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を養うとともに、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成することを目的とする。 保育学科では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身につけた学生に卒業を認定し、短期大学士（保育学）の学位を授与する。 １．知識・理解 （１）保育の本質と目的について理解している。 （２）保育に関する基本的知識を理解している。 （３）子どもの心身の健康や発達について理解している。 （４）社会的自立を図るために必要な知識を理解している。 ２．汎用的技能 （１）子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる。 （２）音楽、図画工作、体育等の基礎技能を身に付けて指導することができる。 （３）社会の多様なニーズに柔軟に対応できる。 （４）社会的自立を図るための技能を身に付けている。 ３．態度・志向性 （１）子どもの最善の利益を尊重することができる。 （２）正しい価値観・倫理観と判断力を身につけ、自立した大人として市民としての責任を持った行動ができる。生涯学び続ける意欲を持つことができる。 （３）チームワークを大切にし、リーダーシップをとることができ、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる。 ４．総合的な学習経験と創造的思考力 （１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 （２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。
カリキュラム・ポリシー	保育学科	保育学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付けた社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。 １．学修方法 （１）教養に関する教育科目、専門・職業に関する教育科目を規程に即して準備し、講義、演習、実験、実習、実技指導等、教育目的に適した形式の授業を実施する。 （２）学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングの教育環境を準備し、可能な限りこの方法を取り入れる。 （３）学内外での行事やボランティア活動、地域連携活動等、実践を通した学びの機会をつくる。 ２．学修内容 （１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目を配置する。 （２）教育職員免許法施行規則に定められている教育内容と単位数を充足する科目を設け、幼稚園教諭賭として必要な最新の知見を取り入れた専門的知識と技能を養うための体系的なカリキュラム編成とする。 （３）児童福祉法施行規則に定められている教育内容と単位数を充足する科目を設け、保育士として必要な知識と技術、及び人間性が身につけられるような総合的なカリキュラム編成とする。 （４）大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育は、多様な入学生が自ら学修計画

		を立て、主体的な学びを実践できるよう、少人数制の「セミナーⅠ」「セミナーⅡ」で実施する。 ３．学修成果の評価 （１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」を保育学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。 （２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 （３）保育・幼児教育の実践者として必要な学修の状況（知識・理解、技能、人間性）について、各教科、実習、日常の行動等を通して総合的に評価する。 （４）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置付け、総括的に評価を行う。
アドミッション・ポリシー	保育学科	保育学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び保育学科の教育内容を理解し、本学及び保育学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。保育学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 １．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 ２．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 ３．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 ４．保育学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。 ５．保育学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	保育学科	保育学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 １．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 ２．学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 ３．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

４-４　専攻科生活文化専攻の３つのポリシー

【１．ディプロマ・ポリシー(修了の認定に関する方針)】

短期大学で修得した専門科目の教育の基礎の上に、衣、食、住、人間関係に関するより精深な専門的理論と技能を教授し、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。

専攻科生活文化専攻では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に修了を認定する。

（１）知識・理解

１）短期大学で修得した専門基礎分野（衣、食、住、人間関係）の上に、より精深な専門的理解と技能を修得している。

２）社会的及び職業的自立を図る上で必要な専門分野について、より高度な知識・技能を修得している。

（２）汎用的技能

１）生活に関する幅広い専門知識とより高度な実践的技能を修得している。

２）社会的及び職業的自立を図るために必要なコミュニケーション能力、汎用的技能を修得している。

（３）態度・志向性

１）個性的な生活づくり、地域社会の文化形成に向けた活動に意欲的に取り組み、リーダーとして積極的に行動できる。

２）個性的な生活づくり、地域社会の文化形成に向けた活動について、理論的に意見を述べることができる。

（４）総合的な学習経験と創造的思考力

１）個性豊かな生活づくり、地域社会の文化形成に必要な視点、提案力を身に付けている。

２）探究心の表れである研究活動の内容を理解し考察することができる。

【２．カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)】

専攻科生活文化専攻では、修了認定に係る要件を身に付け、専門的理論と技能を有する人材を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応した教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するとともにアクティブ・ラーニング、実践活動、研究活動を重視した教育を実施する。

（１）学修方法

１）実施する授業の形態は、講義、演習、実習のいずれか、又は、これらの併用により行う。

２）各授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。

３）授業内容には研究活動に関連する知識、技能が考慮される。

４）地域社会の文化形成に貢献する姿勢を養うため、実践の機会を設けたカリキュラム編成とする。

（２）学修内容

１）幅広い教養や、専門科目との関連性をさらに深める。

２）より高度な理論（衣・食・住・人間関係）を基本にして、応用力、創造力を養う専門的科目を充実させる。

３）４年制大学の卒業論文に該当する「特別研究」を設置することで探究心を向上させる。

（３）学修成果の評価

１）各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。

２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。

３）専攻科生活文化専攻における学修の集大成として、特別研究を位置付け、総括的に評価を行う。

【３．アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針)】

専攻科生活文化専攻では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び専攻科生活文化専攻の教育内容を理解し、本学及び専攻科生活文化専攻の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。本専攻科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。

（１）人の生活（衣、食、住、人間関係）に高い関心を持ち、より専門的な知識・技能を修得し、社会の中核で活躍することを目指している。

（２）専門の知識・技術を自ら実践・応用し、研究活動に取り組むことができる。

（３）地域貢献活動に積極的に参加し、リーダーとして活躍できる。

4-5　専攻科栄養専攻の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	専攻科栄養専攻	短期大学で修得した専門科目の教育の基礎の上に、栄養に関するより精深な専門的理論と技能を教授し健康づくりのための栄養指導を推進できる、優れた栄養士を育成することを目的とする。 専攻科栄養専攻では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に修了を認める。 １．知識・理解 （１）管理栄養士を目指す上で必要な専門基礎分野「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」について理解している。 （２）管理栄養士を目指す上で必要な専門分野について理解している。 ２．汎用的技能 （１）管理栄養士を目指す上で必要な技能を修得している。 （２）栄養指導に必要なコミュニケーション能力を修得している。 ３．態度・志向性 （１）実践となる地域貢献活動に参加しリーダーとして積極的に行動できる。 （２）健康づくりのための栄養指導を意欲的に実行でき、理論的に意見を述べることができる。 ４．総合的な学習経験と創造的思考力 （１）健康のために必要な栄養指導について深く検討し自己評価できる力を身に付けている。 （２）探究心の表れである研究活動の内容を理解し考察することができる。
カリキュラム・ポリシー	専攻科栄養専攻	専攻科栄養専攻では、修了認定に係る要件を身に付け、専門的理論と技能を有する栄養士を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応した教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するとともに、アクティブ・ラーニング、実践活動、研究活動を重視した教育を実践する。 １．学修方法 （１）実施する授業の形態は、講義、演習、実験、実習のいずれか、又は、これらの併用により行う。 （２）各授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。 （３）授業内容には、研究活動に関連する知識、技能が考慮される。 （４）栄養士として地域の健康づくりに貢献する姿勢を養うため、実践の機会を設けたカリキュラム編成とする。 ２．学修内容 （１）幅広い教養や、専門科目との関連性をさらに深める。 （２）より高度な理論（食品・栄養・健康）を基本にして、さらなる実践を積み重ねる。 （３）４年制大学の卒業論文に該当する「特別研究」を設置することで探求心を向上させる。 （４）学士（栄養学）の取得に必要な単位を充足させ、管理栄養士に関わる専門的科目を充実させる。 ３．学修成果の評価 （１）各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。 （２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に GPA の得点が低い学

		生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 （3）専攻科栄養専攻における学修の集大成として、特別研究を位置付け、総括的に評価を行う。

アドミッション・ポリシー	専攻科栄養専攻	専攻科栄養専攻では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び専攻科栄養専攻の教育内容を理解し、本学及び専攻科栄養専攻の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。本専攻科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 1．人の健康・栄養・食物に関心を持ち、より専門性を高めて優れた栄養士として社会の中核で活躍することを目指している。 2．専門の知識・技術を自ら実践・応用し、研究活動に取り組むことができる。 3．地域貢献活動に積極的に参加し、リーダーとして活躍できる。 4．短期大学において栄養士に必要な基本的知識や技術を身に付け、栄養士の資格を取得していることが望ましい。
アセスメント・ポリシー	専攻科栄養専攻	専攻科栄養専攻における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 1．ディプロマ・ポリシーに示す4つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」をカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を4つのレベルでルーブリック評価する。レベル3以上を達成すべき水準とする。 2．学生の学修成果を総合的に判断する指標としてGPAを活用する。特に、GPAの得点が低い学生に対しては、専攻主任が適切な個別指導を行う。 3．専攻科栄養専攻における学修の集大成として特別研究を位置付け、担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定して評価する。

４-６　専攻科保育専攻の３つのポリシー

【１．ディプロマ・ポリシー(修了の認定に関する方針)】

短期大学で修得した専門教育の基礎の上に、保育に関するより高度な専門的理論と技能を教授し、子どもの最善の利益を理解し、推進することのできる保育者を育成することを目的とする。

専攻科保育専攻では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に修了を認定する。

（１）知識・理解

１）保育の本質と目的について広く深く理解している。

２）子どもの心身の健康や発達について広く深く理解している。

（２）汎用的技能

１）子ども一人一人の生活や発達過程に応じた高度で適切な援助ができる。

２）音楽、図画工作、体育等の基礎技能を身に付けて、高度な指導力を有する。

３）社会の多様なニーズに適切に対応できる。

（３）態度・志向性

１）子どもの最善の利益を理解し、推進することができる。

２）正しい価値観と判断力を身に付け、自立した大人として責任のある行動ができる。

３）協働性を重んじ、社会の一員として行動できる。

（４）総合的な学習経験と創造的思考力

１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に、より専門的に活用できる。

２）広い視野で自ら課題を発見し、その課題解決に取り組むことができる。

【２．カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)】

専攻科保育専攻では、修了認定に係る要件を身に付け、専門的理論と技能を有する保育者を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応した教育課程を編成し、学生が主体的に・能動的に学修するとともにアクティブ・ラーニング、実践活動、研究活動を重視した教育を実施する。

（１）学修方法

１）実施する授業の形態は、講義、演習、実習のいずれか、又は、これらの併用により行う。

２）各授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。

３）授業内容には研究活動に関連する知識、技能が考慮される。

４）保育者として地域の子育て支援に貢献する姿勢を養うため、実践の機会を設けたカリキュラム編成とする。

（２）学修内容

１）幅広い教養や、専門科目との関連性をさらに深める。

２）より高度な理論（保育・教育・福祉）を基本にして、さらなる実践を積み重ねる。

（３）学修成果の評価

1）各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。
2）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。
3）専攻科保育専攻における学修の集大成として、特別研究を位置付け、総括的に評価を行う。

【3．アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針)】

専攻科保育専攻では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び専攻科保育専攻の教育内容を理解し、本学及び専攻科保育専攻の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。本専攻科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。

（1）保育・教育・福祉に関心を持ち、より専門性を高めて優れた保育者として社会の中核で活躍することを目指している。
（2）専門の知識・技術を自ら実践・応用し、研究活動に取り組むことができる。
（3）地域貢献活動に積極的に参加し、リーダーとして活躍できる。
（4）短期大学において保育者に必要な基本的知識や技術を身に付け、保育士及び幼稚園教諭2種免許状を取得していることが望ましい。

５．　学科・専攻科の自己点検・評価

５-１　コミュニティ生活学科

コミュニティ生活学科長　海切　弘子

【教育目的】

衣、食、住、人間関係等の生活に関わる幅広い専門的知識と技能を養い、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。

【達成目標】

・社会のニーズに合った学びを提供できる魅力ある学科の創出
・生きた学びと就職力の向上（進路決定率 100%）
・学科教育の見える化による入学者の安定的定員確保（定員充足率 100%）
・卒業までに１つ以上の資格検定取得サポート（取得率 100%）
・教育の質の保証（学生による授業評価アンケート５段階 3.5 以上 100%、卒業時満足度調査４段階３と４で 100%）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）　教学の質の向上

① 学科の継続、発展を担う教員組織の編成

学科の継続、発展を伴う教員組織の編成を行うため、令和 3 年度 1 名の新任教員を学科教員組織に迎えた。カリキュラム・ポリシーにある学修内容を踏まえた教員の引継ぎが行われた。今後も退職を予定している教員が存在するため、学科の方向性と後任教員の要件等について議論を重ね、公募を出す予定である。

② 学生の興味や社会のニーズに適合したカリキュラムの作成

カリキュラムについては、ファションフィールドとフードフィールドを中心に、新任教員と非常勤講師の担当科目を検討した。特に、学生のニーズが高いブライダルや、メイク・ネイル、製菓・調理系の授業を充実させ、非常勤講師科目との連携を取りながら学生を「育てる」教育の展開に努めた。専任教員が分担して非常勤講師の相談窓口となり、授業が円滑に行われるよう配慮し、学年末には非常勤講師の先生方との意見交換の場を活用し、学科教育の推進を図った。

③ 卒業研究発表の充実

新カリキュラムのもと、2 年間の集大成といえる卒業研究の発表形式について検討を行った。コロナ禍の中で、卒業制作ファッションショー、卒業制作パーティともに、コミュニティ生活学科教員のみを招待という形式にした。例年と異なる形式であったが、学生たちにとって、達成感と満足感を得られる発表となった。

卒業制作パーティは、令和 3 年 2 月 6 日、長束キャンパス　講堂にて実施し、卒業制作ファッションショーは、令和 3 年 2 月 23 日、長束キャンパス　講堂にて実施した。

（２） 学生生活支援の強化

① セミナー&チューター制の充実

多様な学生に対するきめ細やかな指導を行った。主にセミナーの時間とオフィスアワーの時間を使い、夢カルテによる各学生の目標設定と振り返りを実施し、人間教育の充実のための生活指導、および進路指導を行った。また、魅力ある多彩な科目を展開し、学生の満足が得られるよう努めた。授業評価アンケートの集計結果をふまえ、非常勤講師を含め学科教員全員の授業検討を行った。評価が低い科目については担当教員への改善を求めるなど教育の質の保証に努めた。授業評価アンケート結果は、教養科目が 5 段階評価で 4.7、専門科目が 4.6 と高評価であった。卒業時の満足度調査は満足 70%、やや満足 27%合わせると 97%の満足が得られ、自由記述も概ね良好であった。

② 入学前ガイダンス、保護者会の充実

令和 3 年度入学生対象の入学前ガイダンスは新型コロナ感染防止のため中止となった。また、2 年生保護者会について、電話による個別相談に変更した。入学時のオリエンテーションは、1 年生は午前中のプログラムで 2 日間実施、2 年生も午前中のプログラムで 1 日実施した。オリエンテーションキャンプについては、「ちぎり絵」を題材としたワークショップを実施した。ライフプランニング教育 1 回目を 5 月 26 日に実施、2 回目を 6 月 23 日に実施した。また、夢カルテの記入指導を含めて、各自の目標設定を中心に指導し、前期終了時と後期終了時に振り返りを行った。

（３） 就職・キャリア支援の強化

① 資格・検定取得サポート体制の強化

実務につながる科目の履修を学生に奨励し資格取得の向上を図った。どの学生も資格や検定を１つ以上取得するよう指導しているが、取得率は 95.8%で目標の 100%を達成することができなかった。学習意欲、GPA が低い学生への対応を学科会議で検討した。資格検定のサポートを積極的に行い、下記のような実績をあげた。

〈資格〉

中学校教諭二種免許状（家庭）2 名

フードコーディネーター3 級　18 名

〈検定〉

医療事務メディカルクラーク（医科）23 名、食品衛生責任者　8 名、

サービス接遇実務検定 2 級 11 名、ワープロ検定試験 1 級 1 名、準 1 級 3 名、2 級 11 名、準 2 級 20 名、3 級 10 名、

表計算検定準 1 級 1 名、準 1 級 1 名、2 級 5 名、準 2 級 5 名、3 級 5 名、

ファッション販売能力検定 3 級　13 名、パーソナルカラー検定 3 級　25 名、

フォーマルスペシャリスト認定試験ブロンズライセンス 16 名、色彩検定 3 級　26 名、

秘書技能検定 3 級 14 名、文書デザイン検定 2 級　1 名、

アソシエイト・ブライダル・コーディネーター(ABC)検定　13 名

② 進路決定にかかわるキャリア支援体制の充実

進路決定率の向上を図るため、キャリアサポート科目「ビジネスワーク論・演習」「就職対策講座Ⅰ・Ⅱ」「生活とマナー」等の科目を実施した。また、チューターによるバックアップ体制の強化を行い、学生の内定状況を学科会議で報告し、未決定の学生に対して情報交換を行い、就職支援体制を強化し、進路決定率100%を達した。

（4） 地域連携・国際交流の推進

① 地域ふれあい体験会の実施

新型コロナ感染症予防対策のため実施せず

② 地域公民館での公開講座実施

新型コロナ感染症予防対策のため、公民館からの公開講座依頼数が減り、コミュニティ生活学科教員担当の講座の実施はなかった。

③ ボランティア活動の推進

2年生が、毎年「ワクワクながつかとうべえ祭り」の実行委員となり、地域の活性化に貢献していたが、今年は新型コロナウィルス感染症の影響により祭りは中止となった。今年の実行委員となった8名が、祭りのメイン企画「絵本のリサイクル」を実施した。絵本・児童書560冊が集まり、親子連れで80名を超える方に来ていただき、大変好評だった。

（5） 研究と教育のダイナミックな連携

① 外部資金が獲得できる専門教育の充実

進展なし。今後前向きに取り組んでいきたい。

③ 研究成果の公表

本学科教員の古川博仁教授が 「データサイエンス教育に関するいくつかの提言―データサイエンスとマイ・ティーとイング・ポートフォリオの対比から―」を投稿し、髙橋佑子講師が「パーソネルカラーの学びがワードローブに与える影響―パーソナルカラー論・演習を通して―」を投稿し、広島文化学園短期大学紀要に掲載された。

（6） 広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパス、大学案内、ホームページの充実

オープンキャンパス、大学案内、ホームページ等について内容の検討を継続し、学科教育の「見える化」を図った。新型コロナ感染予防対策のため、5月のオープンキャンパスはWeb形式で開催され、6月、7月、8月、9月に実施したオープンキャンパスは感染予防対策を徹底し、対面式で実施した。7月のオープンキャンパスは学生が人前結婚式を行い、華やかなプログラムとなり、大変好評だった。学科の教育内容の魅力を伝える充実した時間を提供できたと思われる。また、6月7月8月に大学・短大説明会を1回ずつ合わせて3回実施した。ミニオープンキャンパスを5回、2月には冬のオープンキャンパス、3月には春のオープンキャンパスを実施した。特に、学生が出演した6、7、8月のオープンキャンパスが好評だった。毎回メインプログラムを2つ組み立てて、充実した内容を実施することができ、定員を超える入学生につながったと考えられる。

② 春の家庭科教諭訪問

予定していた 12 校の家庭科教諭訪問を実施した。在学生と卒業生の近況報告ができた。

③　高大連携講座等への積極的取組

8 月 19 日に高大連携公開講座を実施した。

「生活の中の色彩と似合う色の見つけ方」「おいしく食べてからだの中からきれいに」「ビジネスマナー講座」を実施し、合わせて 19 名の高校生の参加があり好評だった。

④　家庭科教員対象の公開講座実施

新型コロナ感染症予防対策のため実施せず

高等学校からのキャンパス見学の要望に応え、学科ガイダンスや模擬授業を行った。高等学校訪問しての職業体験授業、オンライン進路ガイダンスにも積極的に取り組んだ。実施した活動は下記の通りである。

〈キャンパス見学〉

10 月 19 日　山口県萩光塩学院高等学校

10 月 27 日　広島県立黒瀬高等学校

〈授業および進路ガイダンス〉

9 月 2 日　広島県立世羅高等学校(オンライン)

9 月 4 日　山陽女学園高等学校(オンライン)

10 月 14 日　広島県立上下高等学校

10 月 18 日　島根県立邇摩高等学校(オンライン)

3 月 9 日　広島県立熊野高等学校

【総合評価】

・授業評価アンケート 5 段階評価で 3.5 以上 100%の目標は達成できた。

・最終的な進路決定率は 100%の目標値を達成できた。毎週行う学科会で学生の内定状況、就職活動状況を報告しあっているが、今後ともキャリアセンターとチューターが連携を取りながら実績をあげていきたい。

・資格・検定の取得率は 83%で目標の 100%を達成することができなかった。原因の一つは、入学当初のモチベーションの維持ができず、卒業単位取得で精いっぱいの学生がいることがあげられる。また、入学時に学力の低い学生は勉強の仕方そのものがわからないなど、検定試験で成果を上げにくい実態がある。

・2 年間の学生生活についての満足度調査は概ね良好であった。特に、遠隔授業と対面授業との混在する 2 年間を過ごした 2 年生の満足度調査結果を見ると、満足度総合評価は、高評価を維持しており、自己点検項目ではすべて上がっていた。今後とも、学習者中心の「育てる」教育をきめ細やかに行っていきたい。

・オープンキャンパスの実施にあたっては、学科教育の特色を高校生にわかりやすく興味を持ってもらえるよう資料作成も含めてより質の良いプレゼンテーションを実施することを努めている。結果として、オープンキャンパス、大学・短大説明会に参加した高校生の入学者が大多数を占めており、参加した高校生の求めているものに応えられているといえる。

５－２　食物栄養学科

食物栄養学科長　村田 美穂子（食物栄養学科　教授）

【教育目的】

食と健康に関わる専門的な知識と技能を養い、栄養士として健康的で人間性豊かな生活づくりを指導できる人材を育成することを目的とする。

【達成目標】

・定員充足率（100%）
・栄養士免許の取得（100%）
・学生による授業評価（満足度評定 3.0 以上の科目割合 100%）
・「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足 90%以上）
・卒業時点での進路決定率（100%）
・食の専門職への就職率（就職者の 80%以上）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）教学の質の向上

① 調理技術向上を目指した取組の実施

本学科では、調理のできる栄養士になることをめざし、入学直後から基礎的な調理技術を身に付けるため、授業時間外に時間を設定して、調理技術支援講座「チャレンジ！調理講座」を毎年実施している。本年度の調理技術支援講座は、１年生を対象とし、前期の「調理実習（初級)」の実技試験についての支援が必要な者を中心に個別指導を実施した。月に１回程度で前期は３回実施し、調理技術を学ぶ意欲を高めることができたと考えている。

② ICT を活用したアクティブ・ラーニングの推進

ICT を活用したアクティブ・ラーニングを推進するため、試食室に学科専用の書画カメラを設置し、授業での解説や学生達のプレゼンテーション等に活用した。

また、昨年度に続いて、C-Learning によるオンライン授業を授業担当者全員が実施した。対面授業に加えて、オンライン授業を実施したことにより、教員はこれまでの授業の実施方法や教材等の見直しを行い、効果的な手法を意識し、授業の改善に繋がった。

③ 入学前教育の充実

入学前教育として、入学予定者に学科作成冊子の送付および通信教育を実施している。本年度は、12 月から 3 月まで、随時実施した。

学科作成の冊子については、セミナー＆チューター制や入学までにしておくべきことなどがよく分かったとの感想をいただいている。

通信教育は、入学後に必要となる知識を復習させるため、学科の教育内容に関連する記事についての感想文（今回は「食を通じた地域貢献（ボランティア活動)」について)、学科教員が作成した問題（理科（化学・生物)、計算、国語）を送付し、解答を返信させる形式で実施した。解答の返信率は 100%であったが、誤解答も多く、学科教員で学生の情報を共有しながら、入学後にフォローすることにしている。

また、入学前ガイダンスを令和 4 年 3 月上旬に実施予定で計画していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の対応の一環として、中止とした。ガイダンスに代わり、文書にて、中止連絡をするとともに、入学してからの学生生活の様子や今後の予定、さらに保護者対象の学科からのお願いなどを通知し、その後は個別の質問等に対応した。

④ 卒業研究と卒業研究発表会の充実

卒業研究は、2 年次に通年でセミナーのチューターによる指導で行っている。卒業研究発表会は令和 4 年 1 月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、通常の学会形式の全員参加による発表会は中止した。令和 4 年 1 月は、対面授業は制限されており、オンライン授業を基本としたため、卒業研究は学生の登校日を定めて対面で研究を完成させた。学生達は指定日（2/3（木））に日頃の研究成果をまとめ、口頭発表を行った。発表は 6 テーマであった。発表日は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら、セミナーごとに時間帯を区切って指定教室にて発表を行い、動画を撮影し記録した。後日(2/9(水))、その様子を学科学生はセミナーごと、学年別に視聴し、発表の成果を共有した。動画は DVD に編集し、卒業時に 2 年生に配付し、保護者が視聴できるよう対応した。

⑤ 正しい栄養知識の修得と人間力のアップ

実験・実習にスムーズに取り組めるように、１年生を対象として実験で使用する器具機器類の取り扱い方を指導する基礎実験講座を毎年行っており、令和４年２月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、本年度は中止した。

栄養士として必要な知識を身に付けるため、毎年１２月に行われている栄養士実力認定試験を 2 年生が受験している。栄養士実力認定試験とフードスペシャリスト資格試験の対策として、「栄養演習Ⅱ」（選択科目、２年後期）を開講している。栄養士実力認定試験は２年生 39 名が受験した。試験結果は、受験生に配付し、今後の課題を確認させるとともに、学科の教育の改善のための指標としている。受験した各科目とも短大の全国平均を上回ることを目標としたが、残念ながら達成することができなかった。また、フードスペシャリスト資格については、8 名が受験し、5 名が合格した。

学科では、リーダー養成として、２年生から希望者を選出し、１年生のオリエンテーションキャンプに参加して企画、運営を行うことでリーダーとしての能力を養うことにしている。本年度はオリエンテーションキャンプが中止となったため、リーダー養成は十分に実施できなかったが、準備の段階で作成したキャンパスライフの資料については、１年生に紹介する機会を設け、発表することができた。

さらに、自主運営活動として、学科行事の担当者として企画運営を行うことにより、コミュニケーション能力を養うことにしている。オープンキャンパスや栄養士研究会（11/27（土））を実施し、係の学生が活動した。しかしながら、その他の行事であるあかね祭、とうべえ祭り、1.2 年生学科交流会などは、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止されたため、この活動は実施できなかった。

（２）学生生活支援の強化

①セミナー＆チューター制によるきめ細かな学生指導

本年度は、１年生は 5 月までにセミナーを決定し、その後はセミナーごとにチューターが個別の学生の状況をいち早く察知し、早めの対応を心がけた。2 年生には個別に就職や進学の進路支援及び生活指導を行っている。

② 保護者との連携強化（保護者会の実施）

保護者との連携を強化するため、1 年生の保護者には 6 月に担当するチューターを通知している。1 年生の保護者を対象とした保護者会を毎年 3 月に実施しており、本年度も実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、本年度は中止した。保護者には、本学の学生生活に関連する行事や進路支援などについての資料を送付し、その後はチューターが必要に応じて保護者に対応することにした。

（３）就職・キャリア支援の強化

①キャリアセンターと連動したきめ細かな進路指導による進路決定率 100%の維持

卒業時進路決定率 100%、そのうち食の専門職への就職率 80%以上をめざし、キャリアセンターと連携して進路指導を行った。その結果、本年度の進路決定率 100%、食の専門職への就職率は 84.2%で、目標とする 80%以上を達成することができた。

②卒後教育としての「管理栄養士国家試験対策講座」の実施

卒業生の支援として、毎年管理栄養士国家試験対策講座を実施している。本年度は 9 月から 2 月までの計 5 回、模擬試験を 2 回（11 月と 2 月）に実施した。受講申込者は 11 名（卒業生）であった。本年度の受講生から、2 名の合格者が出ており、管理栄養士を目指す卒業生にとっての励みとなっている。

（４）地域連携・国際交流の推進

① 地域住民との継続した連携事業の実施

１年生を中心に地域の高齢者を対象としたお弁当配食サービスとクリスマス会を毎年行っている。本年度のお弁当配食サービスは、1 月を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となった。また、クリスマス会は会食を伴うため、中止し、代案として 12 月 9 日（木）に、学生手作りのお菓子をクリスマスイベントとして、高齢者に届けた。受け取られた高齢者の方々には大変喜んでいただき、学生にとっても貴重な体験となった。

② 企業との連携強化

本学科では、地元の企業と連携しながら、地元野菜「祇園パセリ」の普及啓発活動のために江坂セミナーの卒業研究のテーマとして継続しており、これまでフードフェスティバルや農業祭への参加、㈱フレスタの店舗を使用した「食育講座」をこれまで開催してきた。本年度は 8 月 30 日の種まき作業には学生 4 名が参加した。11/13（土）には、JA 広島市レディースクラブ（武田山支部）より依頼があり、学生 4 名が講師となって料理教室を実施し、好評であった。一方、フレスタ店舗での食育講座、フードフェスティバル、農業祭は中止となった。

（５）研究と教育の発展的連携

①学会誌や紀要への研究成果の投稿推進

学科教員から本年度は紀要に１編投稿があり、掲載された。毎年１編以上の投稿を継続している。

（６）広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパスの内容充実と参加者の受験率アップ

オープンキャンパスの内容について、学科教員で内容を充実させるため、学生の学生生活を動画やスライドなどで紹介できる資料の作成を行った。また、広報のために、令和 3 年 3 月に「栄養士の魅力」に加え、新たに長年研究で開発した「祇園パセリ」のレシピを紹介する冊子を作成したので、本年度はこれを学生募集活動に使用し、オープンキャンパスや高校ガイダンスなどにおいて配付し、活動に役立てた。

②高校ガイダンスへの積極的な協力

本年度は依頼のあった高校（8 校）のうち、4 校には積極的に出向き、本学科の魅力について説明した。また、4 校はオンラインで参加し協力した。

③高校家庭科教員との信頼関係の強化

高校生対象のお弁当献立コンテストは実施した。応募は 16 校（昨年度は 20 校）、応募献立 81 点、メッセージカード 82 点）であり、審査後、受賞作品を HP で発表した。

高校家庭科教諭対象公開講座は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえて中止とした。

また、3 月の春の高校訪問は、本年度も実施した。学科の教育内容や栄養士の魅力を伝えるとともに、出身者のいる高校には、本学の卒業生からのメッセージや在学生の情報などを伝えて、家庭科教員との信頼関係の強化に努めた。

【総合評価】

・定員充足率については、入学予定者は 41 名であり、定員充足率は 82%であった。定員割れが続いているため、今後の学生募集に力を入れたい。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、オープンキャンパスやガイダンス等での広報活動が十分できなかったことや、本学科の魅力を伝える機会が昨年よりも減少したことなども影響したと考えている。

・栄養士免許の取得については、希望者 36 名は一括申請で全員取得した。なお、卒業生 40 名のうち、申請しない 4 名のうち、個人申請予定者は 2 名であり、合計 38 名（95%）が取得する。本学科は、栄養士養成施設であることから、入学当初は全ての学生に対して栄養士免許取得をめざした対応を行っているが、様々な理由により免許取得は困難と判断した場合には、卒業のみをめざし、その後の進路について、キャリアセンターと協力して対応している。

・学生による授業評価では、満足度評定 3.0 以上の科目割合 100%を学科の目標としており、前期後期とも全科目において達成していた。本年度も、昨年に続いて C－Learning によるオンライン授業と対面授業の併用による授業形態で実施したが、教員による教材研究や実施方法の改善等により、学生にとって満足度の高い授業が実施できたものと考えている。

・「学生生活の満足度調査」については、２年間の学生生活の満足度を卒業時に確認し、総合的

な満足度として、「満足」と「やや満足」をあわせて、90%以上を目標としている。卒業生の総合的な満足度は「満足」が 29%、「やや満足」が 55%であり、合計 84%であり、目標には達していなかった。卒業生は入学時から、新型コロナウイルス感染症予防対策のために、様々な制約があり、各種行事も中止されたこともあり、学生生活に大きく影響したものと考える。その一方で、授業やチューターのサポート体制、就職支援体制などには満足しており、本学のきめ細かな学生支援が評価されたものと考える。また、1 年生の総合的な満足度は 93%であり、卒業生に比べて満足度は高く、学科の目標とする 90%を超えていた。引き続き、学生の満足度が高くなるよう支援したい。

・卒業時点での進路決定率は、100%であり、目標は達成できた。チューターが担当する学生と頻繁に面談を行い、適切なアドバイスを行っていることや、キャリアセンターの丁寧な個別指導などがこの結果に繋がっていると思われる。

・食の専門職への就職率は、就職者の 80%以上を目標にしているが、本年度は 84.2%であり、本年度も昨年度に続き、達成することができた。今後もキャリアセンターと連携しながら、個別支援に取り組みたい。

5－3　保育学科

保育学科長　清見 嘉文

【教育目的】

保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を養い、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成することを目的とする。

【達成目標】

・幼稚園教諭二種免許状取得（100%）
・保育士証取得（100%）
・就職率 100%、その内専門職比率（90%）
・学生による授業評価（3.5 点以上(5 点満点)の科目の割合 70%以上）
・２年間の学生生活についての満足度調査（卒業時満足度アンケート　平均 3.5 点以上(4 点満点)）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）教学の質の向上

① 高い倫理観、深い人間観、広い社会観を持った学生の育成

初代学科長考案の「実習訓」には、実習に限らず、社会人としての基礎があらわされている。本学科ではこれを修得させることにより、人間教育の充実を目指している。日常的に実習訓の理解促進を図り、その精神に沿って学習が進むよう、入学前から指導している。令和 2 年度も一定の成果を上げた。具体的には、学内の複数個所に掲示物で提示し、行事や授業の中での指導を継続している。引き続きその方針を続けていく。

また、教育・福祉の仕事に従事する者にはボランティア精神の涵養が重要である。また、保育の仕事において、協働の重要さの理解も不可欠である。そのための取り組みの１つとして、１年生には、「子育て支援」「福祉援助」「災害救援」「社会・地域貢献」「学習体験」の５領域の活動から、２領域以上、２回以上の条件でボランティア活動を課している。掲示板に活動の募集を掲載し、活動への支援をしている。令和３年度は新型コロナウィルス拡大のためボランティアの場が確保できず、このボランティア活動は残念ながら中止した。

② アクティブ・ラーニングの推進

各科目で可能な限りアクティブ・ラーニングの手法を取り入れて実施した。講義、演習など、授業科目の性質にもよるが、事例としては、「教職概論」（予習を課し、予習内容に基づいて議論、自己評価・他者評価を実施し、確実な学修を目指す）などがあげられる。その他にも、様々な取組が行われ、２月末を目途に学科のまとめを行った。そこには、反転学習、模擬保育の実践、グループトークの利用、ワークショップ、実技を通して理論の理解、など様々な工夫の実績が示されている。令和４年度も引き続き実施し、主体的学習が進むよう努力する。

③ 音・図・体を主とした技術力と指導力の向上

保育の場において、指導者に音楽・図画工作・体育の技術力は欠かせない。さらに発達を鑑みて適切に指導できる力量を育成することも重要である。カリキュラムにおいても学習の進展などを考慮している。さらに、個々人の指導力をつけるために、幼児体育指導者（２級）検定の講習会を実施している。令和３年度は 8 月 19,20 日に検定講習を実施した。１年生 14 名，２年生 17 名,合計 31 名が受講し全員が合格した。

また、授業における身体表現、美術における造形表現、器楽（ピアノ）を中心とした音楽表現、それぞれの科目で、確実に表現力を伸ばす取組を行った。赤十字幼児安全法支援員の講習は、新型コロナウィルス拡大のために開催が見送られ受講できなかった。

（２） 学生生活支援の強化

① 入学前課題の提示

保育者を目指すためには高等学校までの基礎学力は欠かせない。加えて、保育への橋渡し（ピアノ実技や絵本の知識）を含めた、入学前の準備が重要と考えている。令和 3 年 12 月上旬、総合選抜（AO)、学校推薦型選抜の入学予定者 59 名に、将来の夢を描く、ピアノ、絵本、漢字などの課題を送付した。その、各入学者選抜終了後に入学予定者へに送付した。専門教育をスムーズにすすめるためには、高等学校までの基礎学力は言うまでもなく、社会事象を正確に把握する意欲や、社会事象に対する視野を広げる努力が必要である。入学前課題の中に取り入れた。入学前課題は今後も継続して取り組み、充実させたい。

② セミナー&チューター制を中心とした支援体制の充実

学生の状況をいち早く把握し、課題となる事項については学科会で情報を共有するとともに、対応策を協議・決定し取組を進めてきた。、コロナ禍による円滑な大学生活が難しい学生や進学目的が不明確な学生等、多様な課題を抱える学生が増え、各チューターの懸命な働きかけにもかかわらず、退学者５名、休学者４名の結果となった。各学生の状況をさらに細やかに把握し、学生にとって最善の方向性を見出すよう努めていく必要がある。

③ 保護者との連携強化

第 1 回目の保護者会を大学祭期間中の２日間に予定していたが、大学祭が中止となったため保護者会も中止した。

年度末には、計画通り１年生の保護者を対象に実施した。１８組の保護者に対してチューターが電話で連絡し、大学生活や就職活動等についての懇談を通して今後の学生生活や就職への不安の解消に努めた。

（３）就職・キャリア支援の強化

① キャリア教育（資格取得支援）の充実

社会人としての責任を果たすこと、将来の生き方を真剣に考える態度を育てるために、キャリアセンターと共同してキャリア教育を進めている。１年生は、10 月 13 日に基本的なマナーに関する講座を実施した。社会人として必要なマナー、身だしなみ、敬語の使い方等を具体的に学習し、実習に備えるよう努めた。令和 4 年度も引き続き実施する。本年度の進路決定率は 100％であった。専門職比率も約 96％を超える学生が保育・福祉関係の専門職に就いた。チューターとキャリアセンタースタッフが緊密に連携をとり、一人ひとりの状況に合った就職・進路指導を行い成果を上げている。

② 卒業生への相談の場や情報等の積極的な提供

卒業生が学科に誇りを持ち再就職の相談にも訪れる、そのような学科でありたいと考えている。今年度、卒業時に実施する満足度調査では、概ね 90%の学生が満足している。これまで通り学生と教員の信頼関係を大切にした細やかな支援に努めるとともに、更に、学生一人一人の思いや願いに立つ支援を進めていきたい。学生とのコミュニケーションツールの１つである「夢カルテ」の記入は 100%を達成した。今後も取り組んでいきたい。

新型コロナウィルス拡大のため、本年度のホームカミングデイはすべて中止した。卒業生に関する動向を注視し、可能な支援に努めていきたい。

（４）地域連携・国際交流の推進

① ボランティア活動の推進（前掲）

前述

② 地域貢献活動の推進

参加を予定していた「地域の夏祭り」「とうべえ祭り」共に中止となった。

（６）広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパス、大学案内、ホームページの充実

１）オープンキャンパスの充実

昨年度の保育学科改革プロジェクト会議の提言に基づき、学科の強みを「①マンツーマンのピアノレッスン②豊富な体験学習③プラスαの資格取得支援」の３点に絞って積極的なアピールに努めるとともに、学科教員のサポート態勢について伝えていった。参加者の感想等から､その意図は概ね理解されているように感じている｡さらに令和４年度からは、セミナー・卒業研究において各常勤教員が１つ担当する保育技術をセミナー生が習得することを通して強みを身に付けさせる「8 ビート作戦」の取組をアピールし、学科のさらなる魅力アップにつなげていきたい。

２）大学案内の充実

オープンキャンパスの改善点と合わせ、学科の強みを一層強調し、その内容に沿って説明を行うことができる内容になるよう検討した。

３）ホームページの充実

コロナ禍のため、行事がすべて中止となって伝える内容が乏しい中、限られた素材をもとに可能な限りの充実を図っていった。更なる充実に向けて、一層の検討が必要である。

② 保育職のイメージ向上に向けた高等学校等への積極的な情報提供

１）高校訪問

短大３学科合同の高校１１校、学科独自の高校９校を訪問した。在学生や卒業生の近況を中心に伝えることで、一層の信頼関係を築くことができよう努めた。

本年度から連携協力高の山陽女学園高等部と、本格的な連携事業をスタートした。令和元年度に発足した山陽女学園の子ども教育コース２年生に対して、保育の仕事に対する夢や憧れがより深まるよう、年間 6 回の出前授業を行うよう計画したが、新型コロナウィルス拡大のために 4 回の実施に終わった。

また、１・２年生の出身高校に向けては、大学での活動の様子を写真に取りメッセージを添えて「フォトレター」として届けた。

２）高校家庭科教員との連携

短大 3 学科合同で行う高校家庭科教員対象公開講座は中止となった。

（７）体験学習による現場力の育成

① 学科行事や体験活動を通した学生リーダーの育成

例年の行事の多くを中止せざるを得なかったが、学生リーダーは組織し、学内で３密を防ぎながら行える活動を進めた。1 年生対象のオリエンテーションキャンプは学内実施とし、４月３０日にリーダーの企画のもとに練習を重ね行った。この活動により、リーダーとしての主体的な意識が育っていったように思われる。

② 実習前教育、模擬保育等の充実

１）実習基礎の育成

6 月の保育園実習を 11 月に延期したため、基礎的な力を付ける取り組みを細やかに進め、希望者の実習をすべて終了することができた。また、2 年生の実習での経験は、グループごとに発表資料としてまとめ、2 年生が 1 年生に実習での気付きを伝達する「実習報告会」を行い、2 年生にとっては実習を振り返り整理し、1 年生にとっては実習への疑問や不安を解消する実りの多い学習機会となった。

２）実践力の育成

保育の現場では「指導案」を立てる力量が問われる。そこで、指導案を立て、模擬保育を実施し、きちんと振り返りをすることが重要となる。前期には、授業「教育実習」「保育実践演習」「造形表現Ⅰ」「幼児体育Ⅱ」「子どもの食と栄養Ⅰ」などの科目で、後期には、「保育内容総論」「教職実践演習」「造形表現Ⅱ」「幼児体育Ⅰ」「子どもの食と栄養Ⅱ」等の科目で保育指導案を立て、3 密に配慮しながら模擬保育を実施した。全員がその技術を修得できるように指導したことで、実践を行うに当たっての貴重な学びとすることができた。

【総合評価】

学科としては、幼稚園教諭免許状と保育士証取得の 100％を目指しているが、幼稚園免許で３名、保育士証で２名が未取得となった。進路変更等の事情によりやむを得ない面もあるが、入学時の目標を可能な限り叶えることができるよう支援していきたい。

進路決定率 100％・専門職比率 95％を目指し、いずれも達成することができた。

学生による授業評価 3.5 点以上(5 点満点)の科目の割合を 70％以上とすることは、例年通り達成できた。授業評価では概ね良い結果を得ているが、今後に向けてさらに授業担当者意見交換会等で授業担当者に教学関係の要望を伝え、授業の質的向上を目指していきたい。

２年間の学生生活についての満足度調査では、約 90％の学生が教員のサポートに満足しているという結果であった。特に、チューターを中心として、学生との信頼関係は概ね築くことができたものと考えている。今後もさらに一人一人への支援を充実させていきたい。

5－4　専攻科栄養専攻

食物栄養学科長　村田 美穂子（食物栄養学科　教授）

【教育目的】

短期大学で修得した専門科目の教育の基礎の上に、栄養に関するより精深な専門的理論と技能を教授し、健康づくりのための栄養指導を推進できる、優れた栄養士を育成することを目的とする。

【達成目標】

・学士（栄養学）の取得（100%）
・管理栄養士国家試験の受験資格に係る実務２年相当の単位取得（100%）
・積極的な地域貢献活動への参加（100%）
・進路決定率（100%）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１） 教学の質の向上

①専門性を活かした科目設定

専門性を活かした科目を設定しており、本年度は変更なかった。

②管理栄養士国家試験対策の実施

卒後支援として、管理栄養士をめざす卒業生のサポートを行うことを目的として実施している。平日に年間 5 回（９月～２月）の講座を実施した。受講生は 11 名であった。また、より実践に近い状況で試験対策に取り組むため、模擬試験を 11 月（5 名）と 2 月（6 名）に実施した。専攻科学生１名は２月の模擬試験のみ受験した。対策講座の受講生のうち、２名が管理栄養士国家試験に合格しており、専攻科や食物栄養学科の卒業生の支援教育として継続したいと考えている。

（２）学生生活支援の強化

①教員による個別指導の充実

個別の履修指導は専攻科主任を中心に指導した。専攻科修了や管理栄養士国家試験に必要な単位数の修得については、説明して理解を得られた。

②学生生活の満足度アップ

学科活動や授業外で体験できる活動を研修し、様々なスキルをアップすることで学生生活全体を通して満足度を上げることを予定していたが、本年度は新型コロナウイルス感染症感染予防のため、学外のイベントに協力参加できなかった。

（３）就職・キャリア支援の強化

①専門知識を活かせる進路指導の充実

２年生１名には具体的な就職活動支援を行った。

②キャリアセンターとの連携

キャリアセンターと指導教員とが連携して本人の希望を活かせる進路指導を行ったが、修了時では、進路は決定しなかったため、引き続き継続して支援を行う。

（４）地域連携・国際交流の推進

①地域行事（健康相談、栄養相談）に参加

地域に係る行事、特に健康相談、栄養相談への積極的参加し、骨密度測定や健康相談などに参加し、実践的な健康・栄養についての相談に応じることで臨床的な知識を深める予定であったが、本年度は行事が中止となったため、参加できなかった。

（５）研究と教育の発展的連携

①中間報告会、特別研究報告会の実施

２年間を通した研究活動を充実させるとともに、論文として表現し、その成果を中間報告、そして最終報告する。その中で、課題を見つけ、短大、専攻科の研究活動の集大成としている。本年度の中間報告会は 9 月 24 日（木）、特別研究報告会は 2 月 10 日（水）に実施した。

②学士（栄養学）取得支援強化

大学改革支援・学位授与機構から授与される学士（栄養学）の取得については、学生が希望しなかった。

（６）広報・学生募集活動の強化

①短大生への広報活動の実施

本年度は、短大の学生への広報活動は実施しなかった。

②進学希望者の有無を確認

チューターを通して食物栄養学科学生の進路相談の面談をし、進学希望の理由や将来の目標を把握しながら進学支援を実施しており、本年度は専攻科への進学を希望している学生はいなかった。

【総合評価】

・専攻科修了時の学士（栄養学）取得率は 100%をめざしていたが、本年度は学生の学位取得の希望がなかった。

・管理栄養士国家試験の受験資格に係る実務２年相当の単位取得（62 単位）は、専攻科の全学生に目指してもらいたいと考えており、修了生１名が必要単位（62 単位以上）を取得した。。

・積極的な地域貢献活動への参加については、本年度は多くのイベントが中止となっており、参加できなかった。

・専攻科修了後の進路については、管理栄養士国家試験の受験資格を得るためにも、栄養士の実務経験となる就職をめざしている。本年度の修了生１名は、本人の思いを確認しながら、キャリアセンターと連携し、就職活動支援を行った。

６．　組織ガバナンスの強化

６－１　組　織

法人事務局長　安藤　充昭

【行動方針】

学園のガバナンスを改善・強化するため、中期経営計画の定期的な見直し、理事会機能等の充実、法人情報の公開の推進を図る。

理事長の指揮統率力の強化を図るとともに、学園組織の継続的な見直しと機能強化、職員の資質・能力の向上と意識改革を進める。

【達成目標】

・全職員による中期経営計画の見直しと改訂（毎年度）
・法人情報の公開の推進（令和元年度公開情報以上の情報を公開）
・各部署における中期経営計画に基づく長期行動計画の作成と実行（毎年度）

【取組内容の実際及び評価】

（１）学校法人のガバナンスの強化

①中期経営計画の毎年度の見直しと改訂

中期経営計画Ⅳ令和３年度改訂版を４月１日に全職員に配布した。７月から９月末までの間で行ったSWOT分析結果を見直しに反映する。中期経営計画Ⅳを推進する令和３年度のプロジェクトを10月に設置して半年間にわたって令和４年度改訂版の検討を行い、令和４年３月の理事会・評議員会に諮って承認を得た。

②学校法人広島文化学園ガバナンス・コードに基づく適切なガバナンスの確保

４月１日の合同職員研修の中でガバナンス・コードの周知を行った。また、令和２年度の実施状況を評価し、本学園のホームページで公表した。ガバナンス・コードの一部修正を行い、令和４年３月の理事会・評議員会に諮って承認を得た。

③学内･学外理事の役割分担の明確化

今年度は役員改選が行われていないため、役員の役割分担は昨年３月に決定したとおりである。理事協議会では、昨年９月はセンターの現況説明、12月はアンケート調査結果を協議題として理事から意見を聴取した。令和４年度の役割分担は、令和４年３月の理事会・評議員会に諮って承認を得た。

④監事機能の充実

監事は、本年度開催した理事会８回、理事協議会４回、評議員会３回の全てに出席している。７月に開催された監事協議会で今年度の監査計画を作成し、重点計画（人間健康学部の運営状況及び人間健康学研究科設置過程の検証など５項目）を明記した。この計画に基づいて７月から毎月業務監査を行っており、令和３年度決算が確定する令和４年５月ま

で継続して実施する。

⑤評議員会機能の充実

本年度開催した3回の評議員会では、一部の人事案件を除き理事会に提出した議案や報告と同じ情報を提供した。3月1日現在での外部評議員の割合は7割を超え、昨年度同時期の割合を維持している。

（2）法人情報の公開の推進

①貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監査報告書等の公表

学園ホームページ内の「学園運営」で、財務の状況等の情報を公表している。各事務所においても閲覧に供せる状態にしている。

②寄附行為、役員等名簿の公開

学園ホームページ内の「学園運営」で、寄附行為、役員等名簿等の情報を公表している。各事務所においても閲覧に供せる状態にしている。

（3）理事長の指揮統率力の強化

①理事長が参画する学園経営企画会議、入学支援センター会議等を通じた経営意識の共有や理事長指示に対する迅速な対応

①学園経営企画会議は原則毎月2回、入学支援センター会議は毎月1回開催し、学園の重要事項について協議している。議事概要は、各キャンパスの教授会等で常に議事録を基に報告して共有化するとともに、指示事項等について迅速に対応している。

②迅速で的確な理事長判断を促すための報告・連絡の強化

②口頭、電話、HBGメール、報告カード等様々な方法で、理事長に対する報告・連絡を行い、迅速な意思決定に繋げている。特に新型コロナウイルス感染症対応において、感染拡大の可能性がある時は対策本部会議を早急に開催し、迅速で的確な対応を行っている。

（4）職員の意識改革

①各種研修会、セミナー、研究会等への参加による職員の知識、技術、職務意識の向上

新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、昨年度に引き続き、各種研修会、セミナー、研究会等へオンライン参加で知識・能力の向上を図っている。12月には研修参加職員が講師となるSD研修会（学外研修報告会）を実施した。また、他大学（大手前学園）にも参加いただき、オンラインSD研修を実施した。

②就職支援や学生支援等への事務職員の参画など教職協働による大学運営力の強化

就職・キャリアセンターや学生生活支援センターの室長は事務職員とし、メンバーにも事務職員が参画している。キャリア・カウンセラー、カリキュラム・コーディネーターの養成はいずれも未実施である。

③学園・大学運営や業務への明確な目標設定と組織的な対応による、職員の意識・能力の向上と経営感覚の醸成

各部署において年間及び月間業務予定表を作成し、業務の進捗管理を行っている。6月

及び 12 月から 1 月に職員面談を実施し、目標設定と円滑な業務遂行を図った。

（５）組織運営の充実・強化

①学部・学科間、キャンパス間を横断した大学運営のための各種センター機能の充実

7 月から 9 月末までの間、各センターで SWOT 分析を行った。分析結果は翌年度の事業計画や予算を立案する際のエビデンスとして活用するとともに、分析結果を基にして必要な見直しと具体的な戦略の実施を行っていく。

②大学、学部・学科、センター等各部署における、中期経営計画に基づく長期行動計画の作成・検証による PDCA サイクルの確立

今年度の事業計画に基づいて各部署で事業を実施しており、令和 3 年度中期経営計画Ⅳ中間報告書で前半期の検証を行い、本報告書で本年度の検証を行う。各時期での検証結果は、次年度の事業計画や予算に反映している。

（６）FD･SD の推進

①FD・SD 研修の内容を一層充実させることによる、本学の運営に必要な知識・技能の習得と能力・資質の一層の向上

4 月 1 日の辞令交付等の行事に併せて合同職員研修、新任者研修等を実施した。5 月に本年度の SD・FD 研修計画を作成した。会計・庶務の SD 研修会は 7 月以降 2 月まで概ね毎月実施し、10 月には事務職員部次課長研修会、12 月には FD･SD 障害学生支援に関する研修会や SD 研修会（学外研修報告会）を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、実施できない研修はあったが、可能なものはオンライン等で実施している。

また、10 月からは新たに教務課長、学生係長会議（研修会）を開始した。

【総合評価】

・全職員による中期経営計画の見直しと改訂（毎年度）については、令和 3 年度 SWOT 分析、大学・短期大学協議会での中期経営計画Ⅳの中間報告、実績報告及び 6 プロジェクトの検討を踏まえて、中期経営計画Ⅳの令和 4 年度改訂版を作成した。各検討の過程では部署ごとの職員が関わり、全職員によって見直しを進めることができた。

・法人情報の公開の推進（令和元年度公開情報以上の情報を公開）については、学園ホームページで、寄附行為、役員、法人の概要、事業の概要及び財務の概要等法令等に定める情報は全て公開している。令和 3 年 8 月には、ホームページの全面リニューアルを行い、各情報へのアクセスをより分かりやすくした。

・各部署における中期経営計画に基づく長期行動計画の作成と実行（毎年度）については、中期経営計画Ⅳに合わせて作成した長期行動計画と今年度の事業計画に基づいて、各部署で事業を実施した。

6－2　人事・給与

法人事務局長　安藤　充昭

【行動方針】

大学の質の向上に繋がる職員組織を構築し、計画的・効率的に学園運営を推進する。
学園の経営状況を反映した独自性のある人事・給与制度を構築する。

【達成目標】

・採用、異動、昇任等の人事制度に関して、総合的に運用するための制度の見直し（令和 3 年度完成）
・新たな人事評価制度の導入（令和 3 年度完成）
・人事評価制度に連動した給与制度の導入（令和 5 年度完成）
・令和 5 年度までに人件費を 3%削減

【取組内容の実際及び評価】

（1）適正な定員配置

①省令に定める大学設置基準をもとに、各種養成施設、課程校としての要件を満たしながら、学園の運営状況を踏まえた、教育研究に必要な定員配置を実施

社会情報学部の廃止や人間健康学部の学年進行等を踏まえた人事計画に基づき、今年度の職員配置を行った。

（2）人事制度の見直し

①職員が意欲を持って働ける職場づくりを目指した、採用、異動、昇任等あらゆる面から総合的に運用するための制度の見直しと、規程の整備

今年度は、新規雇用に関して可能な限り一般公募制を導入した。また、定年退職後の再雇用制度について、一部見直しを行った。

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを 9 月に指名した。各メンバーは情報収集と個人レベルでの検討を行ったが、会議体での検討には至っていない。

（3）人事評価制度の導入

①新たな人事評価制度の導入による本学園が目指す経営方針・教育方針の可視化、各部署の目標・行動の明確化によるベクトルの一元化、自己点検評価・他者評価による目標達成感・使命感の向上

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを 9 月に指名した。各メンバーは情報収集と個人レベルでの検討を行ったが、会議体での検討には至っていない。

②評価結果のフィードバックや給与・配置等の処遇などの連動による職員の意欲向上

職員の人事評価、職員面談を継続して実施し、この結果に基づいて賞与に反映させた。新たな評価制度を採用するまでは現行制度を改善しながら運用していく。

（4）給与制度の見直し

①職員の能力開発と組織の活性化を目標に、適正かつ公平な評価制度や処遇制度等の検討、給与体系、給与諸制度、諸手当の見直し、規程の整備

今年度は退職金制度の見直し一部見直しを行った。中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを9月に指名した。各メンバーは個々に情報収集と個人レベルでの検討を行ったが、会議体での検討には至っていない。

②令和5 年度までに人件費3%削減(平成30 年度比)を行うための計画を策定、実行

人件費削減策として、職員の一部退職不補充を行った。広島文化学園大学大学院人間健康学研究科の設置、広島文化学園大学の社会情報学部の廃止等に伴う職員配置や、「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」の検討結果を踏まえて、削減計画を策定する。

【総合評価】

・採用、異動、昇任等の人事制度に関して、総合的に運用するための制度の見直し（令和3年度完成）については、中期経営計画Ⅳ推進組織構成の中に「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を位置付け、9月にプロジェクトメンバーを指名したが、メンバー各自の情報収集と検討に留まり協議が行える段階までには至らなかったため、目標は達成していない。現行の制度や業務について不断の見直しを実施するとともに、引き続き情報収集・検討を行い、プロジェクトで議論するための素案づくりを行う。

・新たな人事評価制度の導入（令和3年度完成）については、プロジェクトを中心に引き続き検討を行い、目標達成を目指す。

・人事評価制度に連動した給与制度の導入（令和5年度完成）については、プロジェクトを中心に引き続き検討を行い、目標達成を目指す。

・令和5年度までに人件費を3%削減については、引き続き適正な職員配置を図り、目標達成を目指す。

7．　財務基盤の強化

法人事務局長　安藤　充昭

【行動方針】

収入の確保、経費及び人件費の抑制を行い、安定した財務体質を確立し、恒久的に健全な学園経営を堅持する。

【達成目標】

・事業活動収支差額(基本金組入前)の黒字堅持（事業活動収支差額比率 10%以上）
・第 2 号基本金組入の計画的な運用
・人件費比率 53%以下を維持
・各キャンパスの施設・設備等の新規・更新計画の策定（令和 3 年度）

【取組内容の実際及び評価】

（1）健全な収支計画の策定

①職員へ本学園の財務状況を随時明示することによる経営感覚の醸成と、堅固な経営基盤を築くための適切な予算策定・執行の確保

4 月 1 日の合同職員研修の中で経営財務の状況について説明を行った。

予算策定に当たって、その基本方針である「令和 4 年度広島文化学園事業計画及び予算の策定について」を作成して令和 3 年 11 月に職員に対する説明会を実施した。また各部署では、前年度末に実施した自己点検評価や 7 月から 9 月にかけて実施した SWOT 分析結果を、令和 4 年度予算策定に反映した。

②学園の将来構想に基づく第 2 号基本金（将来の多額な固定資産の取得に備える資金）組入の検討及び計画的な運用

中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等を踏まえて、第 2 号基本金を組み入れるための計画を作成することとしており、未達成である。11 月に開催した学園・監事・監査法人による会議では、将来計画に対する資金の積み立てについて、引当特定資産など基本金以外の手段も含めて議論した。

③継続的に事業活動収支差額を黒字堅持（事業活動収支差額比率 10%以上）

令和 3 年度の事業活動収支差額比率は 3.1%であった。安定的な収入確保と経費支出の抑制により引き続き目標達成を目指す。

（2）安定的な収入確保

①入学学生数を確保することによる学生生徒等納付金の確保

令和 3 年度の学生生徒等納付金収入は、学生数の減少により昨年度に比べて減少している。新型コロナウイルス感染症対策を講じながらオープンキャンパス等を開催するとともに、8 月には学園ホームページをリニューアルするなど、次年度入学生の確保に努めている。

②適正な学生数を維持することによる補助金収入の確保

定員充足率（令和 4 年 3 月 1 日現在）は、短期大学（専攻科含む。）で 84.0％であった。引き続き、入学学生数の確保、在籍学生数の維持及び適正な定員管理に努める。

（３）経費支出の抑制

①人件費の抑制（人件費比率 53%以下を維持）

令和 3 年度の人件費比率は 57.5％であった。適正な人事管理により、引き続き人件費の抑制に努める。

②効果的かつ適正な教育研究費の支出

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら対面授業と遠隔授業を併用していく中で、教育研究費の効率的かつ適正な支出に努めている。

③管理経費の効率的な運用による縮減

ＳＤ研修（庶務・会計）を開催し、総務課長会議等と連携して、事務や帳票の統一化・簡素化を図っている。また、規程管理システムの利用普及、予算編成事務への会計システム利用検討など事務処理のシステム化を進めている。施設の改修が生じた時には、併せて照明の LED 化を進めている。

④４キャンパスの経費支出を統合することによる経費の抑制

トイレの衛生用品について 4 キャンパス合同で見積りを行い令和 4 年度から契約単価を引き下げる。SD 研修（庶務・会計）や総務課長会議等で、統合等を行える業務について検討を行っている。

⑤奨学金制度の見直しによる経費の抑制

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「奨学金制度改革検討委員会」を設置し、国の修学支援制度を踏まえた奨学金の見直し検討を行い、令和 4 年 3 月の理事会・評議員会で報告した。

（４）資産の適切な運用

①「資金運用委員会」における資産の安全管理を基本とする適切かつ計画的な運用

資金運用委員会を 9 月及び 10 月に開催した。検討結果に従い、通知預金の一部を定期預金で運用することとし、12 月以降順次手続を行った。

（５）外部資金の獲得

①文部科学省、私学事業団が示す方針の十分な理解による、教育・研究の取組の強化と補助金収入の増加

広島県遠隔講義システム導入促進事業補助金を受けて、3 キャンパス 6 教室のカメラ、マイクシステム等の整備を行った。また、私立学校情報機器整備費補助金(文部科学省)を受けて、学生貸出用のノートパソコン 46 台を整備した。私立大学改革総合支援事業(文部科学省)は、タイプⅠ及びタイプ 3 の申請を提出したが、採択されなかった。ウィズコロ

ナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業補助金(文部科学省)は、3 月に交付決定を受けた。その他一般補助や特別補助の調査票作成に当たっても、ポイントを上げることができるように努めている。

②多元的な財政基盤を確立するための、企業や同窓会等外部団体との連携強化、ホームページの活用などによる寄付金収入の増加

8 月のホームページのリニューアルに当たり、寄付のお願いのページを新設し、寄付を呼び掛けている。

（6）施設・設備の計画的な整備

①各キャンパスの施設・設備等の新規・更新等に関する令和 12 年までの計画の作成（計画策定は令和 2 年度を目標）

10 年計画（令和 4 年度から令和 13 年度まで）は未作成である。中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等に基づいて作成する学園の将来構想（計画）と併せて、施設・設備等の新規・更新等に関する計画を作成する。

②施設・設備等一元的な管理・実行体制の整備

前項目の計画に基づくものであり、実行されていない。

【総合評価】

・事業活動収支差額(基本金組入前)の黒字堅持(事業活動収支差額比率 10%以上)については、令和 3 年度の事業活動収支差額比率は 3.1%であった。前年度 0.7%から改善傾向にあり、安定的な収入確保と経費支出の抑制により引き続き目標達成を目指す。

・第 2 号基本金を組み入れるための計画が作成できていない。中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等に基づいて作成する学園の将来構想（計画）と併せて、第 2 号基本金を組み入れるための計画を作成する。

・令和 3 年度の人件費比率は 57.5%であった。前年度 56.5%から増加傾向にあり、適正な定員配置、人事制度の見直し、給与制度の見直し等により、引き続き目標達成を目指す。

・各キャンパスの施設・設備等の新規・更新計画の策定（令和 2 年度）については、施設・設備等の新規・更新計画が未作成である。予算策定作業の中で、各キャンパスの事務部を中心に施設設備の整備について計画表を作成しており、これらの状況も踏まえ、中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等に基づいて作成する学園の将来構想（計画）と併せて、施設・設備等の新規・更新等に関する計画を作成する。

８．　広報・学生募集活動の強化

８－１　広　報

法人事務局長　　安藤　充昭

【行動方針】

学生募集広報に特化したこれまでの広報を見直し、学園全体の総合的な広報を推進する体制により、情報発信の強化及び本学の PR 強化、並びに情報公開の一層の推進に取り組み、ブランド力の向上を図る。

【達成目標】

・広報企画会議を活用した情報の一元化
・マスコミに対する情報提供数の増（令和3年度までに平成 30 年度の 1.5 倍に増やす）
・ホームページのアクセス数の増（対前年度比 5%増）

【取組内容の実際および評価】

① 広報企画会議を活用した情報の一元化

９回の広報企画委員会議（広報企画委員会全体会議６回、ワーキング会議３回）を実施し、施策の企画検討及び立案を行った。

【主な検討項目】

・ホームページリニューアル業務
・ホームページ内容の充実のための施策立案
・ブランド向上のための施策立案　など

② マスコミに対する情報提供

12 件のプレスリリース（祇園パセリ冊子、エコキャップアート制作、被災地遠隔ボランティア､ウクライナとのオンラインによる「文化交流イベント」など）を行った。16 件の新聞掲載、６件のテレビ放映などマスコミでの情報提供につながった。

６月 19 日に受験生サイトを新設オープン、８月 17 日にホームページをリニューアルオープンした。NEWS、TOPICS の機能強化により、情報提供件数は大幅に増加した。SNS（LINE、YouTube 等）からのホームページへの誘導と連携、動画コンテンツの制作・公開など情報発信に取り組んだ。

② 大学 PR の強化

「ブランドメッセージ・デザインマニュアル」（令和元年度作成）に基づき、全学でブランドメッセージ「SMILE 人に笑顔を、自分に笑顔を。」により「対人援助」をアピールする体制が定着しており、ホームページや学科広報紙（チラシ・パンフレット）など、さまざまな広報媒体への活用を行った。

③ 情報公開の推進

ホームページをリニューアルし、分かりやすく使いやすいホームページに改善した。情報公表ページを分かりやすく、更新しやすいページに刷新した。

④　大学 PR の強化

上記①から④の取り組みにより、本学の「強み」や「特色」をアピールした。

【総合評価】

・広報企画委員会（兼ホームページ管理委員会）により、広報施策の企画検討及び立案を行うとともに、昨年度から引き続きホームページリニューアルに取り組み、計画どおり８月 17 日にリニューアルオープンした。

・マスコミに対する情報提供（プレスリリース）数は 12 件で、目標（令和3年度までに平成 30 年度の 1.5 倍)を達成した（30 年度：7 件、令元年度：12 件、令２年度：４件)。これにより 16 件の新聞掲載、６件の TV 放映につながった。

・ホームページのアクセス数(4/1～3/31 で比較)は、前年度 1,740,991 アクセス、今年度 1,492,351 アクセスで、対前年度比 14.3%減であった（令２年度はコロナ関連報道によるアクセス増。令元年度は 1,427,246 アクセス)。入試関連ページのアスセス数は、前年度 153,423 アクセス、今年度 188,879 アクセスで、対前年度比 23%増であった。

8－2　学生募集

学生部長　廣兼　孝信

【行動方針】

入学支援センター会議を中心として学生募集活動を進める。具体的には、ホームページ（導く）、大学案内（見せる）、オープンキャンパス（体験）を学生募集の 3 本の矢とし、これらによって学修成果の可視化を図り、全学科定員確保を目指す。

【達成目標】

・大学・短大全体としての定員の確保
・オープンキャンパス参加者数の確保
・受験対象者の本学認知度の向上

【取組内容の実際および評価】

（1）学生募集活動の強化

① 学生募集に繋がるホームページの充実

大学全体のホームページをリニューアルし、受験生サイトを新設した。このサイトにおいて初めて動画（学科紹介と在学生が語る学科の魅力）を公開した。これにより、オープンキャンパス参加者では 6 割を超える人が閲覧し、閲覧者のうち 9 割を超える人が良い印象を持ってくれた。

また大学の魅力を伝えるために、ホームページに多くのトピックスをアップした。(大学共通 6 本、コミュニティ生活学科 22 本、食物栄養学科 15 本、保育学科 13 本)

② 魅力的な大学案内の制作

2022 年度版(2022 年入学生用)は、これまでの制作業者を変更し、学び中の在学生と活躍中の卒業生を見せて、将来の自分を想像させながら学科の特徴を示す内容で制作した。高校生からは学科の教育内容や特色がわかりやすいと好評であった。

③ オープンキャンパスの内容充実と集客強化

新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら柔軟な対応で開催した。緊急事態宣言期間中であった５月のオープンキャンパスは初めてWeb 開催としたが、大きなトラブルもなく好評であった。６月以降のオープンキャンパスは、事前予約制で来場型開催とした。昨年度から始めた個別対応中心の入試説明会も事前予約制で開催したことで、来場者が大幅に増加した。

④ 高校生の動向を注視した学生募集活動

接触者数の増加に向けて、本学保有データに業者保有データを加えたダイレクトメール発送（4 回）のほか、高校生が頻繁に利用する LINE や Web 広告等で本学を知ってもらい、ホームページに誘導した。

（2）学生募集活動の質の向上

① 的確なデータ収集・分析を基にした学生募集活動の実施

接触者データを、ダイレクトメール発送、集計、分析、高校訪問、オープンキャンパス集客などに活用した。また、学科でまとめる希望者情報データをオフィサーに提供し、高校訪問で情報収集と出願依頼に活用した。さらに毎年、新入生に志望動機調査を行い、募集戦略の評価と対策を行っている。これにより、各学科の訴求ポイントが募集に直結していることを確認した。

② 他大学の学生募集動向の注視

特に近隣の大学のホームページや情報公開や、進学業者等により情報収集を行い、強みの確認と弱みの改善に役立てている。

③入学支援センター会議を通じて、学生募集の意識の向上

各学科から広報担当が入学支援センター会議に毎回出席し、募集戦略に関するアドバイスを受け、それを基に改善を続けていいる。また大学を含めた他学科の募集活動も参考にしている。

④受験対象者の認知度を高めるための本学園広報との連携

学園のブランドイメージ「SMILE」（人に笑顔を、自分に笑顔を。）を、大学案内やオープンキャンパス等での説明スライドに入れるなど、本学のイメージや認知度を高めることを行っている。

また大学案内のリニューアルに合わせて「SMILE」に次のような意味を持たせることによって、さらなるイメージアップを図った。

Support（学生サポート）

Mind（心・精神）

Inttelligence（知性）

License（資格・免許）

Expert（専門性）

（3）高等学校との信頼関係強化

① オフィサーによる高校訪問

新型コロナウイルスの影響で、オフィサーの高校訪問は様子を見ながら実施した。訪問が難しい場合は高校へは電話により高校の状況把握等を行った。高校訪問時には各学科が作成する資料の配付のほか、学科から提供された在学生状況により、学生の成長の様子を伝え、高校との信頼関係を継続できた。

① 教育職員による高校訪問

今年度は 3 学科が連携して重点校 11 校に訪問し（2 校からは訪問の断りがあった)、家庭科担当の先生に対して学科の魅力や在学生情報を伝え、大変手ごたえが良かった。保育学科はこのほか 8 校に単独訪問した。

② 学校見学の積極的な受入れ

新型コロナウイルスの影響で予定していた学校見学の多くが中止となり、3 つの高校による見学のみであった。

③ 高校内説明会への積極的な参加

高校での模擬授業等の回数は、コミュニティ生活学科 11、食物栄養学科 19、保育学科 11 であった。

【総合評価】

① 短大全体としての定員の確保

昨年度は 3 学科ともに大きく定員割れとなり全体で 8 割の確保にとどまったが、今年度は 9 割近く確保できた。この大きな原因は、来場型のオープンキャンパスや入試説明会が実施できたことである。

しかし、定員の 125%を達成したコミュニティ生活学科に対し、保育学科が定員の 60%の確保にとどまった。保育系希望者は全国的にも減少傾向にあるため苦戦が予想されたが、予想以上の減少となった。このため保育学科は教育内容の見直しを行い、セミナー及び卒業研究の在り方を大幅に改善することとした。

② オープンキャンパス参加者数の確保

昨年度はこれまで実施していなかった冬のオープンキャンパスを 3 学科とも 2 月に実施した。今年度も実施し、参加者数が増加した。5 月以外は来場型のオープンキャンパスを実施できたことで年間の参加者数が増加し、入学者増につなげることができた。

8－3　入学者選抜

入試本部長　廣兼　孝信

【行動方針】

文部科学省高等教育局長からの「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について（通知）」（平成 29 年 7 月 13 日付け）を受け、本学の入学者選抜において、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者の受入れの方針に基づき、「学力の 3 要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものへと改善する。

また「AO 一貫教育」を謳い、偏差値にとらわれず本学で学ぶ意欲のあるものを受け入れ、卒業時までに社会に通用する人材を育成する方針を堅持するため、今後も「AO 方式」の入学者選抜を中核に置く。

【達成目標】

・入学試験制度検討ワーキンググループ（平成 30 年度設置）の提言に基づく入学者選抜の円滑な実施と検証
・入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証
・早期合格者に対する入学前教育と高大連携の在り方の検証
・入学者選抜システムの改善等による入学者選抜業務の効率化と経費の削減（入学者選抜業務 10％削減・経費 10％削減）

【取組内容の実際および評価】

（１）入学者選抜の円滑な実施と検証

① 学生募集要項と総合型選抜（AO）ガイドの見直し

入学者選抜制度の変更に合わせて、学生募集要項と総合型選抜（AO）ガイドを作成し、令和 2 年 6 月にそれぞれを公表した。

② 入学者選抜の実施時期・内容等の見直し

国の方針に沿って見直し、変更した。

・総合型選抜

二次面談の開始を従来より 1 か月遅くし、全学科に自己アピールを導入したが、混乱はなかった。むしろ自己アピールの導入は受験生個人の理解において大いに役立った。

・学校推薦型選抜

試験日を約 3 週間遅くし、合格発表日を 12 月と、小論文は「思考力・判断力・表現力」を評価する問題にしたが、混乱はなかった。

公募制後期は試験日は約 2 週間遅くしたが、問題なかった。

・一般選抜

前期は理科をなくして、国語、数学、外国語の中から 1 科目選択とした。中期と後期の小論文は、記述式総合問題としたが、混乱はなかった。

・大学入学共通テスト利用選抜
実施時期や科目も変更なし。

③ 他大学の入学者選抜の動向の注視
広島地区の他大学の入学者選抜に関する情報を分析し、必要に応じて学生募集要項等に反映させている。

（2）入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証
① 現行の奨学金制度の有効性の検証
専門学科・総合学科出身入学者特別奨学金と家族入学特別奨学金は、募集において引き続き効果を発揮している
② 募集につながる奨学金制度の提案
大学は、大学入学共通テスト利用選抜成績優秀者特別奨学金を新設したが、短大では新しい奨学金の提案ができていない。

（3）早期合格者の入学前教育と高大連携の在り方の検証
① 各学科と連携した入学前教育の有効性の検証
各学科から合格者に送付する課題に対して、入学前に取り組んでいるが、入学までの動機づけの継続につながっているかは十分に検証できていない。

② 高大連携推進委員会と連携した高大連携の在り方の検証
高大連携事業協力校 9 校の学校推薦型選抜合格者に対して入学前教育（送付課題への取組）の指導を依頼した。

（4）入学者選抜業務の見直し
① 入学者選抜システムの改善と円滑な運用
入学者選抜の名称、実施時期等の変更に合わせてシステムを変更し、スムーズな運用ができた。

② 入学者選抜業務の効率化の推進
受験票を受験者本人が印刷する方式に替えることで、業務の効率化を進めることができた。

③ 入学者選抜経費の削減の推進
受験票を受験者本人が印刷する方式に替えることで、経費の削減ができた。

【総合評価】
① 入学者選抜の円滑な実施と検証

入学者選抜に関する国の方針に基づき、選抜の名称、実施時期、選抜方法など、大幅な見直しを行ったが、スムーズに移行できた。

これらの変更に関する周知は事前にホームページ公表するなどし、混乱や問い合わせ等はなかった。

② 入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証

奨学金制度に対する国からの補助金制度が変更になったことから、本学独自の奨学金の拡張が難しい状況になっている。今後は縮小の方向でも検討の必要が出てくると思われる。

③ 早期合格者の入学前教育と高大連携の在り方の検証

この重要性は今後ますます重要になってくるので、高大連携推進委員会を中心に積極的に推進する必要がある。

④ 入学者選抜業務の見直し

毎年の取組により、入学者選抜業務 10%削減・経費 10%削減の目標はほぼ達成できている。

９．　教学の質の向上

学生部次長（教務）　岡田 正浩

【行動方針】

本学の教育方針である「学習者中心の教育」に基づき、学生一人一人の夢を実現するために、教育課程・教育方法の改革・改善、学修成果の可視化、及び学習支援の強化により、教育の質保証を推進して、教学マネジメントの確立を目指す。

【達成目標】

・時代の変化に応じ、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成
・カリキュラムマップ・ナンバリングの活用
・統一様式によるシラバスの充実(アクティブ・ラーニング、学修法、評価方法等)
・アクティブ・ラーニングの推進
・全教育職員による授業公開・相互評価の実施
・学修成果可視化のための量的・質的データの分析・公表
・HBG 版学修履歴証明書の作成と運用

９－１　教学マネジメントの確立

【取組内容の実際および評価】

① ３つのポリシーとアセスメント・ポリシーの検証・修正

本学教育課程委員会において、広島文化学園短期大学及び３学科（コミュニティ生活学科、食物栄養学科、保育学科）の３つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）とアセスメント・ポリシーについて検証を実施。令和４年度は、短期大学、３学科ともポリシーの変更はなく、現行のポリシーを基本とし教育内容、教育方法を実施していくことが確認された。

９－２　教育課程の改善

【取組内容の実際および評価】

① ３つのポリシーに基づく、教養教育・専門教育・キャリア教育・教職教育の充実

令和３年度、教養教育充実のため、情報教育及び教養教育全般について教養教育推進小委員会において検討が行われた。令和４年度の短期大学教養教育は大きな変更をせず、体系化、情報リテラシー科目必修化については、大学教養教育推進委員会の情報を共有し、学科の特徴を活かすことができるよう令和４年度に継続検討することが確認され

た。次年度専門教育充実を図るため、３学科とも学則（カリキュラム）の一部変更が実施された。コミュニティ生活学科では専門科目の科目名とその内容を見直した。食物栄養学科では、専門選択科目の内容を実践的な内容に変更するため、科目の統合が実施された。保育学科においても一部専門科目の見直し及び教職課程に関わる科目変更が行われた。教職教育では、教職課程運営委員会を中心に情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法」や再課程認定申請事後調査について対応がなされた。情報通信技術をを活用した「教育方法論」については、コミュニティ生活学科の中学校教諭二種免許状（家庭）が対象となりシラバス内容の変更によって対応した。再課程認定申請事後調査は、年度末の教員の変更届を含めて、教職に関わる担当教員の変更（コミ、保育）及び科目名の変更（保育）等について適切に報告、届出が実施された。

② カリキュラムマップ、ナンバリングの検証とそれに伴う教育課程の体系化

教育課程委員会において、カリキュラムマップの検証が行われ、教養科目等のマップの改善が提案され、各学科の教養科目について統一化がなされた。

③ 統一された様式によるシラバスの作成と内容の充実

令和３年度において新型コロナウイルス感染症防止対策の中、本学では C-Learning によるオンライン授業と対面授業がハイブリット的に実施された。授業の適切な運用のため内容変更、講義順番の変更が前後期とも実施された。それた変更に伴いシラバス変更がなされ、全授業の変更シラバスが提出された。

９-３　教育方法の改革

【取組内容の実際および評価】

① アクティブ・ラーニングの推進

令和３年度短期大学のアクティブ・ラーニング実施状況は、「コメントペーパー・ミニッツペーペーパー」、「情報収集と整理」等が昨年度と同様に大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症防止のため、全科目において C-Learning が実施された結果として活発なアクティブ・ラーニング技法が多く活用されたと考えられる。中期経営計画の改定として令和４年度より全学科、開講授業 80%以上のアクティブ・ラーニング実施について数値目標を明記した。

② FD の高度化（授業評価・授業公開・FD 研修・教育改善委員等）

・授業評価アンケート

前期・後期とも C-Learning と対面授業の両方を取り入れた授業が展開される中、授業評価アンケート前期・後期とも授業評価アンケートは全授業 C-Learning で実施された。授業評価の結果は教員がいつでも C-Learning 上で確認することができ、授業評価アンケートの報告・分析結果は HP 公開された。

・授業参観（授業公開）

令和３年度、全授業において新型コロナ感染症対策を実施しつつ、前期・後期とも対面授

業での授業公開が実施された。授業参観におけるレビュー内容は、教員間で共有され各授業改善に活用された。

・教育改善委員

令和３年 9 月 30 日には、教育改善委員（学生 6 名）と短期大学教職員 8 名をまじえ「学生参画型 FD 活動（学生の意見を聴く会)」が実施された。学生から教育上で重要な実例や特に C-Learning や災害時での教育実施について問題点、改善点などの情報交換がなされ、充実した話し合いができた。

・FD 研修

大学・短大 FD 研修会として 2021 年 8 月 20 日に「全学 ICI 事例発表会」、12 月 22 日に「全学 FD・SD 障害学生支援に関する研修会」が実施された。ICT 事例発表では、コロナ禍の学習環境下における興味深い取組み・工夫について興味深い報告がなされた。障害学生支援に関する研修会では、障害学生に対する理解を深める第一歩となる貴重な時間となった。

③ デジタル技術を活用した教育の促進・対面とオンラインのハイブリッドによる質の高い教育の推進

令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大対策のためデジタル技術を活用した遠隔授業が急速に取り入れられ対面授業を含めハイブリットによる教育推進が求められた。短期大学では、前期・後期とも全授業回数の５回以内で C-Learning を主体とする授業が展開された。また、対面授業においても C-Learning は活用されハイブリットにより学生への教育の質を落とすことなく授業が実施された。

④ 履修単位上限設定の適切な運用

本学の履修単位上限（１年間に履修できる単位数の上限は、４８単位）に則り、後期履修確定後に上限を超える学生のチェックが実施された。上限を超えて履修ができる①セミナーⅠ・Ⅱ、卒業研究・集中講義、学外実習科目の場合②直前の学期における GPA が 75.0 以上の場合③その他許可を得た場合等の確認が行われ、短期大学全学が適切に履修されていることが教育課程委員会で認められた。

9－4　学修成果の把握と活用

【取組内容の実際および評価】

① 学修成果の可視化と一元化による有効活用（成果の把握蓄積・分析・公開）

令和３年度短期大学では、学修成果の可視化のため、PROG テストの代替テストとして、SPI テストを基本とする就職総合テストが実施された。令和３年度は移行期間として、2021 年 4 月オリエンテーション期間に２年生が、11 月に 1 年生が受験した。テストの結果は学生個人に返却するとともに、学生の結果を分析して評価の解説会をオンデマンドで実施した。２年生の結果は、令和４年 3 月卒業時に学修履歴証明書のデータとして活用された。短期大学では、これら、テストデータは毎年蓄積され、キャリア教育や実際の就職活動に活用

される。

② 学生による授業評価の活用

学生による授業評価アンケートは、担当教員にフィードバックされ、一定の評価以下の教員には授業改善計画書を提出してもらった。令和２年度実施された学生による授業評価アンケート結果及び、令和３年度前期までの授業評価アンケート結果を比較、分析し各学科から評価、改善点を提出してもらい、結果はHP公開された。また、授業評価アンケートを活用して、学生参画型FD活動において意見交換が行われた。

③ 学修行動調査の実態・学習時間確保

本学の全授業シラバスには、具体的な自己学習時間が明記され、各担当教員が初回の授業において自己学習について指導を行っている。学生への授業評価アンケート質問項目　欠席、予・復習、意欲、知識の学生自己評価について教員間で情報共有し実態の把握に努めた。令和３年度「学生の意見を聴く会」では、オンライン授業、対面授業等について自己学習確保について改善意見が出された。

④ 学生の成長実感・満足度・意欲の向上

令和３年度に実施された就職総合テスト（SPI）をもとに、「基礎能力」「就職志向性」「パーソナリティ」によって学生の成長の可視化がなされた。授業における満足度・意欲については授業評価アンケート結果を分析し、各学科、授業で改善が行われた。「学生の意見を聴く会」で各学科教育改善委員（学生）のレビューによって向上が図られた。

⑤ HBG版学修履歴証明書の作成とその運用

令和３年度短期大学学修履歴証明書は、学生の学業成績、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度、GPA、学生の「基礎能力」「パーソナリティ」について可視化、作成され、全卒業生に配布し、配布の際は各学科長から説明と指導が行われた。

9－5　学修支援の強化

【取組内容の実際および評価】

① 各学科の入学前教育の充実

平成４年度入学予定者へ各学科から課題を送り、入学前教育が実施された。課題内容は、各学科教育に必要となる基本的知識、技能が中心となり入学後教育へのスムーズな接続ができるよう対応を図っている。例年、入学予定者には、入学前ガイダンスが開催されるが、令和４年度入学予定者については、新型コロナ感染拡大対策のためコミュニティ生活学科、食物栄養学科のガイダンスは中止となった。保育学科は、令和４年３月にオンラインによって令和４年度入学予定者のための入学前ガイダンスを実施した。

② 各学科の教育課程に対応したリメディアル教育の計画・実施

短期大学では、教養教育においてリメディアル教育を実施している。特に食物栄養学科では、「基礎化学」「基礎生物学」は学生のリメディアル教育に重点を置いて実施されている。これら教養教育については、さらなる充実を目指して短期大学教養教育推進委員会で継続

的に検討を実施する。

【総合評価】

・時代の変化に応じ、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成

カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成は、毎年教育課程委員会を中心に検討・改善されている。各学科の専門教育、教職教育についても改善が行われた。全学科に関わる教養教育について、新たに小委員会から教養教育推進委員会が設置される予定である。

・カリキュラムマップ・ナンバリングの活用

カリキュラムマップは、教育課程委員会で検討され改善が行われた。ナンバリングは学生の学修成果可視化にに活用された。

・統一様式によるシラバスの充実(アクティブ・ラーニング、学修法、評価方法等)

全教員が統一シラバス様式の元、学生に分かりやすく内容を明記するとともにHPによって公開された。令和３年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のためC-Learning授業と対面授業がハイブリット的に実施され、前期・後期分変更シラバス提出することで授業形態変化にも対応できた。

・アクティブ・ラーニングの推進

全教員アクティブ・ラーニングを取り入れた授業内での実施回数が大幅に増加した。令和３年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためC-Learning（遠隔授業）と対面授業がハイブリット的に実施され、授業形態や授業法について様々な取り組みが行われた。

・全教育職員による授業公開・相互評価の実施

全教員最低１科目が授業公開され、教職員間で相互評価が行われた。評価結果は教員の授業改善に活用された。

・学修成果可視化のための量的・質的データの分析・公表

2年生全員が４月のオリエンテーション中に就職総合テスト（SPI）を受験した。学生の成長や学修成果を可視化、分析し実際の就職活動に活用することができた。

・HBG版学修履歴証明書の作成と運用

全卒業予定者に学修履歴証明書を作成、配布し、卒業式に各学科に証明書の解説及び活用について説明が行われた。

１０．　学生生活支援の強化

学生部次長（学生生活）　西川　勝利

【行動方針】

全ての学生が夢の実現を目指して、入学から卒業まで安心して充実した学生生活を送ることができるよう、教職協働により総合的に学生生活を支援する。そのために、学生生活支援センターを中心とした全学的な学生生活支援体制の強化・充実を推進する。

【達成目標】

・大学全体としての退学率 2%以下
・「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足）90%以上
・HBG 夢カルテの改善・各項目の記入 100%

１０-１　学生生活支援体制の強化

【取組内容の実際および評価】

① 学生生活支援センター、学生部会、キャンパス学生生活委員会、学科、チューター、および学生相談室、保健室の連携強化

・欠席学生に対する指導の強化

連続欠席学生については学科会で対応を協議し、記録に残す中でセンター会議に報告する形を継続し、情報交換をするなかで連携強化を図るとともに有効な指導・支援の在り方を検討した。今年度も、コロナ対応に伴う体調不良の欠席も多く、その対応について、必要に応じて学生相談室・保健室との連携にて適宜対応した。

・休退学の原因分析と有効な支援策の検討

各学科で昨年度の記録を基に休退学に至る原因分析を行い、支援策を検討する中で取組を進めるとともにセンター会議に学科毎に取組の進捗状況の報告を行い、情報共有とともに有効な支援策について意見交換した。

・学生相談体制の充実

令和元年度より配置された臨床心理士による相談も含めて、キャンパスでの取組をセンター会議に報告し、情報共有に努めた。

相談活動に係ってカウンセラーの意見も聴取する中で、学生が休学や退学に至るまでにそうした心配のある学生への働きかけを行うよう取組を進めている。

◎令和３年度の実績

	臨床心理士			保健室			ﾘﾓｰﾄ	備考
	延べ件数	実人数	昨年延べ件数	延べ件数	実人数	昨年延べ件数		
長束キャンパス	９８	７１	８０	６８３	３７３	５４３	９２	

② 学生満足度調査結果の反映

・環境整備・学生支援体制の充実

調査時期については、卒業時、１年次終了時に実施した。回答方式を Google フォーム入力にし、調査結果の集計を委託した。

各学科で学生満足度調査結果のまとめを作成してセンター会議に報告し、各学科において、このまとめを踏まえた改善計画の策定等の取組を行っている。施設面については、各学科の要望に優先順位をつけてセンター会議で確認し、センターとして各キャンパスに予算要望の依頼をした。

③ 障害学生支援の充実

・障害学生支援委員会を中心にした全職員による障害学生支援体制の充実

障害学生に関する理解深化を前提として障害学生支援委員会を中心に、全ての教職員で障害学生へ適切な支援ができるよう取り組んだ。

④ 自宅外学生の支援

入学時の自宅外通学生のためのオリエンテーション、自宅外通学生の集いはコロナ感染防止のため計画できなかった。支援相談体制については、大学に登校できない状況を考慮して必要に応じて、メール等のリモートによる相談体制を含めて働きかけをした。

⑤ 学生との相互コミュニケーション

学生が各チューターに相談しやすいようにオフィスアワーを昼休憩に設定し、学生とのコミュニケーションの推進を図るとともに、メール等のリモートによる相談を積極的に活用して学生の相談に早期介入して状況把握に努めた。各キャンパスでの取組をセンター会議に報告し、情報共有に努めた。

１０-２　HBG 夢カルテの改善・活用

① 夢カルテの改善

・学生ポートフォリオ機能の充実

令和 2 年度後期学期終わりと令和 3 年度前期学期始め、令和 3 年度前期学期終わりと後期学期始めについて、夢カルテの活用状況を集約・点検し有効な活用を促した。

令和元年度から取組の始まった学修履歴証明書との連携等、センター会議を通して夢カルテの改善にむけて検討を進めている。１年生については、個人の目標に加えて、大学共通の目標、学科共通の目標を設定した夢カルテリーフレットを作成し、実施した。

取組の意義を踏まえて記述ができていない学生への指導の工夫等、各学科で取り組んでいることをセンター会議で情報交換するなかで効果的な指導となるよう検討している。

② 夢カルテ各項目の 100%記入と活用促進

・チューターによる個別指導の徹底

本年度も 100%の記入を目指して取組を進めた。コロナの影響等で学校に来られない学生等については新年度のオリエンテーション時にまとめの記録をさせることにした。

・活用促進体制の確立

取組の意義を踏まえて記述できるように各学科で工夫している取組についてセンター会議で情報交換した。学生が意識を高く持って活動記録等の記入をする中で次のステップにつながる記録となるように取組を進めた。

１０-３　経済的支援体制の強化

【取組内容の実際および評価】

① 国の授業料・入学金の減免制度、給付型奨学金への適切な対応のための体制の強化

国の修学支援制度の周知と適切な運用を図った。各キャンパスの奨学金運用について、センター会議で協議した。

②日本学生支援機構奨学金制度への適切な対応のための体制の強化

日本学生支援機構奨学金制度については、奨学金説明会を開催し、奨学金の内容・手続き等について詳細に説明し、適切な対応ができるよう取り組んだ。学生支援緊急給付金については、学生を推薦し要件を満たした全員が給付金を受け取ることができた。

③学園奨学金制度・延納分納制度の適切な運用のための体制の強化

学園奨学金制度の周知と適切な運用ができるよう取り組み、また経済的理由により授業料の一括納入が困難な学生は、授業料納入計画を示したうえで延納分納制度を運用した。

③ 奨学金受給学生への支援の強化

奨学金受給学生へ適切な対応ができるよう取り組んだ。またチューターによる相談などの支援を行った

１０-４　自治会活動の支援の強化

【取組内容の実際および評価】

① クラブ活動の支援の充実

コロナ対策を徹底させる中でクラブ活動が継続できるように支援をした。各クラブの感染

対策計画の作成等に係って教職員が指導・支援等をした。

② 大学祭・スポーツ大会等の支援の充実

コロナ対応に係って大学祭・あかね祭は中止となったが、あかねウィークを実施した。自治会役員とは話し合いを丁寧に行い、学生の意を汲んで進めた。

③ キャンパス間の自治会交流の支援

３つのキャンパスの自治会役員の交流会を実施し、意見交換をした。コロナ禍のなかでも可能な取組を、学生が考える機会とした。

【総合評価】

（１）大学全体としての退学率２％以下

退学率は、2.5%（昨年 1.2%）となった。欠席が目立つ学生への取組は組織的に進められているが、目標値をわずかに達成できていない。休退学の心配がある学生を早期に把握して支援できるように取組を進めたい。

（２）「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足）90%以上

学生満足度調査の卒業生の結果を見ると、93%（前年 86%）となった。領域で見ると教務・大学生活には高い満足度を示しているが、施設・設備全般と自治会活動の評価が低い状況であった。昨年度に続きコロナ禍のなかで学生の不安を解消できるようリモート相談にも取り組み、相談活動を充実する等、学生の支援に努めた。コロナ対応等に係るサポート体制の満足度は、82%であった。課題の施設・設備全般については満足度評価にある学生の要望をまとめて施設設備の改善に係る予算要望についてセンター会議を通して各キャンパスに依頼した。

（３）HBG 夢カルテの改善・各項目の記入 100%

令和３年度の前期の目標設定について全学科 100%の記入でスタートをした。記入できていない項目については、全て備考欄に理由を記載することができている。コロナの影響等で学校に来られない学生等については新年度のオリエンテーション時に記録をさせることにした。

また、内容の改善を図るために、１年生については、個人の目標に加えて、大学共通の目標、学科共通の目標を設定した夢カルテリーフレットを作成し、実施した。

さらに、学生が取組の意義を踏まえて記述するよう各学科で工夫している取組について、センター会議で情報交換した。学生が意識を高く持って活動記録等の記入をする中で次のステップにつながる夢カルテとなるように取組を進めた。

１１．　就職・キャリア支援の強化

学生部次長（就職）　石尾　はつみ

【行動方針】

「AO 一貫教育」の視点から、学生一人一人にしっかりとした職業観や人生観、生きる力、教養を身に付けさせ、希望する進路実現が図られるよう教職協働により総合的に学生を支援する。そのために、就職・キャリア支援センターを中心とした全学的な就職キャリア支援体制の強化・充実を推進する。

【達成目標】

・進路決定率 100%
・卒業後における定着状況の把握及び支援
・就職先企業アンケート「卒業生の資質（5 段階評価)」3.5 以上

１１-１　就職・キャリア支援体制強化

【取組内容の実際および評価】

① 就職・キャリア支援センター、キャンパス就職・キャリア支援委員会、学科、チューターの連携強化を図り、センター会議において学園全体の視点から課題集約、改善策の検討等を行った。

② コロナ禍で、大学内外での活動が制限される中、各学部、短期大学での「就職・キャリア支援委員会」を定期的に開催し、センター会議の内容を確認するとともに、現状把握や学生支援の在り方を協議するなど、全学的な課題等として捉え、その解決に取り組んだ。「対人援助力の育成」という共通点はあるものの、学部、短期大学の特性による多様な進路先があることから、就職に関する状況の把握という視点に立って情報の共有に努めた。

③ キャリアセンター職員が学科会等に参加するとともに、チューターと連携し、きめ細かな対応を行った。

１１-２　就職支援力の向上

【取組内容の実際および評価】

① 研修会の充実

・コロナ禍の影響があり、キャリア形成力支援向上のための研修会の開催を見送った。

② 各研修会への参加・普及

・コロナ禍の影響があり、各種会議等が全てオンラインでの実施となった。各種会議等の情報収集した情報の共有化を図った。

１１−３　キャリア形成力の強化

【取組内容の実際および評価】

① キャリア教育の体系化

「就職・キャリア支援体制の強化」「就職支援力の向上」「キャリア形成力の強化」「企業等との連携強化」を具体化していく必要性を共通の課題として認識し、各学部・短期大学のキャリア育成の体系化づくりの支援を行った。

・各キャンパスとも、「対話の教育」「嚶鳴教育」を念頭に、キャリア支援科目を開講している。キャリア支援体制の充実にあたり、専門的資格及び豊富な経験を有する就職・キャリア支援アドバイザーを配置し、幅広い情報収集とともに、企業開拓、学生対応及び教職員への助言等キャリア支援体制の充実に向けて取り組んだ。

② インターンシップの推進

「自分のキャリアを考える」について学生の理解を深めさせ、インターンシップの基礎づくりを行うとともに、インターンシップにかかる情報提供を行った。

③ 就職ガイダンスの充実

今年度もコロナウイルス感染予防の観点から、3 学科を分けて学科毎に実施した。例年に比べて、各学科の特性に配慮した支援に繋がった。

１１−４　企業等との連携強化

【取組内容の実際および評価】

① 企業情報の収集

学生による業界、業種、企業の研究が円滑に行われるよう、企業等との連携をさらに強化するために、短期大学では、企業情報サイト、就職・キャリアアドバイザーや新卒応援ハローワーク相談と連携し、企業等の情報を周知した。また、学内における企業等説明会も学生に紹介して実施した。

② 企業開拓の推進

企業開拓については、受け入れ先の企業の採用縮小など、厳しい募集停止の現実に直面した。コロナ禍での就職に関する情報の収集や企業対応については、他大学においても同様でもあることから、今以上にアンテナを張り情報収集に努め、大学・短期大学と企業等との信頼のパイプの構築と企業等の求める学生の育成を支援していくことが必要である。その一環として、本学の特徴を新しい情報内容のパンフレット（求人のためのご案内）を作成し、広く広報に努めた。

③ 卒業生に関するアンケートの実施

卒業生就職先の企業等へアンケート調査を行い、その結果を踏まえ今後の就職・キャリア支援の改善を図ることを目的とする。企業が求める人材像と学生の持っている資質に大きなズレはないことが確認できた。卒業生に対し、「意欲・熱意」、「学ぶ姿勢・向上心」、「責

任感・誠実性・粘り強さ」、「協調性・チームワーク力」などは高評価であった。一方、「専門的知識・技能」、「パソコン操作等の能力」、「問題解決能力」、「一般常識・教養・マナー」などの評価は低かった。アンケート結果を各キャンパス（学部・短期大学）に戻し、来年度に向けての改善策や対策をまとめた。

１１−５　資格等取得の支援

①　看護師国家資格取得支援体制の強化

②　教員採用試験支援体制の強化

教員採用試験合格者や公務員（保育士）の輩出に向け、各学科との連携体制強化を推進するよう、短期大学では、コミュニティ生活の中学校教員採用試験受験者の面接試験対策をキャリアセンターで実施した。来年度も教職について模擬面接等に限らず、他の項目についても指導を深めて、一層の充実を図る。

③　各種資格等取得の推進

短期大学では医療事務、PC スキル、栄養士、保育士等々、学生のニーズに応じて各種の資格取得につながるよう指導した。

【総合評価】

・進路決定率は、短期大学 100.0%であり（令和 4 年 5 月 1 日現在)、目標値の 100%を達成した。取組としては、各チューター及びキャリアセンター職員による個別面談、センター会議や就職・キャリア支援委員会における進路未決定者の個別確認等が挙げられ、学生へのきめ細かい個別支援を行うことができた。

・卒業生の就職先企業等へ「求める人材の要件」等のアンケート調査を行い、その結果については、学園経営企画会議、大学・短大協議会等に報告し、本学の教育内容にフィードバックした。こうして更なる改善に繋がるように取り組んでいる。

・社会全体がコロナ禍の状況にある中、学生にとって、できるだけ不利益が生じないように対応した。

１２-１　地域連携

学生部次長（社会連携）　江坂　美佐子

【行動方針】

本学の教育目的に基づき、地域社会との連携の拠点として学生及び職員が地域の大学としての役割を果たすため、本学の知的資源・人的資源を活かした地域との連携、協働により、自治体が立案する各種施策の実施に貢献する。また、産業界との共同研究や受託研究等を通して、地域の活性化や企業の研究・開発・新規事業、雇用の創出を支援する。

呉地域オープンカレッジネットワークや教育ネットワーク中国といった「地域の教育コンソーシアム」における大学間連携・高大連携を通じて、地域社会の支援を推進する。

産学間、大学間連携事業への学生参加を通して、学生が主体的に行動し自主的に学ぶ仕組みを構築し、実践的な学修の場を提供する。

【達成目標】

・知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携、協働を図り、地域社会が抱える課題の解決に寄与し、また地域連携に関するノウハウを蓄積して、地域連携活動を具体化
・対人援助研究の強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する地域社会のニーズに対応
・自治体、産業界（経済団体、企業）との包括連携協定による連携推進のための会議を定期的に開催し、地域連携事業を推進
・地域、企業や教育コンソーシアムと連携し、学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークを実施
・地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進し、地域関係機関、経済団体、教育機関等が連携できる体制、環境を整備、確立

【取組内容の実際および評価】

（１）　自治体・住民・機関との連携

①本学園のアイデンティティの発信強化

HP の改変に伴い、地域貢献の活動の様子を、トップページからアクセスし易い箇所で照会できるようにしたことで、発信の強化につながった。

②自治体、住民、機関のニーズ把握と連携事業の推進、確立

コロナの感染拡大の影響により、長束地区の「ワクワクながつかとうべえ祭り」、長束西学区社会福祉協議会との連携事業「地域の高齢者を対象とした月１回の配食サービス」「高齢者のクリスマス食事会」、「夏祭り」「生活発表会」の開催が見送られた。代替イベントとして「ワクワクながつかどうべえ祭り」は「絵本のリサイクル」、「高齢者のクリスマス食事会」は「学生手作りのお菓子のプレゼント」を行った。公民館連携事業は中止となった。

③呉市、商工会議所等との包括連携協定に基づく連携推進会議を年 1 回以上定期的に開催

し地域課題解決の取組を推進

呉商工会議所との包括連携協定に基づく連携協議会を開催した。

④学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークなどの科目を開設

コミュニティ生活学科では「ボランティアⅠ」「ボランティアⅡ」の科目を開設し、活動に制約のある中、できる限り地域での活動に参加し、地域と連携を深める努力をした。

（２） 企業との連携

①企業との連携事業、共同研究の環境づくり

食物栄養学科主催のお弁当献立コンテストでは、産学連携協定を結んでいる(株)フレスタ様にご後援を頂き実施した。また、学生の就職先の開拓にも貢献するビジネスフェアは中止となった。

②インターンシップをはじめ、企業との連携強化

キャリアセンターを中心にインターンシップの基礎作りと企業との連携強化を行った。

（３） 近隣教育機関との連携

①教育コンソーシアムへの参加

呉地域オープンカレッジネットワーク会議主催の「学生の夢実現プロジェクト」に関しては応募がなかった。

②高大連携の推進

教育ネットワーク中国主催の高大連携公開講座を 5 講座実施し、高校生 50 名の参加があった。

（４） 地域におけるプラットフォーム体制の整備

①行政、住民、企業、大学(研究機関)の連携基盤(プラットフォーム)の整備、確立

連携基盤の整備は実施できなかった。

１２-２　社会貢献

学生部次長（社会連携）　江坂　美佐子

【行動方針】

自治体、商工会議所をはじめとする関係機関とのネットワークを更に充実・強化し、地域の社会活動に貢献する。また、本学の知的資源や人的資源と地域社会のニーズをつなげ、本学の教育、研究成果を地域社会に還元する。

地域住民の文化的活動を支援するため、学習する意欲の啓発と学習機会の提供により、地域の生涯学習の中心になり豊かな生活の創造に貢献する。

【達成目標】

・本学が有する知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携を図り、地域社会が抱える課題の解決に貢献

・実践的な教育研究活動を通して持続的な連携事業の展開を実現するため、教育研究に関わる

連携事業の成果を蓄積し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成
・学習機会提供のため、本学が有する知的資源、人的資源および施設・設備を活用し、リカレント教育や学び直し教育の展開、充実に貢献
・地域社会のニーズに応じた各種講座の開講
・学生及び職員の地域活動、地域イベント及びボランティアへの積極的な参加

【取組内容の実際および評価】
（1） 社会貢献活動の強化
①地域ニーズの収集と社会貢献活動の強化
地域の状況に応じた連携を進めた。食物栄養学科では、地元企業や生産者と連携し活動を続けた。
②地域社会が必要とする人材の育成
教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実践し人材の育成に努めた。
③学生及び職員の社会活動への参加支援
コミュニティ生活学科では、「太田川河川敷清掃活動」（広島北ロータリークラブ主催）に参加した。食物栄養学科では、地元伝統野菜の祇園パセリの料理講習会（JA 広島市との連携）を実施した。
④教育研究活動を積み重ね、本学の地域性を発揮
子ども・子育て支援研究センターを設置し、利用を開放し地域の課題解決に貢献する体制は確保している。
（2） リカレント教育の充実
①地域の求める学び直しの場（学習機会）を整備、提供
ニーズ調査の検討を進めている。また、学内のプロジェクトによるリカレント教育の在り方を検討している。
②教員免許状更新講習の開催
保育学科では、子ども学科と協力して現職教員のニーズに沿うような免許状更新講習を開設し実施した。
③雇用保険法に規定する教育訓練講座等の開講
本年度は実施しなかった。
④高齢者の学び直しにつながる定年後世代を主な対象にしたキャリア形成目的の学習機会（履修証明付きプログラム）を提供
提供しなかった。雇用保険法に規定する教育訓練講座等の開設を検討中である。
（3） 公開講座の充実
①生涯学習講座の実施
生涯学習センターの講座を開設した。
【総合評価】

・知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携、協働を図り、地域社会が抱える課題の解決に寄与し、また地域連携に関するノウハウを蓄積して、地域連携活動を具体化するについては、活動に制約のある中、方法を変更して実施するなど地域と連携、協働を図った。
・対人援助研究の強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する地域社会のニーズに対応するについては、新たな対応はできなかった。
・自治体、産業界（経済団体、企業）との包括連携協定による連携推進のための会議を定期的に開催し、地域連携事業を推進するについては、会議を行い、事業推進を図った。
・地域、企業や教育コンソーシアムと連携し、学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークを実施については、活動に制約のある中、できる限り地域での活動に参加し、地域と連携を深める努力をした。
・地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進し、地域関係機関、経済団体、教育機関等が連携できる体制、環境を整備、確立については、連携基盤の整備はできなかった。
・実践的な教育研究活動を通して持続的な連携事業の展開を実現するため、教育研究に関わる連携事業の成果を蓄積し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成については、各学科の教育課程を修得することで育成を行った。
・学習機会提供のため、本学が有する知的資源、人的資源および施設・設備を活用し、リカレント教育や学び直し教育の展開、充実に貢献するについては、教員免許状更新講習を行った。リカレント教育の在り方については今後も継続して検討していく予定である。
・地域社会のニーズに応じた各種講座の開講するについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となる講座もあったが、生涯学習講座は開講した。
・学生及び職員の地域活動、地域イベント及びボランティアへの積極的な参加については、活動に制約のある中、できる限りの活動に参加した。

１３．　図書館

図書館長　教授　萱島　隆之

【行動方針】

ディプロマ・ポリシー（知識・理解，汎用的技能，態度・志向性，総合的な学習経験と創造的思考力）を支える場として、学術情報資源を提供し、学生の主体的な学修と教育職員の研究という知的生産を支援する図書館機能を確立する。

【達成目標】

・図書館利用の活性化（利用比率増）
・教育研究資料の安定した収集（学生数に応じた図書費確保）
・学内知的生産物のリポジトリ登録率 100％維持

１３-１　学生の学習支援

【取組内容の実際および評価】

① 教育のカリキュラムに直結した図書・学術雑誌・視聴覚資料他の資料の整備

・カリキュラムに直結した書籍等 1,520 冊の登録を行った。本年度は、音楽科用の楽譜とともに、保育学科の授業や教養科目の音楽授業に必要とされる楽譜を教員選書により整備、充実させた。

② 授業の終了時間を考慮の上、学生の教育研究上の支障がないよう延長開館を実施

・今年度は、新型コロナ感染緊急事態宣言や大雨による授業短縮や休館はあったが、開館日数は前年比 18％増であった。開館期間には学習環境の提供の場として延長開館を継続した。

③ ラーニング・コモンズやノートパソコンなどの施設設備が有効に活用され、アクティブラーニングが導入された能動的な学習が深化するように支援

・ラーニング・コモンズ利用状況は 901 名（18.3%減）であった。専攻科学生など少人数を対象とした講義や食品表示検定など同じ目的に向かって勉強するグループ学習、また、卒業研究発表の練習場として活用された。

・文献・論文・新聞などを調べて収集した情報を整理するため、ノートパソコン 20 台を貸し出している。これによりレポート作成やアクティブラーニングの学習に向けて利用された。（ノートパソコン利用回数 1,354 回）

１３-２　教育職員の研究等の支援

【取組内容の実際および評価】

① 国立情報学研究所や他大学図書館・諸機関と連携して、多様な学術サービスを共有し速やかな文献入手体制を整備

・他大学間相互貸借制度へ参加し、文献複写では、他大学からの受付とともに他大学への依頼件数が 180 件と大幅に増加した（3.4 倍)。

② 学内知的生産物を収集・情報発信していくため、広島県共同リポジトリ機能の安定化

・広島文化学園短期大学紀要 Vol.54（論文 7 点）をリポジトリに登録(登録率 100%)した。

１３-３　学術情報環境整備

【取組内容の実際および評価】

① 紙媒体資料の目録データを整備するとともに、図書等や施設・設備を整備

・資料の収集・蓄積・提供・学術図書中心の蔵書構築と計画的な除籍サイクルを実施し、年度末には登録数が 65,489 冊となった。

・感染症予防対策として、昨年に引き続き座席数の 30%削減、閲覧机のパーテーション設置、室内換気と机・ドアノブ・PC などの消毒を毎日実施した。

② 学術研究・教育の多様化に対応した、電子リソース（電子ジャーナル、電子書籍、データベース等）の情報資源の提供

・2 か月間の電子書籍試読サービスを 2 回行い、全キャンパスから年間 1,467 回（前年 139 回）と大幅にアクセスが増加し、SPI や一般常識・保育士受験の問題集、AI 関連書・解剖生理等の分野が読まれていた。また、オンライン授業期間中でも学外からアクセスできるよう ID/パスを配信した。

③ 図書館ネットワークの情報整備基盤を確立、次期図書館システムの選定・構築

・現行の図書館システムが令和 3 年度末に製品終了するため、プロジェクト会議を経て新システム業者が選定され契約された。旧システムから新システムへ必要な所蔵データの移行、図書館職員の新システム操作講習会など令和 4 年度稼働に向けた準備を行い新図書館システムの構築を図った。

１３-４　地域連携

【取組内容の実際および評価】

① 本学の子育て支援施設であるぶんぶん広場の開室の動向を見守りながら、施設の活用や地域住民の受入

・新型コロナ感染対策のため、学外利用者の入館を制限した。 12 月にぶんぶん広場が再開

され、図書館の絵本を一部設置した。

② 公共図書館と大学図書館との連絡を通じた情報交換

・広島県大学図書協議会の総会で公共・大学間の情報共有を行った。また、私立大学図書館協議会中四国地区研究発表を実施した。

【総合評価】

・令和 3 年度も、新型コロナ対応のため閉館や短縮開館措置が取られたため、開館日数は増えたが座席数減により利用者数は 17%減となった。このため、達成目標である利用比率増には及ばなかった。しかし、完全なコロナ感染対策を行い館内パソコンの貸出、ラーニングコモンズの活用を始め利用学生への最大限の便宜を図った。

・教育研究資料の安定した収集では、教育のカリキュラムに直結した図書・学術雑誌・視聴覚資料他の資料を収集することができた。また、電子リソース（電子ジャーナル、電子書籍、データベース等）の情報資源収集に努め、特に、電子書籍アクセス数は 1,467 回と大幅に増加した。また、閉館期間中においても学外 ID/パスを提供するなど利用者への便宜を図った。

・国立情報学研究所や他大学間の文献複写制度が充実し、利用者が増加した。また、学内知的生産物である紀要などのリポジトリ登録も 100%完了した。

１４．システム

システム開発管理センター長　岡　隆光

【行動方針】

本学園の情報環境安定運営を目的とし、学園ネットワークインフラの整備・管理、および情報セキュリティの強化に努めるとともに、業務効率化を目指し HBG システムの安定運用を進めていく。加えて ICT ヘルプデスクサービスを拡充させ FD・SD に対する ICT 支援を行っていく。

【達成目標】

・次期リプレースの円滑な実施
・授業支援システム（C-Learning）の学生利用率 90%
・インシデント情報共有と緊急対応手順確立
・ICT 活用講習会の実施

【取組内容の実際および評価】

（１）学園ネットワーク運用整備

令和４年度（2022 年度）の学園情報サービスとして、サーバー環境及びクライアント環境の１年間の再リース案を策定し予算化した。

令和 4 年度はシステム運用費の低減に努め限サービスの継続安定利用に努める。

（２）情報セキュリティ対策

必携（推奨）PC 導入に向け必要な学園情報セキュリティを検討中。令和 4 年度（2023 年度）のシステムリプレース時に全体計画と共に検討する。

2021 年度大学情報セキュリティ WEB 研究講習会（令和 3 年 11 月 18 日）参加

2021 年度広島県大学情報センター等連絡 WEB 協議会（令和 4 年 2 月 16 日）参加

（３）研究教育支援拡充

ICT 支援員によるヘルプデスクは年間 3,600 件のサポートを実施した。オンライン授業の増加に伴い IT 環境の利用が促進されサポート内容も高度化し範囲も拡大している。

（４）HBG システム充実

令和４年度の人間健康学研究科開設と人間健康学部カリキュラム改訂に伴った HBG システム改修を行った。

【総合評価】

令和 4 年度（2023 年度）の学園情報サービスを決定した。令和 4 年度は現サービスの 1 年間の再リースとし費用の低減を図った。

令和 5 年度（2024 年度）の学園情報サービスシステムリプレースに向け検討を開始した。

令和 4 年度から開始される個人 PC 推奨利用に伴い学園情報セキュリティの基本方針の見直しを始め、令和 5 年から必携化される個人 PC 利用に向け無線 LAN 利用における学園情報セキュリティの高度化を検討することにした。情報収集として WEB で実施されたサーバーセキュリティサービス講習会等に参加した。

研究教育支援を目的とした ICT 支援サービスは年間 3,600 件行っており、特にコロナ禍においては「遠隔授業」「授業の IT 化」「WEB 会議システム」に関するサポートが急増し、積極的に対応した。

HBG システムの充実を目的とした製品サービス導入に向け、計画を策定し予算計上を行った。承認されれば教務システムに加え、財務、会計を含んだ学園システムの構築及び学生サービスを目的としたポータルサイトの構築を目指す。このため関係する組織と緊密に連携して作業を進める。

１５．　ＩＲ

IR 推進センター長　松元 健治

【行動方針】

学長を中心とした教学マネジメントの強化による内部質保証を中核とした IR 機能を充実させ、情報の収集、調査・分析を組織的に行うとともに、各種データの一元管理を推進し、教学と経営に関する政策形成を支援する。

【達成目標】

・IR 業務の段階的整備、データの一元管理体制の構築
・研修などへの積極的な参加、IR 業務のためのレベル向上
・学生の成長を評価し、その評価を可視化できるようなシステムの構築

（１）IR 業務の段階的整備、データの一元管理体制の構築

大学認証評価エビデンス集にかかる、各センター・委員会等の取り扱いデータ集約の作業を集中的に進めた。6 月末の時点で作業を終了した。

（２）IR 業務に求められる職員の資質向上

担当部署のデーター一からピックアップして、IR 推進委員・専門委員の立場で、データの目的、調査項目、結果の整理と分析、改善策などの適切性をチェックする作業を開始した。IR データの分析体制の推進という目的とともに、職員の IR 資質向上のねらいがある。次の段階として、チェック内容を各委員の所属部署へフィードバックするまで展開して行く。

（３）学生の成長プロセスを可視化できるシステムの構築

令和 3 年度版の学修履歴証明書作成に向けて、教学支援センター・システム開発管理センターと連携して、様式の確定、学生本人による入力作業等を展開した。前期情報による発行分から、短大実施の SPI も組み込んだフォーマットを構築して発行した。

（４）情報の収集及び分析を通じた学園経営及び大学運営への支援

看護学部国家試験対策プロジェクトにおける情報分析チームの活動について、政策支援 IR の先駆的事例としてセンター会議で取組状況を共有し、効果的な分析方法等について検討を行い、各種資料展開と報告を実施した。

【総合評価】

〇データの一元管理体制の構築と分析を通じた IR 業務に求められる職員の資質向上

大学認証評価エビデンス集にかかる、各センター・委員会等の取り扱いデータ集約の作業を集中的に進め、6 月末の時点で作業を終了した。また、IR データの分析体制の推進と職員の IR 資質向上を目的に、IR 推進委員・専門委員の立場で、データの目的、調査項目、

結果の整理と分析、改善策などの適切性をチェックする作業を開始した。次の段階として、チェック内容を各委員の所属部署へフィードバックするまで展開して行く。

〇学修履歴証明書の発行にかかる計画的な展開
令和 3 年度版の学修履歴証明書作成に向けて、教学支援センター・システム開発管理センターと連携して、様式の確定、学生本人による入力作業等を展開した。前期情報による発行分から、短大実施の SPI も組み込んだフォーマットを構築して発行した。次の段階として、学部・学科等の組織としての学修成果達成度の測定にも資するよう展開を拡充する。

〇看護学部国家試験対策プロジェクトにおける情報分析チームとしての活動
政策支援 IR の先駆的事例としてセンター会議で取組状況を共有し、効果的な分析方法等について検討を行った。IR による提案機能の事例として大学認証評価で説明し、取組み実績としての評価を得た。

１６．　リスク管理

事務部長　冨永　泰三

【行動方針】

永続的な学園運営を遂行するため、経営の規律、誠実性を堅持しつつ、法令を遵守することはもとより、職員一人一人が高い倫理観を持つよう徹底する。

職員及び学生の危機管理意識の向上を図るとともに危機管理の組織体制、職員の役割、情報の連絡体制、事前・事後対策を周知・徹底することで、危機事象発生の未然防止を図るとともに、発生時には迅速な対応を行う。

【達成目標】

・リスクマネジメントの強化（危機事象発生の未然防止及び発生時の適切な対応と再発防止の徹底）
・監査体制強化（内部監査体制を強化し、法令遵守の徹底）
・組織倫理の確立（コンプライアンス意識の定着、高い倫理意識を持ったモラル・モラールの向上）

【取組内容の実際および評価】

（１）リスクマネジメント体制の強化

①危機管理マニュアルの周知・更新

・コロナ対策として，計１８回にわたり全学での緊急対策本部会議を開催した。開催にあたっては，学内の感染者発生状況を勘案しつつ，迅速・的確な対応のため，リモートによる開催を拡大した。

②危機に対する組織体制及び責任体制の見直しと強化

・リモート授業を取り入れた教学上の対策や、個人の健康管理、勤務体制の変更、移動の規制・管理などを通じて、新型コロナウィルス症感染拡大防止を、最優先課題として取り組んだ。
・自然災害時の出勤体制について、職員の安全の確保を図り、気象状況に、より的確に対応できるよう見直した。

（２）監査体制の強化

①本学園の経営状況や周辺環境を注視しつつ、効果を最大限に発揮できる監査計画の立案
監事については年度当初に監事監査計画を作成する。監査法人については、第 2 四半期に監査日程・監査方針の調整を行う。法人事務局は、監事や監査法人と効果的な監査が実施できるよう十分に協議を行う。

・監事については、7 月に開催した監事協議会で本年度の監査計画を作成し，重点計画を明記した。監査法人については、11 月に監事が同席して、監査日程・監査方針の調整を行った。

②監査計画に基づく監事、公認会計士による監査の実施

監査計画等に基づいて、監事は年度を通して、監査法人は第 3 四半期から翌年度第 1 四半期まで監査を実施する。法人事務局や各キャンパスでは、監事や監査法人の監査に的確に対応する。

・監事については、令和 3 年度の監査計画に基づき 7 月から毎月業務監査を行っている。監査法人については、令和 3 年度の会計監査方針に基づき 11 月から監査を行っている。（令和 4 年 5 月まで実施する。）

③内部監査の充実、監事との連携による監査体制の強化

令和３年度監事監査計画と合わせて内部監査計画を作成し、監事と連携しながら内部監査（定期監査）を実施する。また、必要に応じて特別監査を実施する。

・内部監査については、令和 4 年 2 月に監査室において各キャンパスの定期監査を実施した。

（３）組織倫理の確立

①社会的責任を負う機関として必要な組理倫理に関する規程の整備・運用

ガバナンス・コード、公益通報等に関する規程、ハラスメントの防止等に関する規程、利益相反マネジメント規程、各学部等の倫理委員会規程等に基づき適切に対応する。

・学園のガバナンス・コードを，経営計画の年度ローリングの改訂内容とともに，理事会において周知を図った。

②学園コンプライアンスの確立と周知

職員研修会等で、法令、学内規則等の周知とコンプライアンスに係る意識向上を図る。

・科研費の制度説明と合わせて，研究不正に関する研修を実施するとともに，すべての職員を対象に．毎年実施している日本学術振興会の「研究倫理 e ラーニング」による研修を実施した。（修了証書の提出を求めた。）

③職員一人一人が危機事象を共有し、迅速・適切な対応ができるような研修・訓練（利益相反マネジメントに係る研修等）の実施

・各キャンパス毎に、地勢的特性等を考慮した避難計画を立案し、避難訓練を実施するとともに、検証を通して、個々の対応や組織的行動の見直しを図った。また、業務に起因するリスクについては、最新情報や全国的な動向を入手し、リスクの発生を未然に防ぐ体制づくりを進めた。

④情報の公開

個人情報の保護に最大限配慮しつつ、情報の的確な開示・提供により、手続き等の透明性を確保することで、組織全体のコンプライアンスの確立に努める。

・「情報の公表」や「大学ポートレート」の作成により，積極的に情報を公開すると同時に，より的確な大学情報の提供のため、ホームページのリニューアルを実施した。

【総合評価】

（１）リスクマネジメント体制の強化（危機事象発生の未然防止及び発生時の適切な対応と再発防止の徹底）

コロナウィルスの感染拡大に応じて、フレキシブルに対策会議を開催するなど、遅滞なく対応しているが、終焉が見通せないこともあり、対応の検証を、改めて行う必要がある。

（２）監査体制強化（内部監査体制を強化し、法令遵守の徹底）

監事による監査及び監査人による監査は計画通り実施しており、内部監査も令和4年2月に計画通り実施した。引き続き、監事及び監査人と連携して的確に監査業務を執行し、財務及び業務運営の適正化に努める。

（3）組織倫理の確立(コンプライアンス意識の定着、高い倫理意識を持ったモラル・モラールの向上)

昨年に引き続き、全職員を対象に、研究倫理にかかるｅラーニングを実施するなど、高い倫理意識の醸成に力を入れている。

また、部会や職域の研修会を通して、法的根拠の確認や、規程の整備を徹底するなど、業務に密接に関連するところからコンプライアンス意識の定着が図られている。

１７．　自己点検・評価

ALO　矢野下　美智子

【行動方針】

大学の教育の質の向上を図るため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自己点検・評価を行い、その評価結果の情報を公表する。

PDCA サイクルに従って自己点検・評価の結果分析を踏まえて検証を行うことにより、教育の内部質保証の充実を図る。

【達成目標】

・大学機関別認証評価における「適格」認証の評価を獲得する。
・大学・短大とも認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を毎年度作成する。
・自己点検評価・報告書の点検内容について、評価することに止まらず、PDCA サイクルを確実に実践する。

１７-１自己点検・評価の徹底

【取組内容の実際および評価】

① 本学の自己点検・評価に関わる組織の点検及び評価

令和元年度、一般財団法人短期大学基準協会から認証評価の適格認定を受け、その後も自己点検・評価に関わる組織と規程及び実施細則の点検を実施している。

② 内部質保証のための本学の組織整備

自己点検・評価の中核に内部質保証を位置付けて、自己点検・評価委員会を中心に組織体制を整備している。

③ 内部質保証のための本学全体の PDCA サイクルの確立と機能性確保

短大の内部質保証を促す PDCA サイクルの確立のための組織づくりを行い、責任体制の明確化と機能性確保に努めた。

１７-２　自己点検・評価による PDCA サイクルの確立

【取組内容の実際および評価】

① 中期経営計画に基づく年度事業計画を自己点検・評価に基づき策定(Plan)

【教職員個々人の年度目標の策定】

短期大学の自己点検・評価委員会で、教職員の年度目標策定を促し、その集約を行った。

②年度事業計画に基づく適切な事業の実施(Do)

【教職員個々人の年度目標達成への取り組み実施】

策定した目標達成を目指して、センター等各部署及び教職員の取組みを実施した。

③ 実施事業について中間及び年度末の自己点検・評価の実施(Check)

【教職員個々人の年度目標達成への取り組み実施後の自己点検・評価の適切な実施】

目標達成への取り組みの成果と残された課題について、短期大学協議会等で自己点検・評価中間報告と最終報告を集約することにより明確化と共有化を図った。

④ 自己点検・評価に基づく課題の明確化と改善策の次年度計画への反映(Action)

【教職員個々人及びセンター等各部署による年度目標への取り組み実施後の自己点検・評価の適切な実施の推進】

個人と組織の年度目標策定と実施後の自己点検・評価を計画的に行い、PDCA サイクルの確立を推進した。

１７-３　機関別認証評価の受審

【取組内容の実際および評価】

(ア)短期大学基準協会（短期大学を評価）による令和８年度認証評価受審（第 4 クール）に向けた対応準備、備付資料データ等の更新・蓄積

短期大学は、短期大学基準協会による 2026 年度認証評価受審に向けて、提出資料及び備付資料等の整理に努めている。また、毎年度、自己点検・評価報告書の作成を行っており、本年度も本学規程に基づき自己点検・評価のための作業を計画的に行っている。

１７-４　内部質保証のための仕組みづくり

【取組内容の実際および評価】

内部質保証への取り組みを効果的に実施するため、恒常的な組織体制を整備し、責任体制を明確化

① 内部質保証のために自己点検・評価体制を確立する

【自己点検・評価、ＰＤＣＡサイクルの仕組みの確立と機能性確保】

短期大学基準協会で定めている内部質保証のための基準に従い、PDCA サイクルに該当する具体的な事項と組織体制を明確化した。学修成果の可視化に向けて学修履歴証明書の作成作業を計画的に進めた。

１７-５　教職員個人、各部署及び大学全体による PDCA サイクルの確立

【取組内容の実際および評価】

① 教職員個人による年度目標作成と実施後の自己点検・評価の実施と上席者による評価

② 本学各部署による自己点検・評価の適切な実施体制の確立及び責任体制の強化

③ 学生による PDCA サイクルの確立支援

教職員及び各部署による目標設定、実施後の自己点検・評価を集約した。

HBG 夢カルテ、授業評価アンケート、学修履歴証明書等により、学生による自己点検評価体制の充実を推進した。

【総合評価】

・機関別認証評価における「適格」認証の評価

令和元年度、一般財団法人短期大学基準協会から機関別認証評価において「適格」の認証を受けた。

・認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を毎年度作成

令和元年度の認証評価後も、認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を毎年度作成している。

・自己点検評価・報告書の点検内容について、評価することに止まらず PDCA サイクルを実践

大学・短期大学協議会等で各部署の自己点検・評価の中間報告と最終報告を集約し、学園全体で課題の明確化と共有化を推進した。

【参考資料】

令和３年度卒業生

卒業研究

～セミナーの指導について～

本学では 2 年次に「卒業研究」を設け、セミナー担当教員が研究論文や作品制作等をきめ細かく指導し、卒業前に成果を公表する場を用意している。単位数は通年で 2 単位だが、卒業するための必修科目としていることから、みな真剣に取り組んでいる。この「卒業研究」は、短大生活の総決算として学業を締め括る意味からだけでなく、困難に思える課題を克服する喜びや達成感を味わい、一人ひとりを大きく成長させるために、セミナー担当教員も真剣に対応している。

令和 3 年度卒業生の研究成果は、以下のとおりである。

(1)コミュニティ生活学科

研究テーマ	学生氏名		(指導教員名)
カフェについて(料理編)			(海切　弘子)
片岡　桃	瀧口　莉乃	多田　宇見	広田　理己
水田　楓		水田　楓	
カフェについて(スィーツ編)			
正田　愛実	西島　佳歩	細木　百々	横山　舞
アパレル産業の課題とエシカルファッション			(小林　裕子)
岡野　唯菜	倉田　朋花	宍戸　希羽	城本　唯
長松　華凛	松浦　美樹	宮本　愛優奈	
「エシカルファッションに基づいたファッションショーの衣装制作の取り組み」について			(高橋　佑子)
赤木　由衣	天川　みう	石飛　直子	井上　歩美
大江　亜未	岡崎　日奈子	香川　梨緒	樫山　知南
金子　紗奈	紙谷　真央	楠　美優	国重　麻実
近藤　珠梨	坂本　美玖	下田　明日香	中山　佑奈
平川　千愛蓮	三津山　愛花	吉清　樹里	
株式会社ユニクロとエイチ・アンド・エム　ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社の社会貢献活動について			(久松　政司)
中﨑　陽奈	西川　瑞希	濱尾　映花	守下　夢奈
横山　朱里	吉井　恵美		

株式会社ファミリーマートと株式会社ローソンの社会貢献活動について

安藤　愛奈	池上　香月	宇根　聖矢	河野　円香
佐々木　優	佐野　桜優	下護　有佑未	

第２３回卒業制作ファッションショーのフライヤーデザインの提案　（廣兼　孝信）

島本　澪	天野　琳香	今田　莉々杏	上村　麗奈
岩見　萌音	植村　遥	上本　結香	江浦　栞音
大下　日菜	大月　琴未	折口　愛里沙	菊池　夏海
髙畑　美咲	長埒　蓮華	福谷　奏穂	藤井　咲彩
宮本　稀未	安本　英華	山﨑　舞邪	

（廣澤　美花）

コロナ禍での結婚式の演出	石田　友那	ウェディングドレスの世界	磯道　朱音
私の理想のウェディングプランニング	今西　優佳	近年の結婚のかたち	上田　碧
ウェディングケーキについて	恵京　詩音	理想の結婚式に向けて	岡本　珠実
結婚式の歴史について～私の理想とするウェディング～	尾崎彩乃	ウェディングドレスの歴史	菅原　菜々子
日本と韓国の結婚式について	曾我　麻乃	高額な挙式・披露宴を低予算で押さえるには	田村　彩花
バレンタインウェディングのプランニングについて	為久　優花	クリスマスウェディングプランニングについて	野田　梨央
「海と自然をテーマにしたウェディング」のプランニングについて	平岡　彩佳	二年間で修得したブライダルについて	福本　舞華

アルネ・ヤコブセンのインテリア作品について　（古川　博仁）

井本　莉華子	木坂　まゆ	匠　ひより	竹場　菜々子
森脇　夕萌			

インテリア・デザイナーの巨匠・アルネ・ヤコブセン(インテリアデザイン思想)

池森　由梨	大下　羽楽	栗原　明日香	白川　玲亜
西　杏樹	森川　花和		

(2)食物栄養学科

研究テーマ	学生氏名		(指導教員名)
オートミールについて			(石尾はつみ)
今井 美優	上田 真鈴	小先 舞優	髙﨑 日奈子
竹村 幸恵			
祇園パセリのメニュー開発（第 12 報）			(江坂美佐子)
安達 愛夏	有地 百菜	安藤 愛音	和泉 悠花
大久保 明香	岡本 七海	角戸 姫楠	黒崎 蓮
佐藤 春奈	土井 紫音	桧川 美遥	村上 智恵美
矢田 唯十			
ベジタブルシートについて			(岡田　正浩)
近藤 涼介	白石 沙耶香	鈴木 梨緒菜	竹田 愛唯
枋木 梨香子	野間 音登		
グラノーラの正しい活用法			(萱島　隆之)
海切 光里	加茂 夏実	田窪 美栞	橋本 まひる
樋口 弓真	藤井 穂乃香	松上 梨乃	
おこめんを使ったレシピの活用			(村田美穂子)
金丸 桃歌	佐谷　海咲	御手洗 早姫	若林 真由
米粉クッキーの応用			(村田　美穂子)
上田 莉里香	宇都宮 夏実	川本 鈴菜	北里 友海
北瀬 杏奈			

特別研究（専攻科栄養専攻）

研究テーマ	学生氏名	(指導教員名)
栄養士養成校における調理実習の授業形態についての意識調査		(村田　美穂子)
向井　優那		

(3)保育学科

研究テーマ	学生氏名		(指導教員名)
笑顔が広がる造形活動　～造形って楽しい～			(清見　嘉文)
朝倉　真輝	古賀　ゆつき	新谷　はるか	高橋　璃子
西村　愛咲美	溝部　星良	森重　友賀	渡邉　亮祐
絵本を題材として身体表現の研究 ～「おおかみと七ひきのこやぎ」～			(矢野下美智子)
澤里　優衣	下原　結葉	西見　舞音	平野　萌音
平藤　水咲	福田　温斗	藤森　大輔	元廣　萌花

吉本　楓花

気になる子どもの理解と支援について　（末次　絵里子）

島田　　萌　　島本　光梨　　田川　花笑　　竹岡　夢治
田邉　梨七　　谷口　文稔　　友光　龍翔　　入道　柚月
正木　佑奈　　六郎　和佳奈

野菜の栽培　（三川　明美）

伊藤　綺星　　鍵谷　莉乃　　片岡　美紅　　勝田　光希

健康な体を作るためには

青井　　海　　池田　愛梨　　猪俣　友花　　大倉　遥香
久保　優来

子どもの玩具について
～ユニバーサルデザインって知ってる？～　（西川　勝利））

河藤　澪麻　　小笠原　莉菜　　勝乗　美紅　　小林　　穏
中村　優菜　　仁井　日陽　　塚迫　霞那　　竹中　桃花
貞永　真希

砂場遊びにおける保育者の援助について　（金子　忍）

眞田　奈央　　砂田　来実　　高江　香蓮　　高橋　彩乃
立道　穂果　　中田　玲奈　　新本　佳代　　新田　千愛
藤原　栞凛　　萬屋　彩子

日本と中国の幼稚園比較　～１日の流れを手掛かりに～　（班　婷）

飯尾　真央　　石木　利奈　　今川　華月　　岩本　　詩
川岡　愛果　　獅子島　梓　　善　さくら　　左右田　心
柳田　望実

トムとジェリー　～映像と音楽の融合～　（佐藤　有紗）

板村　知奈　　河野　遥菜　　佐々木　美結　　白　　愛美
濱崎　橘香　　松村　亜美　　松本　麻衣　　村上　遥香
吉本　麻樹　　勝部　日奈子

満足度調査結果

学生部次長　西川　勝利

1　調査目的

本調査は、学生の学生生活全般に関する満足度及び学習成果の自己点検を調査するとともに、学内の施設・設備等についての意見及び要望を参考にして、今後の改善に向けた指針を得ることを目的とする。

2　調査時期

令和4年2月～4月

3　調査対象

在学生（短期大学1年生)、卒業予定の学生（短期大学2年生）

学科	1年生	2年生
コミュニティ生活学科	51名	58名
食物栄養学科	39名	31名
保育学科	50名	56名
合計	140名	145名

4　調査方法

自記式の調査用紙（無名式）

5　調査内容

1）満足度調査

6つの領域を設定し、【大学共通項目】と【学科毎の項目】について調査を行った。

領域（1）教務　（2）学生生活　（3）キャリアアップ　（4）自治会活動

（5）施設　（6）総合

[4段階評価]

1:「不満」　2:「やや不満」　3:「やや満足」　4:「満足」

2）学習成果の自己点検

各学科のディプロマ・ポリシーに相当する項目を設定し調査を行った。

[4段階評価]

1:「身に付かなかった」　2:「あまり身に付かなかった」　3:「まあまあ身に付いた」

4:「身に付いた」

2021 年度　学生生活の満足度調査　結果報告（短期大学）

１．調査回答者

１年次　　１４０名

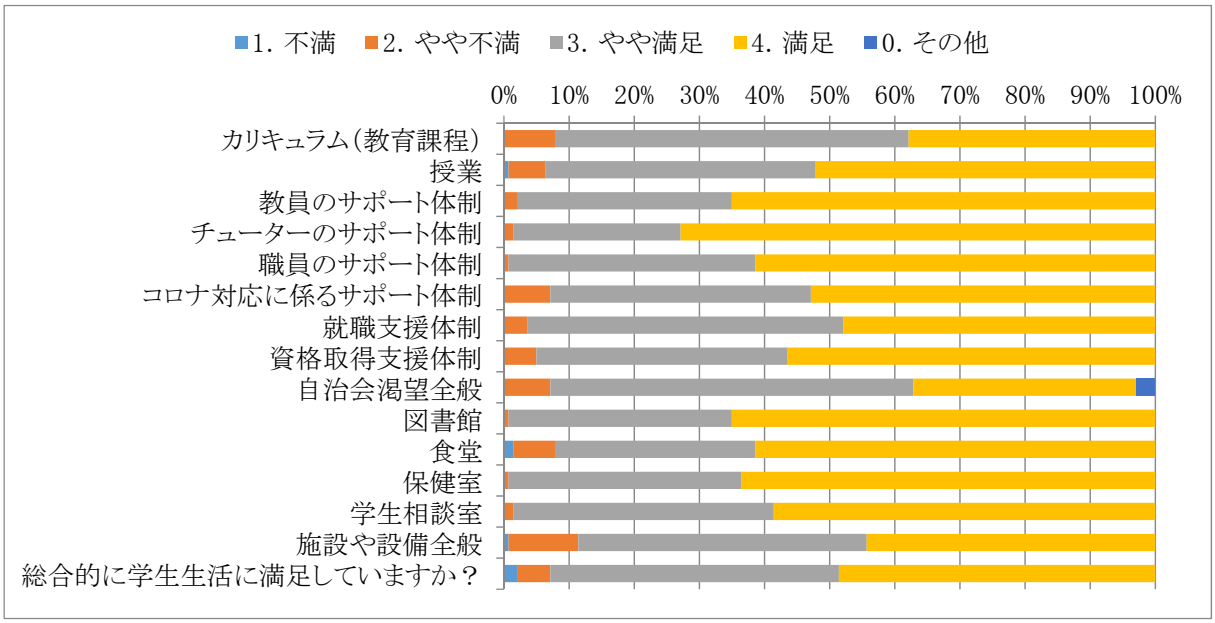
２　調査結果

●満足度調査【大学共通項目】（学部総数：３学科）

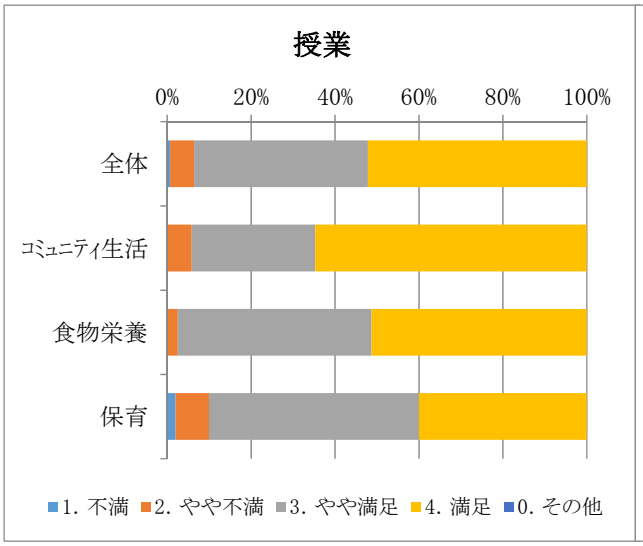
領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	11 人 8%	76 人 54%	53 人 38%	0 人 0%	140 人
	授業	1 人 1%	8 人 6%	58 人 41%	73 人 52%	0 人 0%	140 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	3 人 2%	46 人 33%	91 人 65%	0 人 0%	140 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	2 人 1%	36 人 26%	102 人 73%	0 人 0%	140 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	1 人 1%	53 人 38%	86 人 61%	0 人 0%	140 人
	コロナ対応に係るサポート体制	0 人 0%	10 人 7%	56 人 40%	74 人 53%	0 人 0%	140 人
キャリアアップ	就職支援体制	0 人 0%	5 人 4%	68 人 49%	67 人 48%	0 人 0%	140 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	7 人 5%	54 人 39%	79 人 56%	0 人 0%	140 人
自治会活動	自治会活動全般	0 人 0%	10 人 7%	78 人 56%	48 人 34%	4 人 3%	140 人
施設	図書館	0 人 0%	1 人 1%	48 人 34%	91 人 65%	0 人 0%	140 人
	食堂	2 人 1%	9 人 6%	43 人 31%	86 人 61%	0 人 0%	140 人
	保健室	0 人 0%	1 人 1%	50 人 36%	89 人 64%	0 人 0%	140 人
	学生相談室	0 人 0%	2 人 1%	56 人 40%	82 人 59%	0 人 0%	140 人
	施設や設備全般	1 人 1%	15 人 11%	62 人 44%	62 人 44%	0 人 0%	140 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	3 人 2%	7 人 5%	62 人 44%	68 人 49%	0 人 0%	140 人

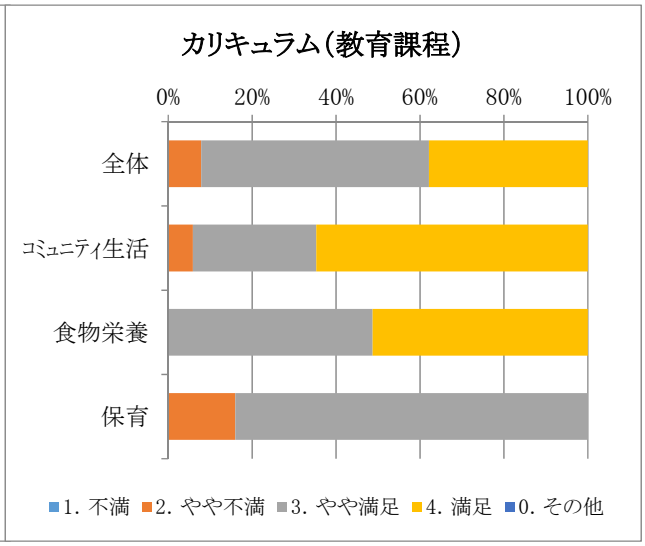
※「その他」は、無回答だったものです。

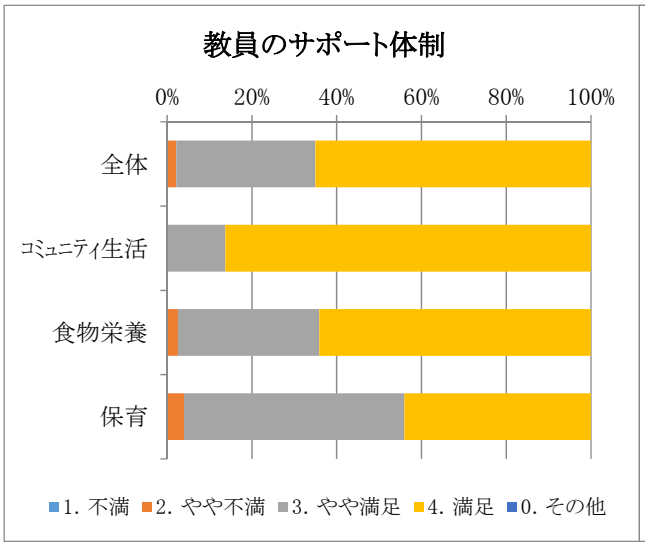
３　グラフ

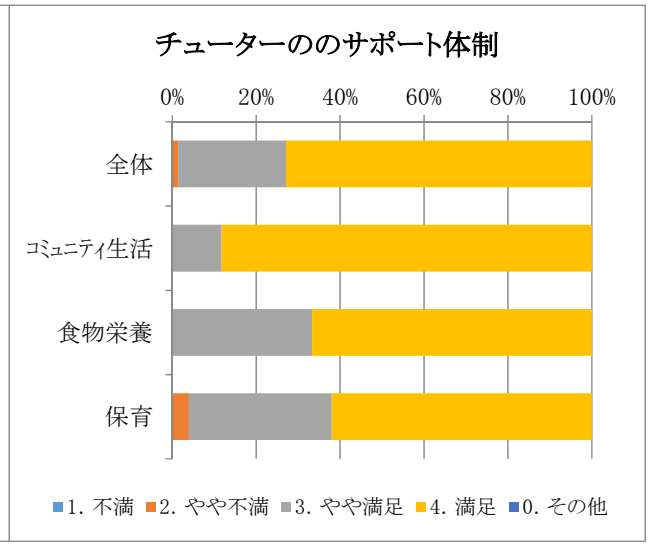


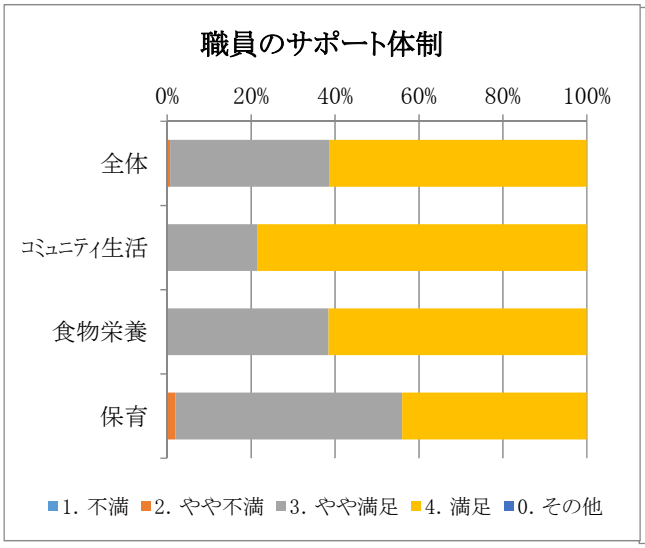
各項目別学科比較

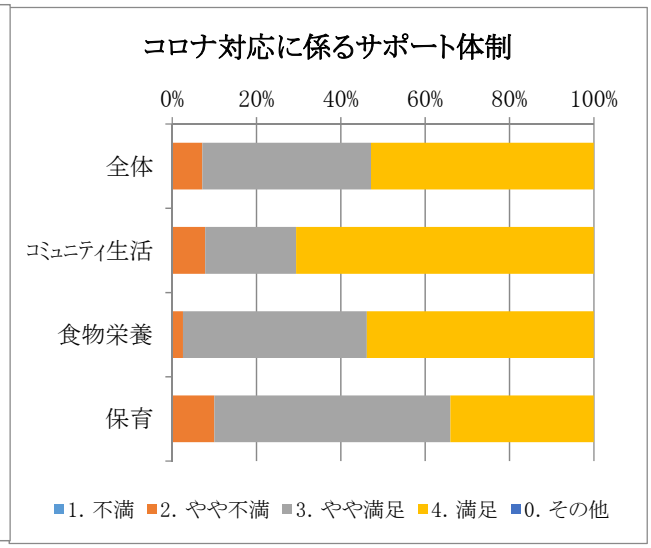




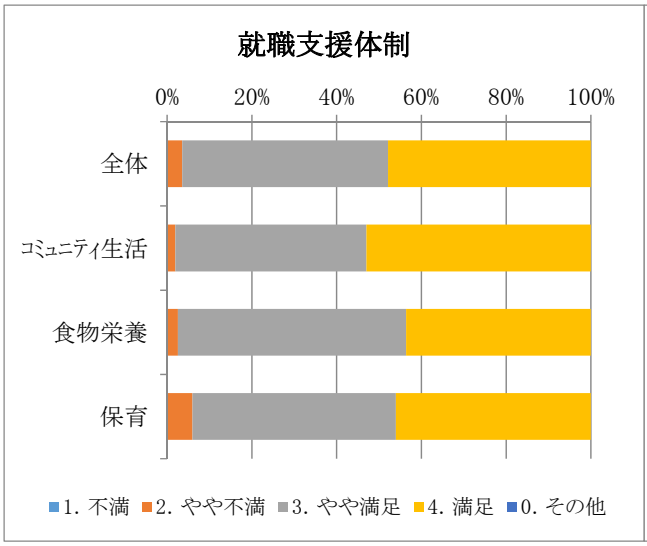


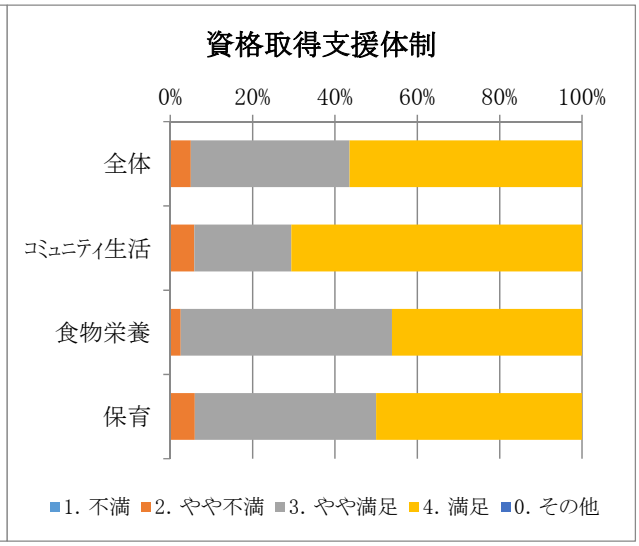


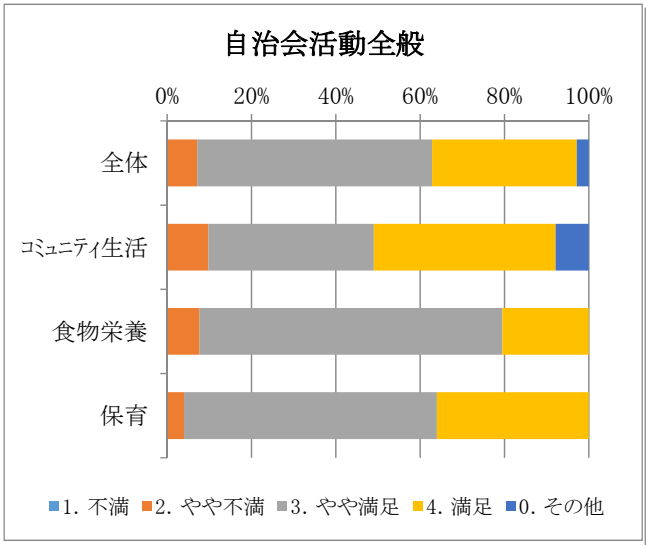


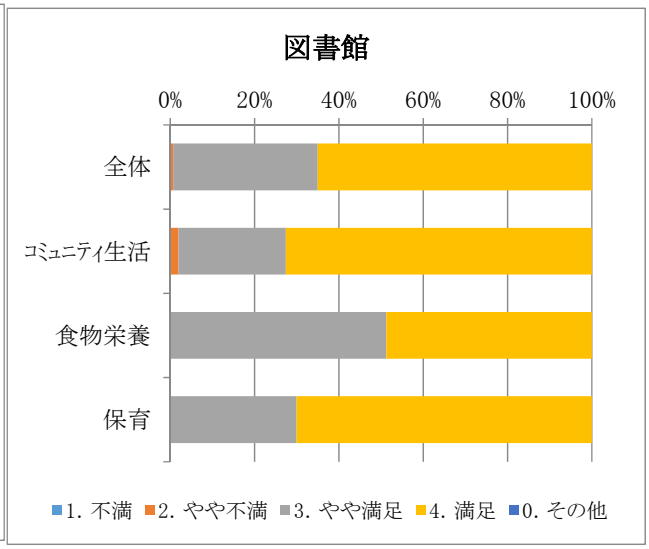


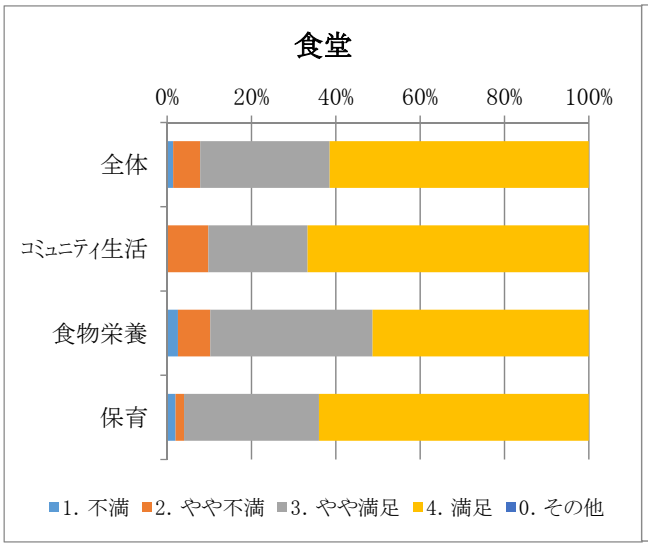
※「その他」は、無回だったものです。

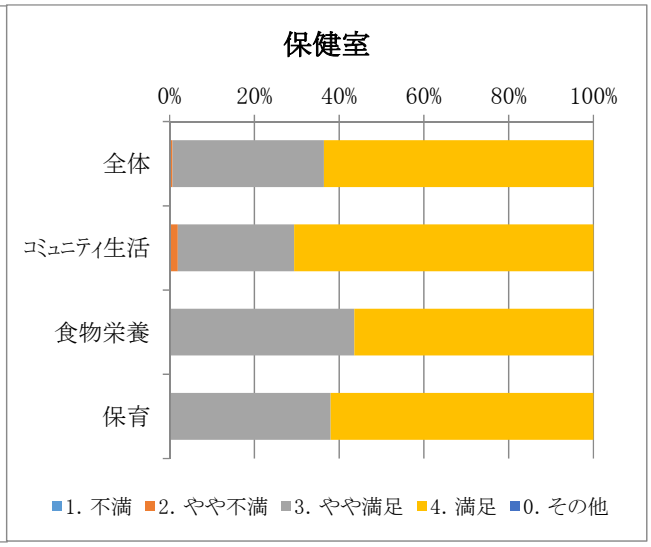




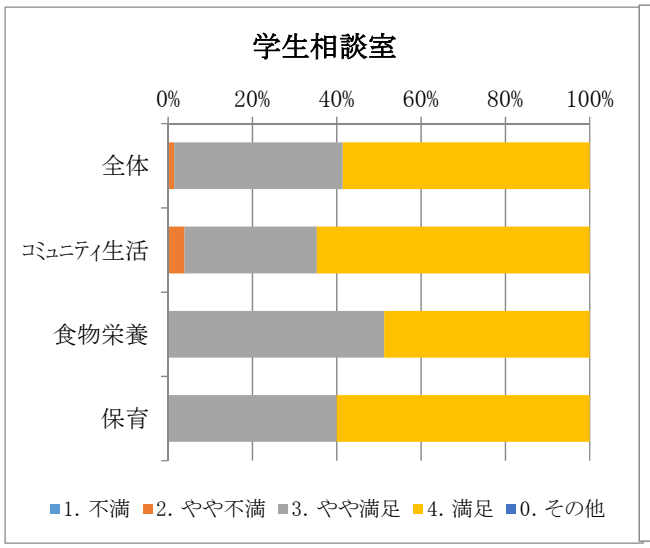


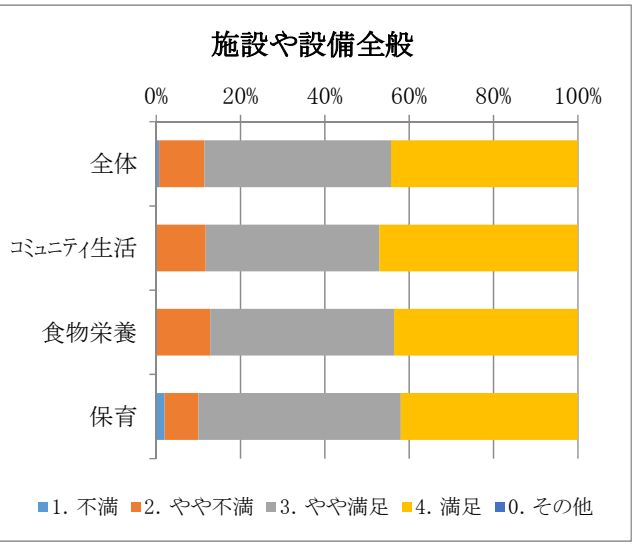


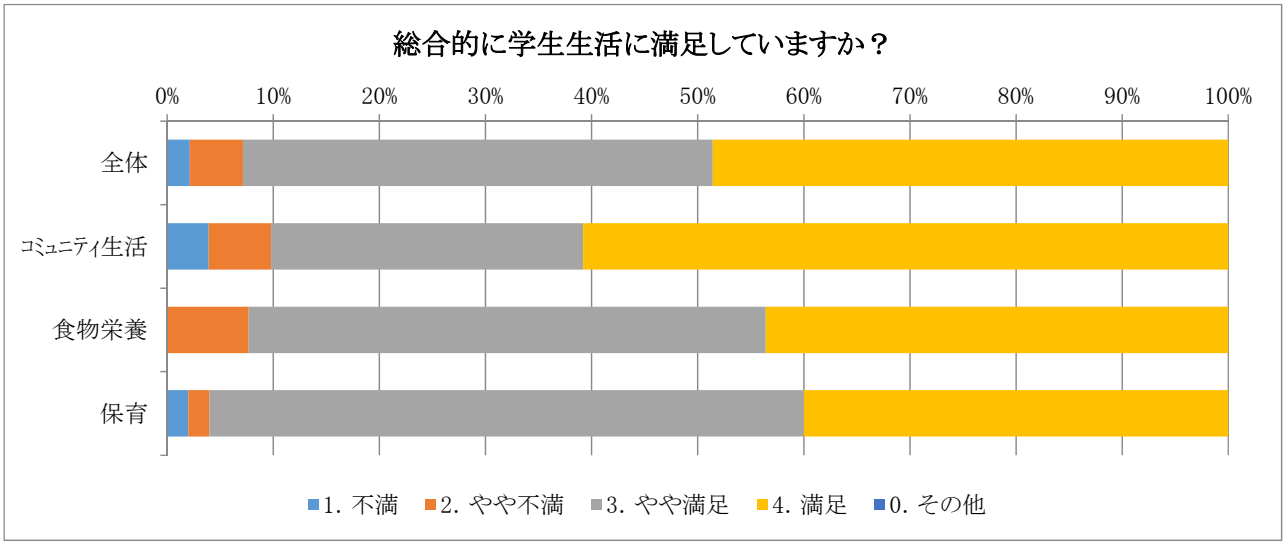




※「その他」は、無回答だったものです。







※「その他」は、無回答だったものです。

4　まとめ　　肯定的な評価は「やや満足」＋「満足」、　(　)内は昨年度%

（１）　状況と課題

短期大学全体として、全体的に極めて高い評価を得ている。多くの項目で目標の 90%を超えており、特に教員のサポート体制 98%（95)、職員のサポート 99%（95）と 100%に近い評価となっている。評価が１番低いのが施設や設備全般だがそれも 88%（75）と目標に近い。この項目だけが 90%に届いていない状況だった。総合的な満足度は 93%（80）であった。課題はこうした高い評価を今後も維持することにある。

（２）　要因分析

高い評価を得られた要因について、コミュニティ及び食物栄養は「チューターによるきめ細かい指導」、保育は「学生本位のサポート体制づくり」をあげている。コロナ禍にあっても最大限の支援を受けていると学生が受け止めた成果だと考える。

（３）　本年度の対策

高い評価を得られる取組を継続すること、学科の方針を明確にする中で学生の指導・支援を継続して学生の成長を図る取組を継続する。

（4） 自己点検のまとめ

各学科で力を身につけたと肯定的に評価をしている割合がほぼすべの項目で 90%を超えており、高い評価を得ている。

2021 年度　学生生活の満足度調査　結果報告（短期大学）

１．調査回答者

２年次　　１４３名

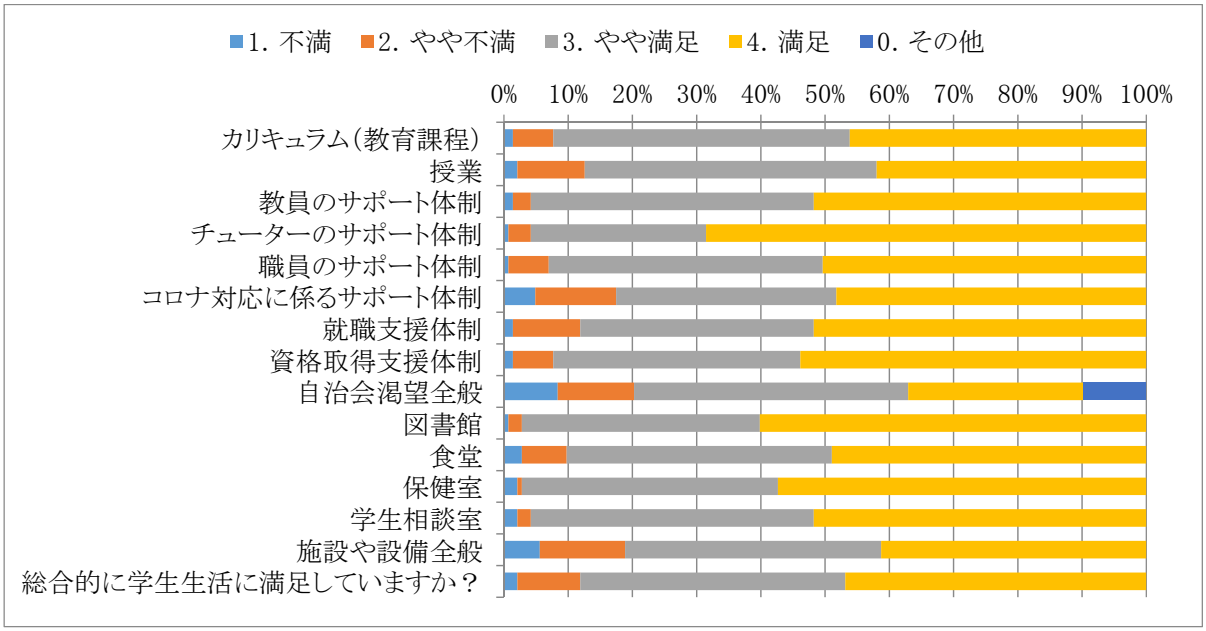
２　調査結果

●満足度調査【大学共通項目】（学部総数：３学科）

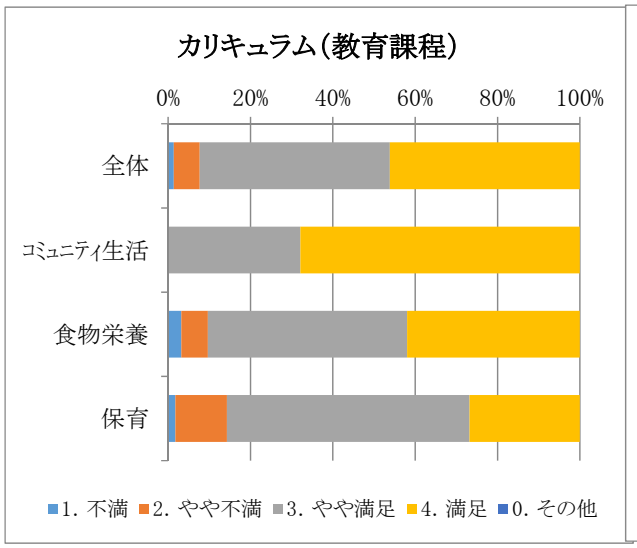
領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	2 人 1%	9 人 6%	66 人 46%	66 人 46%	0 人 0%	143 人
	授業	3 人 2%	15 人 10%	65 人 45%	60 人 42%	0 人 0%	143 人
学生生活	教員のサポート体制	2 人 1%	4 人 3%	63 人 44%	74 人 52%	0 人 0%	143 人
	チューターのサポート体制	1 人 1%	5 人 3%	39 人 27%	98 人 69%	0 人 0%	143 人
	職員のサポート体制	1 人 1%	9 人 6%	61 人 43%	72 人 50%	0 人 0%	143 人
	コロナ対応に係るサポート体制	7 人 5%	18 人 13%	49 人 34%	69 人 48%	0 人 0%	143 人
キャリアアップ	就職支援体制	2 人 1%	15 人 10%	52 人 36%	74 人 52%	0 人 0%	143 人
	資格取得支援体制	2 人 1%	9 人 6%	55 人 38%	77 人 54%	0 人 0%	143 人
自治会活動	自治会活動全般	12 人 8%	17 人 12%	61 人 43%	39 人 27%	14 人 10%	143 人
施設	図書館	1 人 1%	3 人 2%	53 人 37%	86 人 60%	0 人 0%	143 人
	食堂	4 人 3%	10 人 7%	59 人 41%	70 人 49%	0 人 0%	143 人
	保健室	3 人 2%	1 人 1%	57 人 40%	82 人 57%	0 人 0%	143 人
	学生相談室	3 人 2%	3 人 2%	63 人 44%	74 人 52%	0 人 0%	143 人
	施設や設備全般	8 人 6%	19 人 13%	57 人 40%	59 人 41%	0 人 0%	143 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	3 人 2%	14 人 10%	59 人 41%	67 人 47%	0 人 0%	143 人

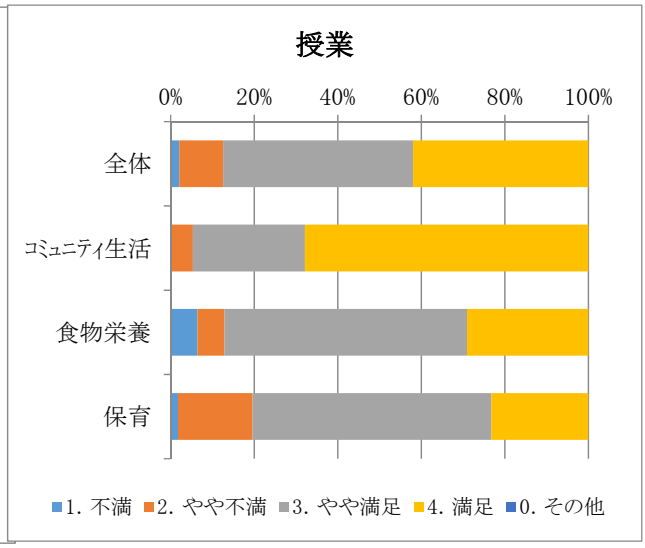
※「その他」は、無回答だったものです。

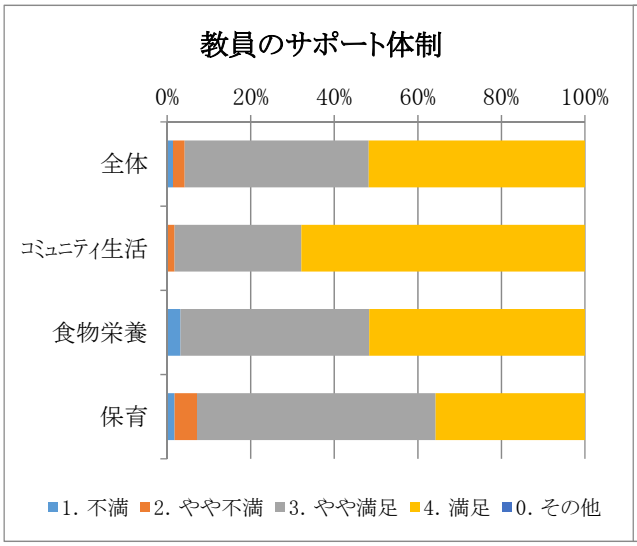
３　グラフ

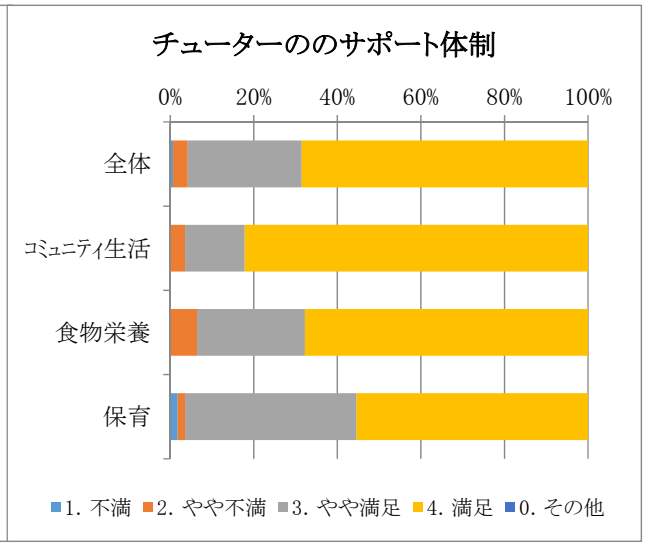


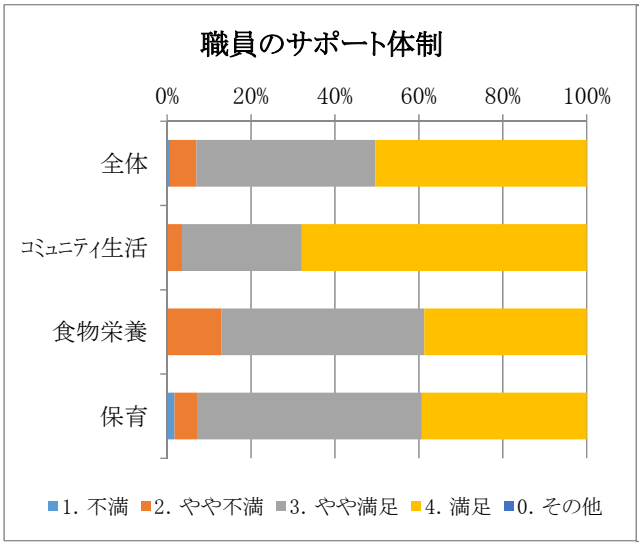
各項目別学科比較

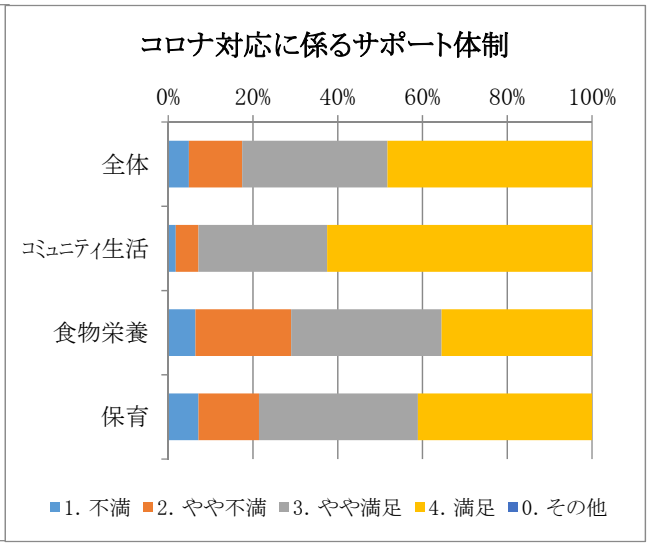




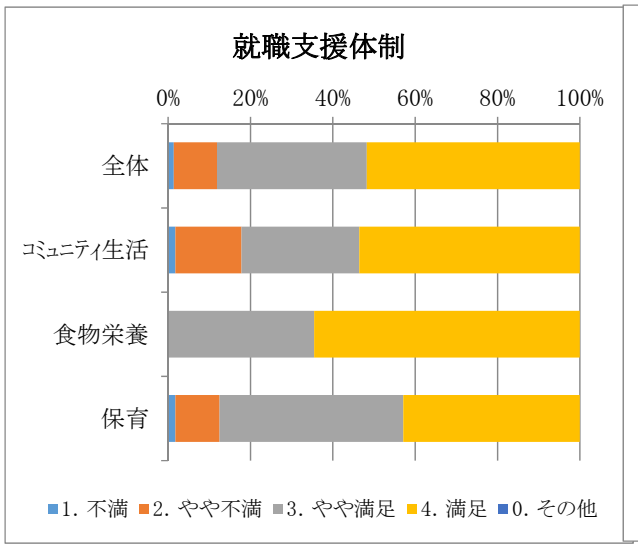


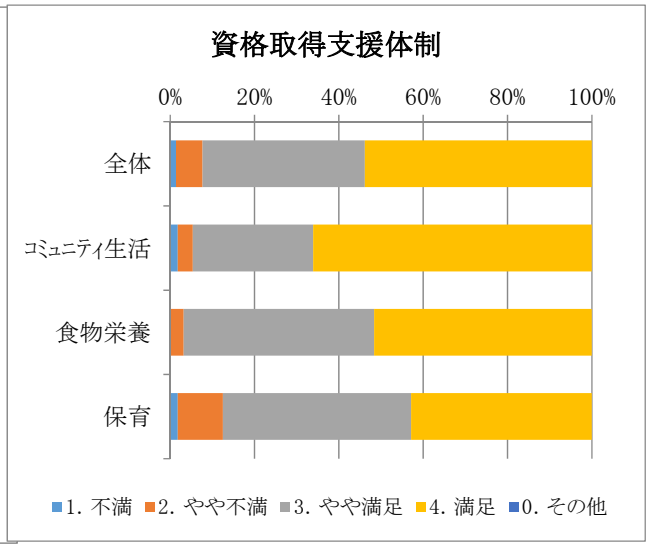


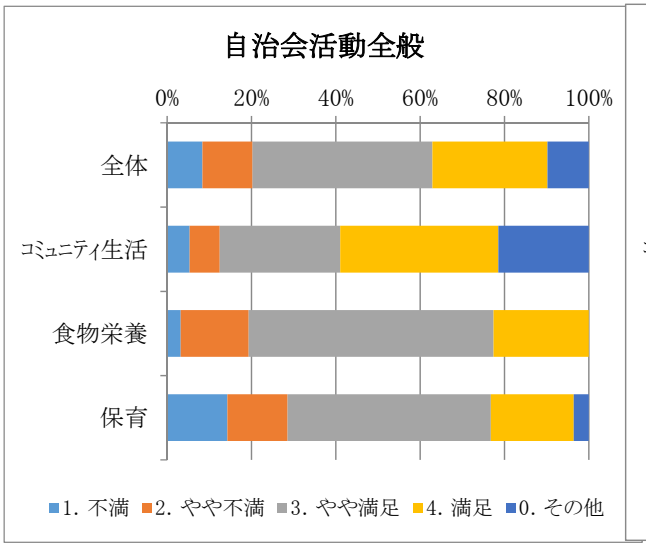


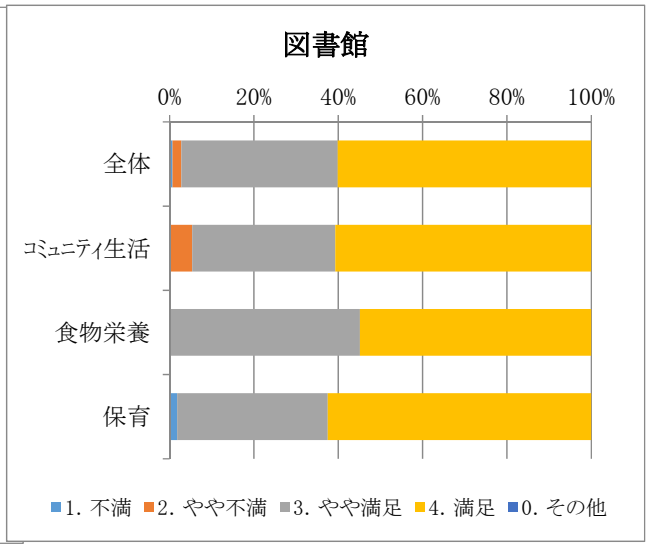


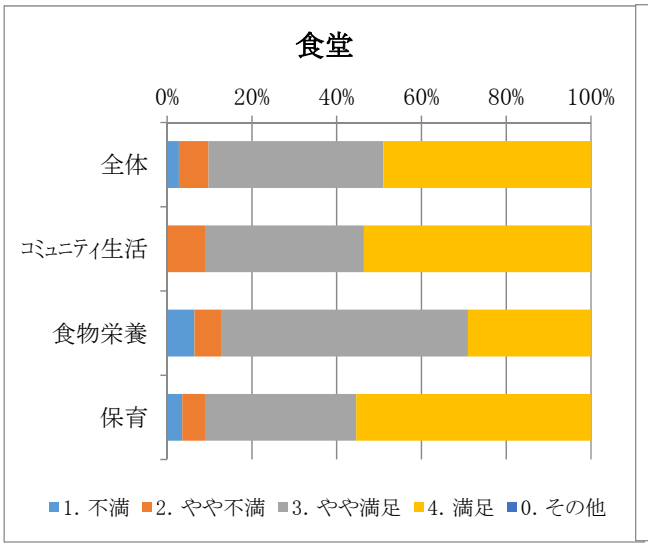
※「その他」は、無回だったものです。

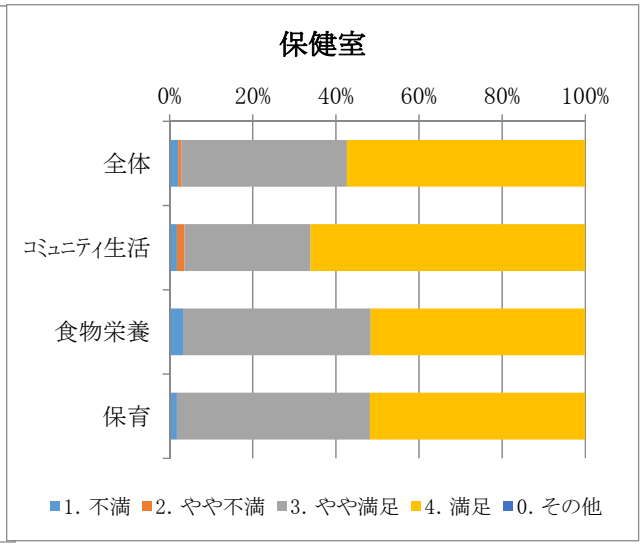




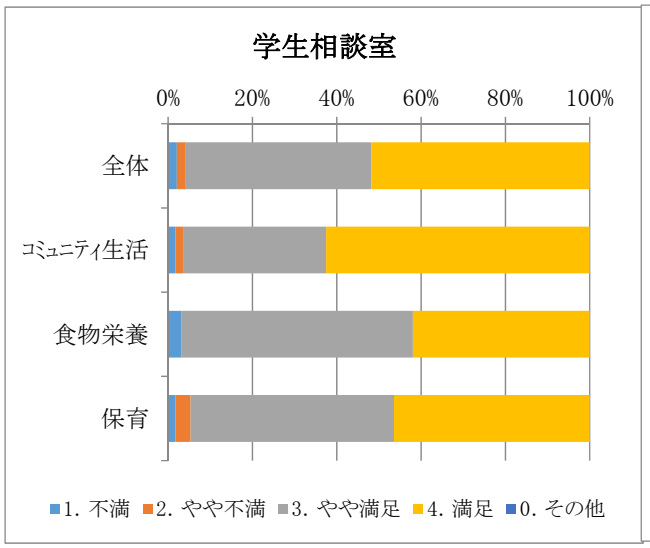


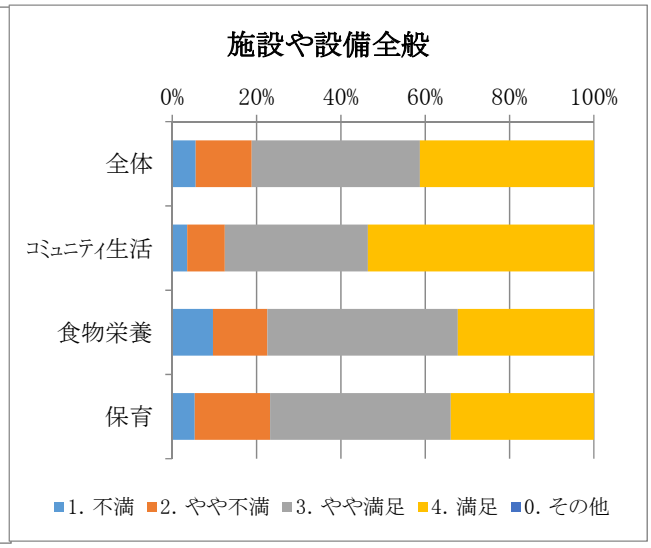


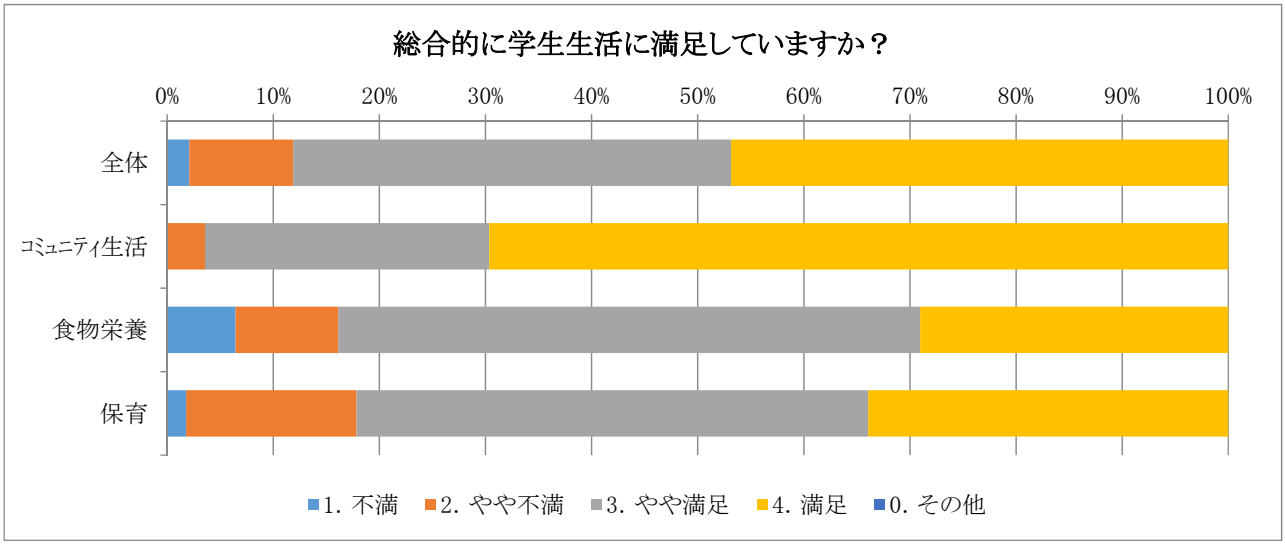




※「その他」は、無回答だったものです。







※「その他」は、無回答だったものです。

4　まとめ　　肯定的な評価は「やや満足」＋「満足」、　(　)内は昨年度%

（５）　状況と課題

短期大学全体として、全体的には高い評価を得ている。昨年度と比較して肯定的な評価の上がった割合が大きいのは施設全般で、81%（75）であった。また、下がったのが授業 87%（94%）で昨年度から－７％となっている。課題としては授業に係る評価になる。

（６）　要因分析

授業に係る評価が下がった要因は、コロナ禍により対面授業の割合が減少したこと、実習実施や発表会の開催等に制限等があったことが要因と考える。

（７）　本年度の対策

授業評価は下がったが、教員のサポート 93%（95）、資格取得支援体制 92%（89）等は高い評

価でコロナ禍のなかでも可能な学生支援を継続している成果と考える。本年度もコロナ禍が解消される可能性は少ない。コミュニケーションを丁寧にとる（コミュニティ）、きめ細やかな学生指導（食物）、学生本位のサポート体制づくり（保育）等の取組を継続する。

（８） 自己点検のまとめ

学生が身につけた力について、「短大生活を通して自立できる自信がついた」（コミュニティ・食物）、「専門的な知識・技術の習得」（保育）等で高い評価を示しており、多くの学生が自身の成長を確認できている。

2021 年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

１．調査回答者

１年次　　５１名

2　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	3 人 6%	15 人 29%	33 人 65%	0 人 0%	51 人
	授業	0 人 0%	3 人 6%	15 人 29%	33 人 65%	0 人 0%	51 人
	授業科目が豊富で充実していた	0 人 0%	3 人 6%	8 人 16%	40 人 78%	0 人 0%	51 人
	自分の将来の目標や適性にあわせて科目を自由に選べるのがよかった	0 人 0%	0 人 0%	6 人 12%	45 人 88%	0 人 0%	51 人
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	1 人 2%	2 人 4%	15 人 29%	33 人 65%	0 人 0%	51 人
	入学前に期待したとおり(または期待以上)の授業や指導を受けられた	1 人 2%	5 人 10%	13 人 25%	32 人 63%	0 人 0%	51 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	7 人 14%	44 人 86%	0 人 0%	51 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	11 人 22%	40 人 78%	0 人 0%	51 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	6 人 12%	45 人 88%	0 人 0%	51 人
	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった	0 人 0%	0 人 0%	4 人 8%	47 人 92%	0 人 0%	51 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	0 人 0%	3 人 6%	16 人 31%	32 人 63%	0 人 0%	51 人
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ	0 人 0%	1 人 2%	11 人 22%	39 人 76%	0 人 0%	51 人
	コミュニティ生活学科に入学してよかった	1 人 2%	2 人 4%	10 人 20%	38 人 75%	0 人 0%	51 人
	入学してきた時よりも成長した	1 人 2%	3 人 6%	15 人 29%	32 人 63%	0 人 0%	51 人
	コロナ対応に係るサポート体制	0 人 0%	4 人 8%	11 人 22%	36 人 71%	0 人 0%	51 人
キャリアアップ	就職支援体制	0 人 0%	1 人 2%	23 人 45%	27 人 53%	0 人 0%	51 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	3 人 6%	12 人 24%	36 人 71%	0 人 0%	51 人
自治会活動	自治会活動全般	0 人 0%	5 人 10%	20 人 39%	22 人 43%	4 人 8%	51 人
施設	図書館	0 人 0%	1 人 2%	13 人 25%	37 人 73%	0 人 0%	51 人
	食堂	0 人 0%	5 人 10%	12 人 24%	34 人 67%	0 人 0%	51 人
	保健室	0 人 0%	1 人 2%	14 人 27%	36 人 71%	0 人 0%	51 人
	学生相談室	0 人 0%	2 人 4%	16 人 31%	33 人 65%	0 人 0%	51 人
	施設や設備全般	0 人 0%	6 人 12%	21 人 41%	24 人 47%	0 人 0%	51 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人 4%	3 人 6%	15 人 29%	31 人 61%	0 人 0%	51 人

※「その他」は、無回答だったものです。

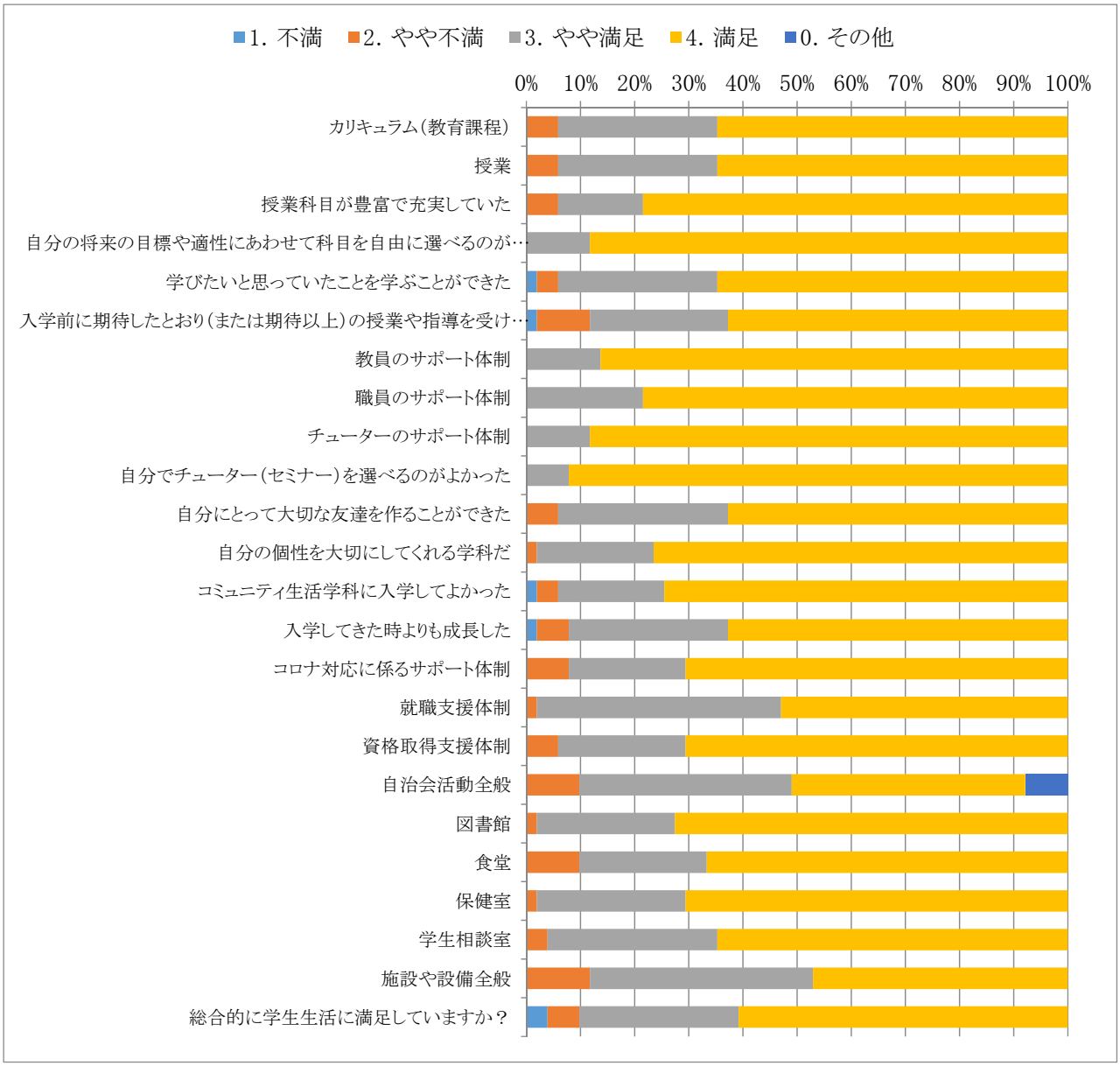
2）自己点検

項目	1.身に付かなかった	2.あまり身に付かなかった	3.やや身に付いた	4.身に付いた	0.その他	計
専門的な知識や技術を身につけることができた	1 人 2%	2 人 4%	21 人 41%	27 人 53%	0 人 0%	51 人
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた	0 人 0%	1 人 2%	17 人 33%	33 人 65%	0 人 0%	51 人
人と積極的にかかわれるようになった	0 人 0%	4 人 8%	30 人 59%	17 人 33%	0 人 0%	51 人
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった	0 人 0%	0 人 0%	24 人 47%	27 人 53%	0 人 0%	51 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長がった	0 人 0%	3 人 6%	19 人 37%	29 人 57%	0 人 0%	51 人
短大生活を通して精神的に成長した	1 人 2%	2 人 4%	21 41%	27 人 53%	0 人 0%	51 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	2 人 4%	3 人 6%	26 人 51%	20 人 39%	0 人 0%	51 人

※「その他」は、無回答だったものです。

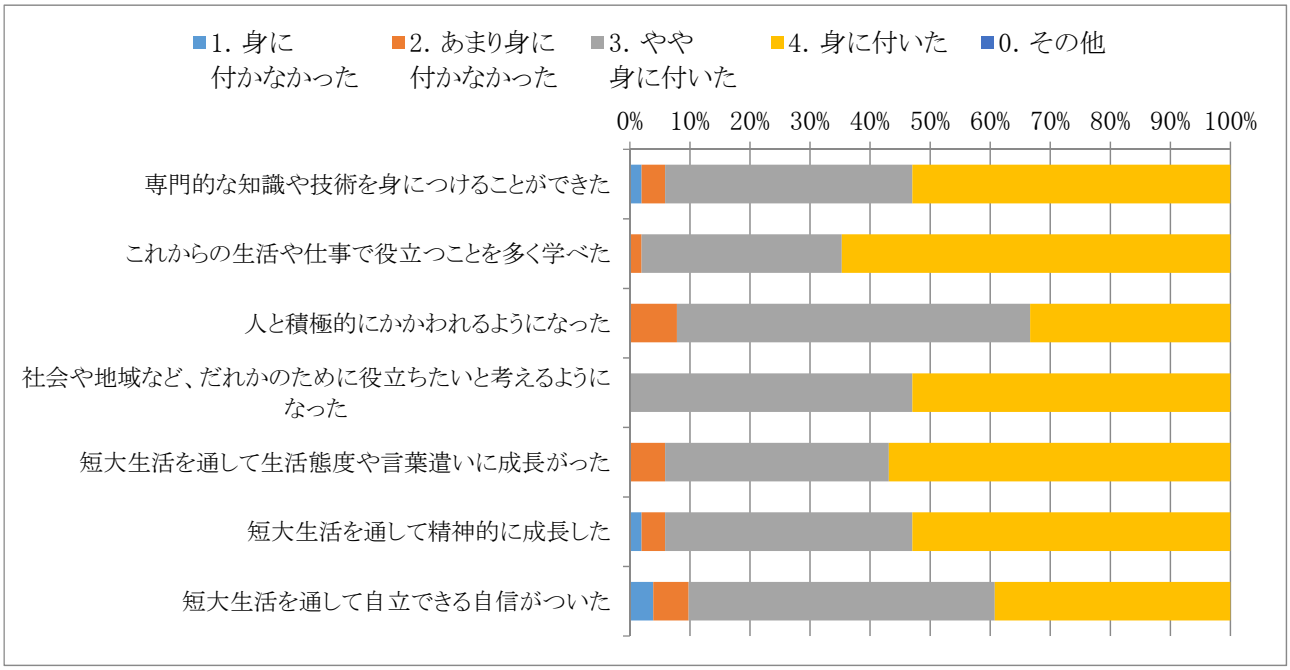
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- コロナのせいでなかなか学校で授業が受けられなかったのが残念でした。でも、チューターの先生などに気軽に相談できたりして、安心する面も沢山ありました。
- コロナの影響がかなりあったけどなんとか1年終えることができてほっとしています。沢山サポートしてくださったおかげでオンライン授業もなんとか終えることができ、良かったです。
- 本当はもっと友達がほしかったです。
- 来年も新しいことを学びたいと思いました。
- 毎日楽しく授業を受けることができました
- コロナでバタバタしたけど、いろんな事を学べたので楽しかった。
- 2年生でもがんばりたい！
- しんどい時に親身になって聞いてくださる先生が沢山いて、大学に通いやすい
- あんまり学校に行けなかったのが残念でした
- 仕方ないけどコロナで何も出来なかったのが残念です。
- 過ごしやすいです
- 学校いきたいです。シーラーニング使いにくい
- みんな優しく接してくれて過ごしやすいと思いました。
- この1年間コミュニティ生活学校で勉強をしていく中でとても楽しく、資格取得ができたり自分探しがすごくできた。
- 楽しく学べた。
- 先生が話しやすくて過ごしやすい環境だと思います。自分が学びたいことをたくさん学べるのでとても楽しいです。

・　1年後期の授業でとりたいものが時間割に被っていたため取れなかった科目があります。次回からはなるべく多く取れるように調整が欲しいと感じました。

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

①　状況

・すべての項目で、「4. 満足」が多かった。

・「自分の将来の目標や適性にあわせて授業を自由に選べるのがよかった」が 88%で、「4. 満足」が一番高く、次いで、「授業科目が豊富で充実していた」で 78%であった。

・学生生活の項目はすべて、「4. 満足」が高かった。「自分でチューター（セミナー）を選べるのがよかった」が 92%と全体でも一番高かった。

・キャリアアップの項目は「資格取得支援体制」71%が「4. 満足」と回答した。

・自治会活動の項目「自治会活動全般」について「4. 満足」が 43%と低かった。

・施設の項目では、「施設や設備全般」については、「4. 満足」が 47%、「3. やや満足」が 41%であった。

・「総合的に学生生活に満足していますか？」については、61%が「4. 満足」と回答した。

②　課題

昨年度と同様に、対面授業と C-Learning(遠隔授業)とで学修してきた 1 年間だった。昨年度の 1 年生より全体的にすべての項目で満足度が高く、特に満足度の高い 3 つも項目「自由に科目を選べること」(27%上昇)「チューターを自分で選べること」(15%上昇)「チューターのサポート体制」(26%上昇)。自由に授業を選べるように調整していくこと、チューターの細やかな指導を継続していくことが大切であると考える。

（2）要因分析

遠隔授業と対面授業との併用で学修してきた 1 年間で昨年度より満足度がすべての項目で高い要因は、選べる授業の制限を最小限にできたことによるのではないか。チューターによるきめ細やかな指導は継続してきており、満足度が高くなったと考える。

（3）本年度の対策

更に満足度を高めるため、具体的に人との関りが深まり、自分に自信がもてるように、授業の取り組みを通して工夫していきたい。

自己点検評価は 1 年次より 2 年次で高くなっている傾向があるので、2 年次の学びに期待する。

2）自己点検のまとめ

・「専門的な知識や技術を身につけることができた」「これからの生活や仕事で役立つこ

とを多く学べた」の項目で、「4．身に付いた」は 53～65%、「3．やや身に付いた」も合わせると評価が高く、94～98%だった。

「人と積極的に関われるようになった」「短大生活を通して自立できる自信がついた」について「4．身に付いた」と回答が低かった。

2021 年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

１．調査回答者

２年次　　５６名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	0 人 0%	18 人 32%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
	授業	0 人 0%	3 人 5%	15 人 27%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
	授業科目が豊富で充実していた	0 人 0%	1 人 2%	8 人 14%	47 人 84%	0 人 0%	56 人
	自分の将来の目標や適性にあわせて科目を自由に選べるのがよかった	0 人 0%	1 人 2%	14 人 25%	41 人 73%	0 人 0%	56 人
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	0 人 0%	4 人 7%	16 人 29%	36 人 64%	0 人 0%	56 人
	入学前に期待したとおり(または期待以上)の授業や指導を受けられた	0 人 0%	6 人 11%	20 人 36%	30 人 54%	0 人 0%	56 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	1 人 2%	17 人 30%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	2 人 4%	16 人 29%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	2 人 4%	8 人 14%	46 人 82%	0 人 0%	56 人
	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった	0 人 0%	1 人 2%	3 人 5%	52 人 93%	0 人 0%	56 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	0 人 0%	2 人 4%	13 人 23%	41 人 73%	0 人 0%	56 人
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ	0 人 0%	1 人 2%	11 人 20%	44 人 79%	0 人 0%	56 人
	コミュニティ生活学科に入学してよかった	0 人 0%	1 人 2%	8 人 14%	47 人 84%	0 人 0%	56 人
	入学してきた時よりも成長した	0 人 0%	1 人 2%	12 人 21%	43 人 77%	0 人 0%	56 人
	コロナ対応に係るサポート体制	1 人 2%	3 人 5%	17 人 30%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
キャリアアップ	就職支援体制	1 人 2%	9 人 16%	16 人 29%	30 人 54%	0 人 0%	56 人
	資格取得支援体制	1 人 2%	2 人 4%	16 人 29%	37 人 66%	0 人 0%	56 人
自治会活動	自治会活動全般	3 人 5%	4 人 7%	16 人 29%	21 人 38%	12 人 21%	56 人
施設	図書館	0 人 0%	3 人 5%	19 人 34%	34 人 61%	0 人 0%	56 人
	食堂	0 人 0%	5 人 9%	21 人 38%	30 人 54%	0 人 0%	56 人
	保健室	1 人 2%	1 人 2%	17 人 30%	37 人 66%	0 人 0%	56 人
	学生相談室	1 人 2%	1 人 2%	19 人 34%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
	施設や設備全般	2 人 4%	5 人 9%	19 人 34%	30 人 54%	0 人 0%	56 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0 人 0%	2 人 4%	15 人 27%	39 人 70%	0 人 0%	56 人

※「その他」は、無回答だったものです。

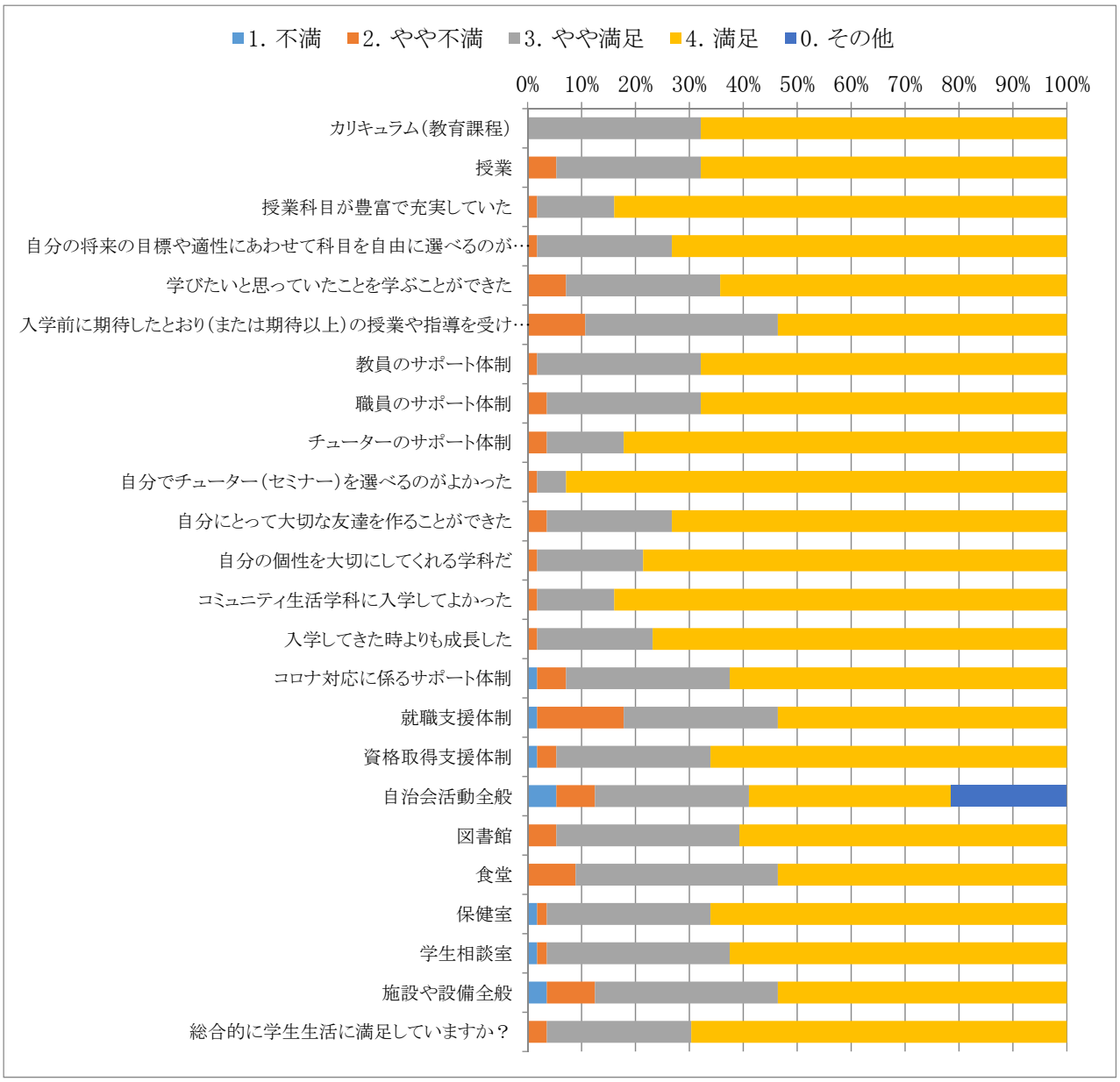
2）自己点検

項目	1.身に付かなかった	2.あまり身に付かなかった	3.やや身に付いた	4.身に付いた	0.その他	計
専門的な知識や技術を身につけることができた	1 人 2%	1 人 2%	16 人 29%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた	0 人 0%	1 人 2%	15 人 27%	40 人 71%	0 人 0%	56 人
人と積極的にかかわれるようになった	0 人 0%	4 人 7%	17 人 30%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった	0 人 0%	2 人 4%	19 人 34%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長がった	0 人 0%	3 人 5%	16 人 29%	37 人 66%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して精神的に成長した	0 人 0%	3 人 5%	13 23%	40 人 71%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	2 人 4%	19 人 34%	35 人 63%	0 人 0%	56 人

※「その他」は、無回答だったものです。

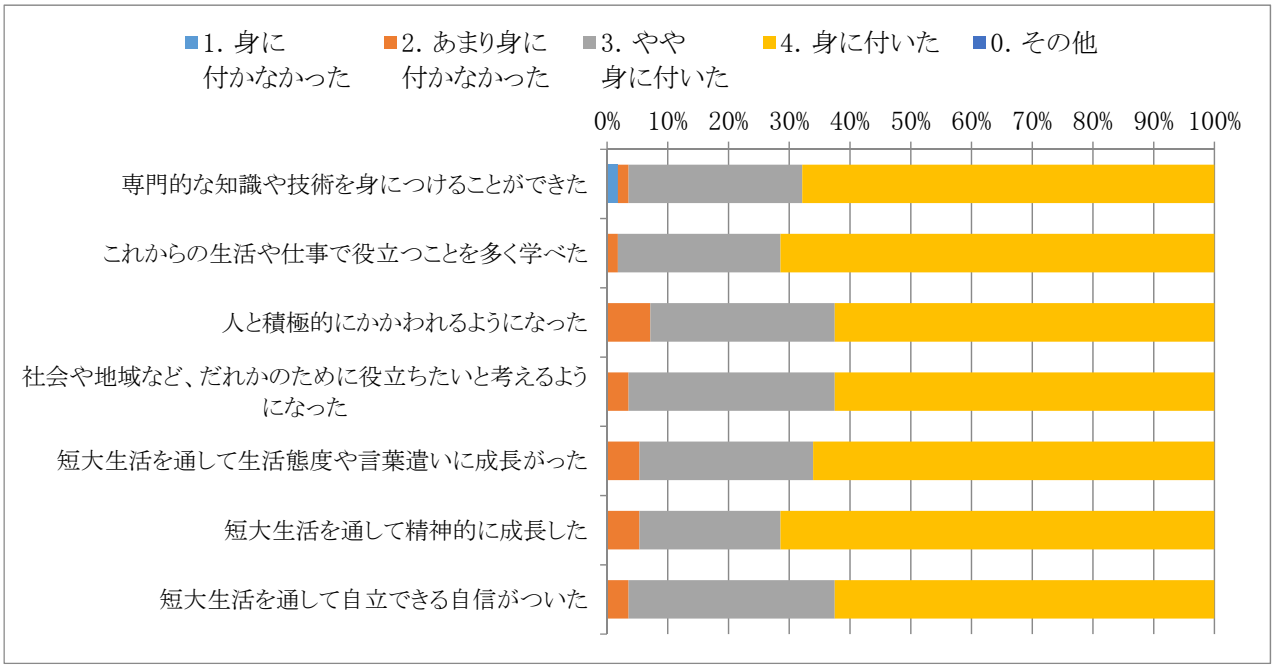
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

４　自由記述

・　行事ごとはひとつもできなかったけど、それなりに楽しい学生生活を送れた気がします。あっという間の2年間でしたが、ちゃんと成長できたと思います。たぶん。
・　2年間コロナが被ったので行事もなく特に思い出ができませんでした。
あと、少し気になったのが夏の食堂が冷房強くてすごく寒かったです。
学生への配慮とはいえ強さを少し考え直してみるのもありだとは思います。
・　2年間という短い間でしたが、とても充実した時間を過ごすことができました。
・　コロナ禍で思い描くような学生生活は送れませんでしたが、さまざまなことを学び楽しい2年間を過ごすことができてよかったです。
・　学祭やスポーツ大会ができなかったことが残念です。
・　個人を尊重してもらえる環境で学ぶことができて、充実した学生生活を送ることができました。ありがとうございました。
・　とても充実した学生生活でした！
・　学生生活とても楽しかったです
・　楽しかった
・　自分らしく学ぶことができて、良かったです。
・　自分に合った学校生活を送れてとても良かった。
・　いい
・　ほぼオンラインで行事とか無かったけど、楽しい学校生活を送れました！
・　楽しかったです
・　資格を取得出来て良かったです。卒業制作ができたことが良かったです。

・　専門的な分野に詳しい先生や実際に現場で働いたことのある方が講師をされていてとても勉強になった、生徒と先生の仲が良かった。

5　まとめ

1）満足度調査

（1）　状況と課題

①　　満足度調査については、満足の割合が高い項目は以下の8項目だった。
「授業科目が豊富で充実していた」84%、「自分の将来の目標や適性に合わせて科目を自由に選べるのが良かった」73%、「チューターのサポート体制」82%、「自分でチューター(セミナー)を選べるのが良かった」93%、「自分の個性を大切にしてくれる学科だ」79%、「コミュニティ生活学科に入学してよかった」84%、「入学してきた時よりも成長した」77%、「総合的に学生生活に満足していますか？」77%。1年次終了時期に比べて、1年間で12～30%高くなった。

② 課題としては、全体の回答率が 57%と低かったこと、「就職支援体制」にやや不満と答えた学生が 16%と高かったことがあげられる。

（2）要因分析

本学科はオープンキャンパスや入試説明会において、学科の特徴や学びの説明を聞いて入学してきた学生が大半を占めている。そうした学科の特性が学ぶ側の学生に理解され、期待される学びが実践できた2年間の評価だと考える。「就職支援体制」について1年生の時期から、チューターによる個人面談の時間などで就職について話す機会を増やしていくことで就職支援体制への不安を解決していきたいと思う。

（3）本年度の対策

引き続き、学生とのコミュニケーションを丁寧にとることを心掛ける。夢カルテを生かした「学習面」「生活面」の身近な目標達成を半年に1回振り返っていくことを踏まえ達成感や満足感を味わう機会をつくる。日々の授業で学びの充実を実感できるよう授業を工夫していく。

2）自己点検のまとめ

①　　自己点検については、満足の割合が高い項目は以下の2項目だった。「これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた」71%、「短大生活を通して精神的に成長した」71%。

② 1 年次の調査と比較するとすべての項目で 22～34%満足の割合が高くなった。特に、「人と積極的に関われるようになった」 34%、「短大生活を通して自立できる自信がついた」 33%と「満足」を選んだ割合が高くなっていた。コロナ禍で、遠隔授業(C-Learning)と対面授業とを併用した体制で進めた 2 年生を終え、全体の満足度が上がったのは、チューターのサポート体制が反映される学生生活の満足度の高さと 2 年間で何ができるようになったかの指標となる　自己点検評価の高さによるものと考えられる。

2021年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

１．調査回答者

１年次　３９名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	0 人 0%	19 人 49%	20 人 51%	0 人 0%	39 人
	授業	0 人 0%	1 人 3%	18 人 46%	20 人 51%	0 人 0%	39 人
	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	0 人 0%	2 人 5%	21 人 54%	16 人 41%	0 人 0%	39 人
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	0 人 0%	0 人 0%	15 人 38%	24 人 62%	0 人 0%	39 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	1 人 3%	13 人 33%	25 人 64%	0 人 0%	39 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	13 人 33%	26 人 67%	0 人 0%	39 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	15 人 38%	24 人 62%	0 人 0%	39 人
	コロナ対応に係るサポート体制	0 人 0%	1 人 3%	17 人 44%	21 人 54%	0 人 0%	39 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人 0%	1 人 3%	21 人 54%	17 人 44%	0 人 0%	39 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	1 人 3%	20 人 51%	18 人 46%	0 人 0%	39 人
自治会活動	自治会活動全般	0 人 0%	3 人 8%	28 人 72%	8 人 21%	0 人 0%	39 人
施設	図書館	0 人 0%	0 人 0%	20 人 51%	19 人 49%	0 人 0%	39 人
	食堂	1 人 3%	3 人 8%	15 人 38%	20 人 51%	0 人 0%	39 人
	保健室	0 人 0%	0 人 0%	17 人 44%	22 人 56%	0 人 0%	39 人
	学生相談室	0 人 0%	0 人 0%	20 人 51%	19 人 49%	0 人 0%	39 人
	施設や設備全般	0 人 0%	5 人 13%	17 人 44%	17 人 44%	0 人 0%	39 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0 人 0%	3 人 8%	19 人 49%	17 人 44%	0 人 0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

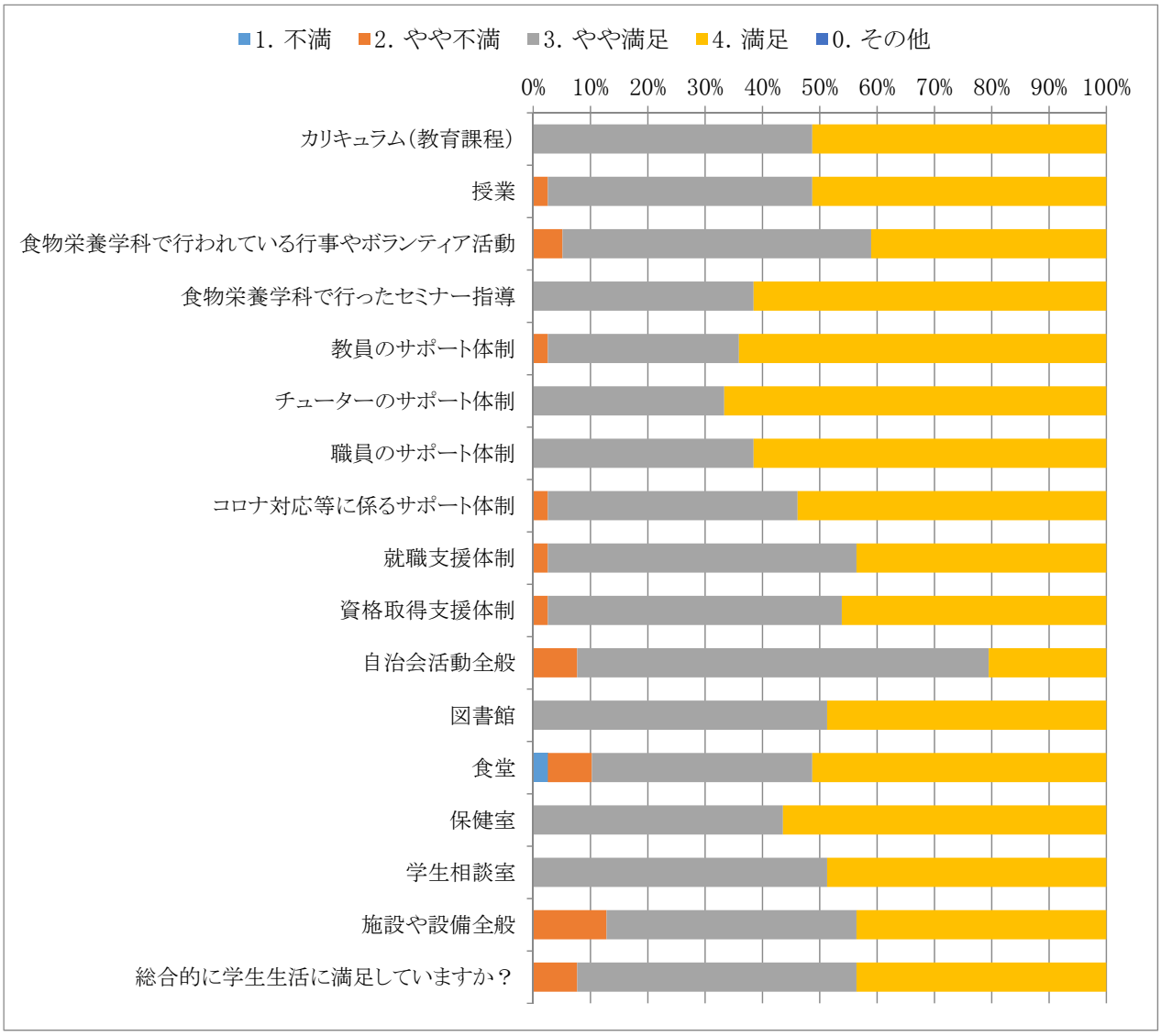
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 3%	24 人 62%	14 人 36%	0 人 0%	39 人
食物栄養学科の1年間で調理技術が向上した	0 人 0%	1 人 3%	16 人 41%	22 人 56%	0 人 0%	39 人
対象者に合った献立作成や調理、栄養指導ができるようになった	0 人 0%	4 人 10%	26 人 67%	9 人 23%	0 人 0%	39 人
自らの食生活を振り返り、自己評価することができるようになった	0 人 0%	1 人 3%	23 人 59%	15 人 38%	0 人 0%	39 人
短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた	0 人 0%	5 人 13%	24 人 62%	10 人 26%	0 人 0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

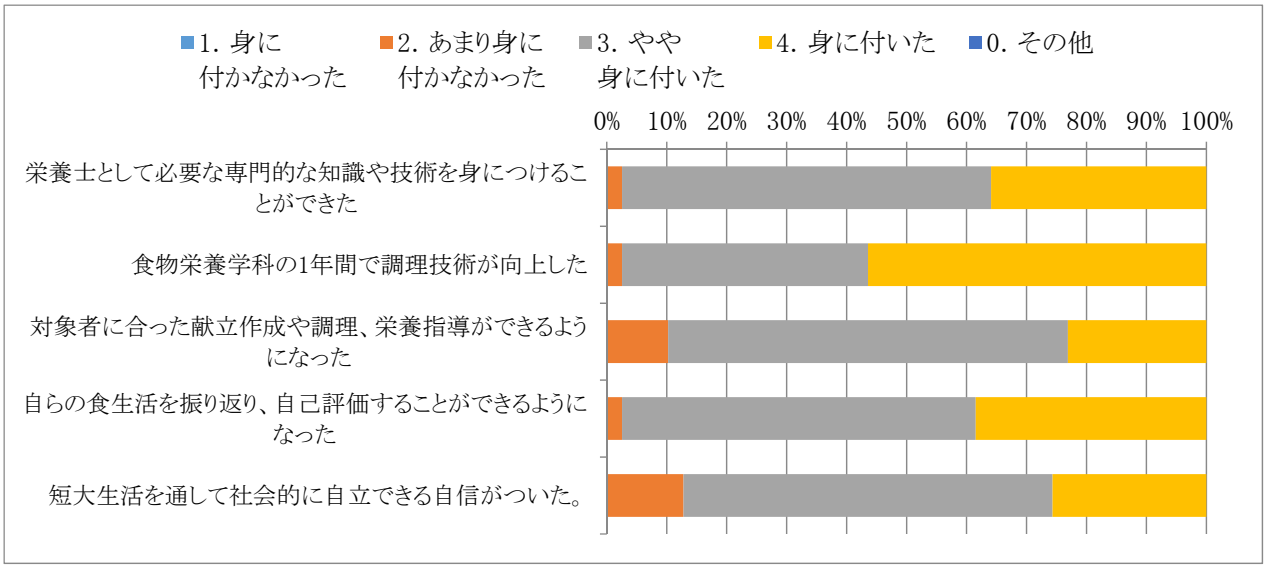
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

４　自由記述

・　体育館にも Wi-Fi を繋げて欲しい
・　勉強は難しいですが、これからの為にも資格の勉強や実習を頑張りたいと思いました。
・　とてもいい学生生活でした。
・　最初は、自分で調理をすることができるのかとても不安でしたが、実習や調理を重ねていくうちに、だんだん慣れてきたのではないかなと思います。
　　家で調理をすることも増えました。
・　わかりやすい授業で、また楽しく過ごすことができました。

５　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

今回の調査は6領域、17項目について行われた。

「教務」領域についての項目では、「満足」または「やや満足」を回答した者は、カリキュラムやセミナー指導において100％であり、高く評価されていた。一方、食物栄養学科の授業については97％、学科の行事やボランティア活動では95％であった。

「学生生活」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、教員のサポート体制は97％及びチューターのサポート体制は100％、職員のサポート体制は100％、コロナ対応に係るサポート体制は98％であった。コロナ対応のサポート体制については「やや不満」が3％であった。

「キャリアアップ」領域の２項目については、「満足」または「やや満足」と回答した者は就職支援体制は98％、資格取得体制は97％であった。

「自治会活動」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は93％であり、「やや不満」が8％であった。

「施設」領域では、「満足」または「やや満足」と回答した者は、図書館と保健室、学生相談室が100％、が97％、食堂は89％、施設や設備全般は88％であった。

総合的な満足度については、学科が設定している「満足」「やや満足」90％以上に対して、今回の調査結果では93％であり、目標に達していた。

（２）要因分析

対象学年は、入学前からコロナ禍の中にあり、新型コロナウイルス感染症の対策を行うことについての理解も得られていたものと考える。

「教務」領域の学科行事やボランティア活動は当初予定のものが中止となったものがあり、これが「やや不満」の要因と思われる。それ以外については、授業等の改善により、概ね満足が得られていたものと考える。

「学生生活」領域では、食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。

「キャリアアップ」領域の満足度が高い評価であったことから、１年次に実施した進路支援ガイダンスなどにより、本学における進路支援に向けたサポート体制が十分理解されていることがわかる。

「自治会活動」領域については、大学祭やスポーツ大会が中止となり、行事が行われなかったことが「やや不満」になった要因と思われる。

「施設」領域については、学生のニーズに対応ができていた図書館、保健室、学生相談室などの評価が高かった。一方で、施設や設備全般については、実験や実習で使用していた教室の施設環境や設備・備品の老朽化などにより、満足度がやや低い評価になったものと思われる。

総合的な満足度については、目標の90％以上であり、コロナ禍の中での学生生活ではあったものの、授業の内容の充実や学生生活のサポート体制等、本学における学生生活についての理解が得られていたものと考える。

（３）本年度の対策

コロナ禍における学生生活が続くことから、さらに授業を充実させる。対面授業を充実させるとともに、オンライン授業も想定しながら、授業内容の充実を図りたい。特にコロナ対応に係るサポート体制をさらにきめ細かく整えたい。

セミナー＆チューター制を活用して、引き続き、学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学業や学生生活、進路支援などを行い、さらなる満足度の向上に努めたい。

２）自己点検のまとめ

自己点検の5項目に関しては、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」とすると、すべての項目において、88～98％が「身に付いた」と回答していた。

低かったのは「対象者に合った献立作成や調理、栄養指導」90％と「社会的に自立できるようになった」88％であり、一年間の学修では、まだ学びの途中段階であることから、自らの成長を自覚できていなものと思われる。

今後、さらに 2 年次の授業や栄養士の校外実習などを通して、栄養士としての知識や技術を身に付けていくと思われる。

卒業時の満足度調査において、自己点検評価が高まり、自信をもって栄養士免許を取得できるよう、今後も継続して学生支援を行いたい。

2021 年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

１．調査回答者

２年次　３１名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	1 人 3%	2 人 6%	15 人 48%	13 人 42%	0 人 0%	31 人
	授業	2 人 6%	2 人 6%	18 人 58%	9 人 29%	0 人 0%	31 人
	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	2 人 6%	4 人 13%	16 人 52%	9 人 29%	0 人 0%	31 人
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	1 人 3%	1 人 3%	10 人 32%	19 人 61%	0 人 0%	31 人
学生生活	教員のサポート体制	1 人 3%	0 人 0%	14 人 45%	16 人 52%	0 人 0%	31 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	2 人 6%	8 人 26%	21 人 68%	0 人 0%	31 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	4 人 13%	15 人 48%	12 人 39%	0 人 0%	31 人
	コロナ対応に係るサポート体制	2 人 6%	7 人 23%	11 人 35%	11 人 35%	0 人 0%	31 人
キャリアアップ	就職支援体制	0 人 0%	0 人 0%	11 人 35%	20 人 65%	0 人 0%	31 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	1 人 3%	14 人 45%	16 人 52%	0 人 0%	31 人
自治会活動	自治会活動全般	1 人 3%	5 人 16%	18 人 58%	7 人 23%	0 人 0%	31 人
施設	図書館	0 人 0%	0 人 0%	14 人 45%	17 人 55%	0 人 0%	31 人
	食堂	2 人 6%	2 人 6%	18 人 58%	9 人 29%	0 人 0%	31 人
	保健室	1 人 3%	0 人 0%	14 人 45%	16 人 52%	0 人 0%	31 人
	学生相談室	1 人 3%	0 人 0%	17 人 55%	13 人 42%	0 人 0%	31 人
	施設や設備全般	3 人 10%	4 人 13%	14 人 45%	10 人 32%	0 人 0%	31 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人 6%	3 人 10%	17 人 55%	9 人 29%	0 人 0%	31 人

※「その他」は、無回答だったものです。

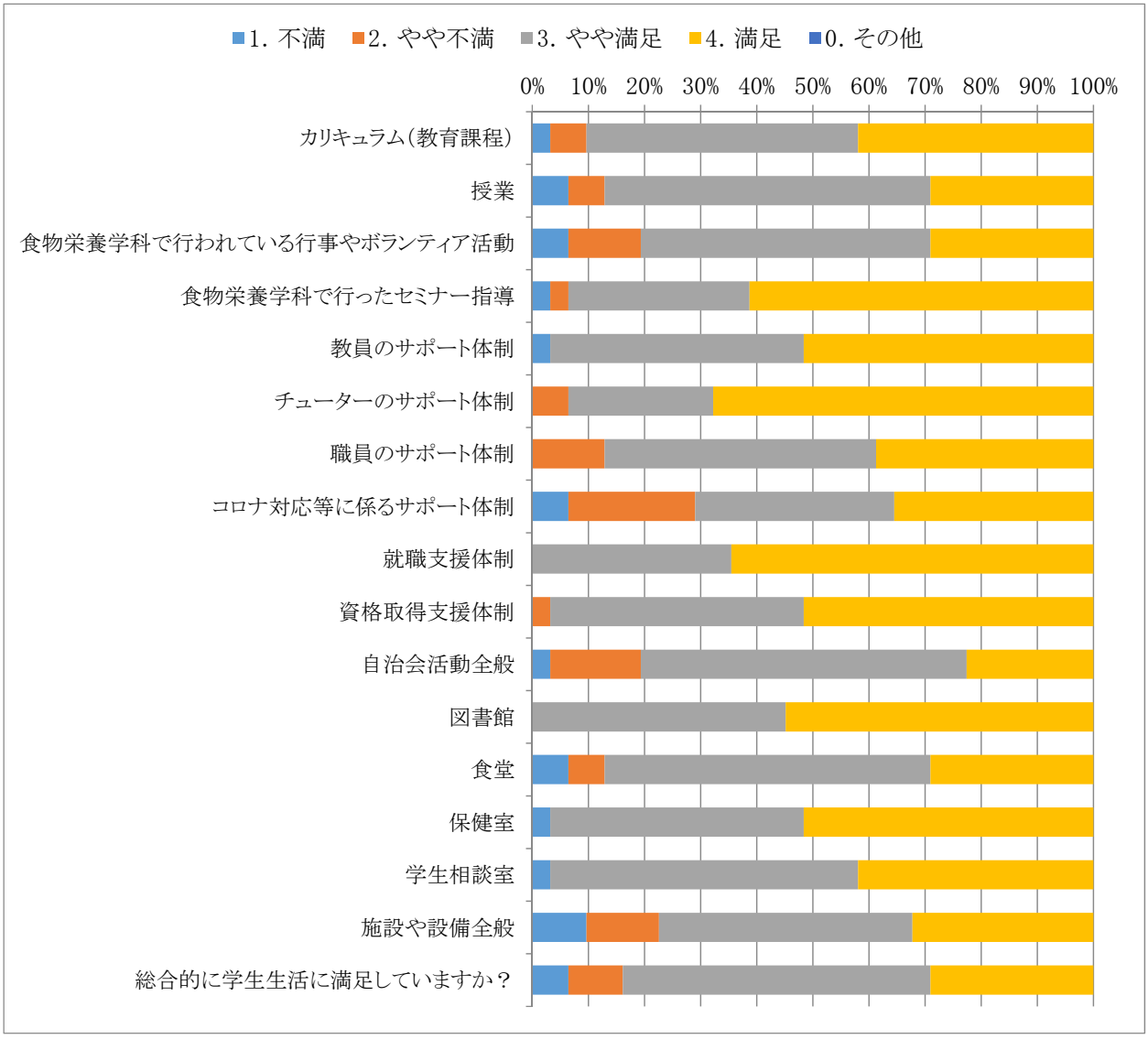
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身につけることができた	1 人 3%	2 人 6%	18 人 58%	10 人 32%	0 人 0%	31 人
食物栄養学科の1年間で調理技術が向上した	1 人 3%	1 人 3%	17 人 55%	12 人 39%	0 人 0%	31 人
対象者に合った献立作成や調理、栄養指導ができるようになった	1 人 3%	1 人 3%	22 人 71%	7 人 23%	0 人 0%	31 人
自らの食生活を振り返り、自己評価することができるようになった	0 人 0%	0 人 0%	21 人 68%	10 人 32%	0 人 0%	31 人
短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた	0 人 0%	0 人 0%	21 人 68%	10 人 32%	0 人 0%	31 人

※「その他」は、無回答だったものです。

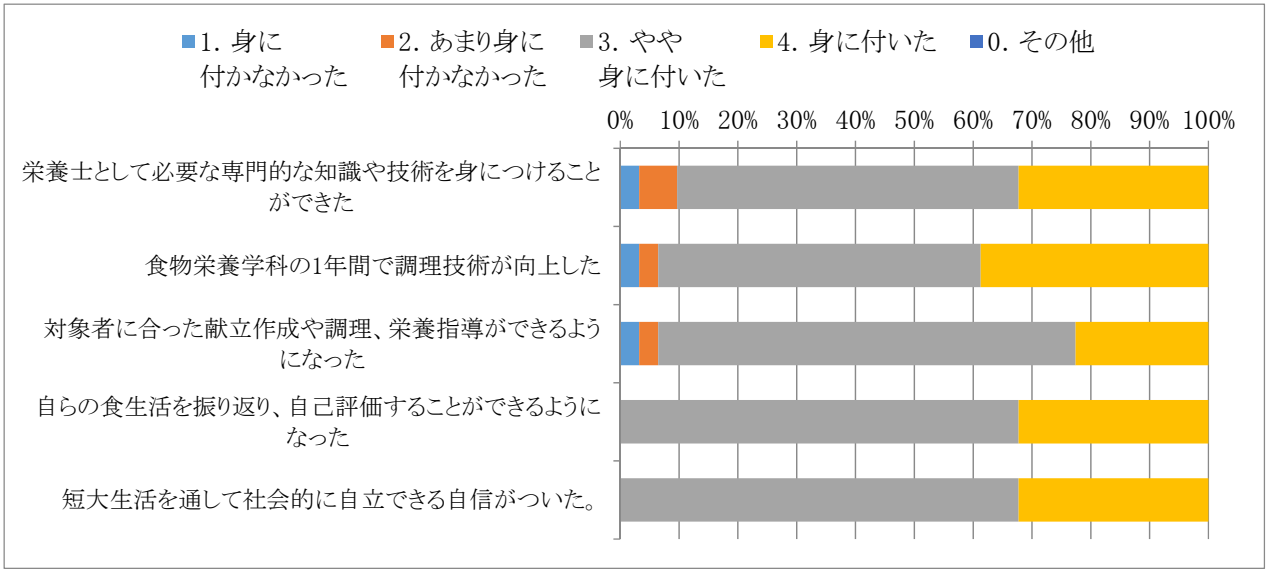
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

４　自由記述

・　図書館がよかった
・　コロナでなにもできなかった。残念。
・　コロナ禍で不安なこともあったけど、楽しい学生生活を過ごすことができました。
・　コロナで行事が減って残念でした。
・　コロナ化で行事が行えなかったのが残念。授業は、十分ではないが対面で行うことができよかった。
・　コロナの影響もあって行事がほとんど出来なかったのは寂しいですが、充実した学校生活を送ることが出来たと思います。
・　先生方が良かったです

５　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

今回の調査は6領域、17項目について行われた。

「教務」領域についての項目では、「満足」または「やや満足」を回答した者は、カリキュラムやセミナー指導において90％以上であり、特にセミナー指導では、93％で高く評価されていた。一方、食物栄養学科の授業については87％、学科の行事やボランティア活動では81％であった。

「学生生活」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、教員のサポート体制及びチューターのサポート体制は94％以上、職員のサポート体制は85％、コロナ対応に係るサポート体制は70％であった。コロナ対応のサポート体制については「不満」または「やや不満」が29％であった。

「キャリアアップ」領域の２項目については、「満足」または「やや満足」と回答した者は就職支援体制は100％、資格取得体制は97％であった。

「自治会活動」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は81%であり、「やや不満」または「不満」が19%であった。

「施設」領域では、「満足」または「やや満足」と回答した者は、図書館と保健室が100%、学生相談室が97%、食堂は87%、施設や設備全般は77%であった。

総合的な満足度については、学科が設定している「満足」「やや満足」90%以上に対して、今回の調査結果では、84%であり、目標に達することができなかった。

（2）要因分析

対象学年は、入学当初からコロナ禍の中にあり、対面授業の実施方法の変更や学科行事、学内行事等が中止となるなど、新型コロナウイルス感染症の対策を行うために、学生達は多くの制約の中で学生生活を過ごすこととなった。

「教務」領域の授業については、オンライン授業の併用により対面授業とは異なる環境下であったことにより、実際に実験実習の機会が得られなかったことが要因と考えられる。

「学生生活」領域では、教員やチューターによるサポート体制は概ね満足していたが、食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。その一方で、コロナ対応に係るサポート体制については、自由記述にもあるように不満を感じていたことが感じ取れる。

「キャリアアップ」領域の満足度が高い評価であったことは、学科とキャリアセンターとの連携により、学生の進路決定率が100%であることから、学生一人一人に寄り添った進路支援ができていたことがわかる。

「自治会活動」領域については、昨年度に続いて本年度も大学祭やスポーツ大会が中止となり、行事が行われなかったことが「不満」「やや不満」になった要因と思われる。

「施設」領域については、学生のニーズに対応ができていた図書館や保健室、学生相談室などの評価が高かった。一方で、施設や設備全般については、実験や実習で使用していた教室の施設環境や設備・備品の老朽化などにより、満足度がやや低い評価になったものと思われる。

総合的な満足度が、目標の90%以上に達しなかったのは、主な要因はコロナ禍の中での学生生活であったことにより、様々な活動がこれまでと変化したことによるものと考える。

（3）本年度の対策

コロナ禍における学生生活が続くことから、さらに授業を充実させる必要性を感じている。対面授業を充実させるとともに、オンライン授業も想定しながら、授業内容の充実を図りたい。特にコロナ対応に係るサポート体制を整えたい。

セミナー&チューター制を活用して、引き続き、学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学業や学生生活、進路支援などを行い、満足度の向上に努めたい。

2）自己点検のまとめ

自己点検の5項目に関しては、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」とすると、すべての項目において、90～100%が「身に付いた」と回答していた。特に、「自らの食生活を振り返り、

自己評価ができるようになった」及び「短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた」は100％であった。いずれの項目も、1年次の調査結果よりも、評価が高くなっており、2年次の学生生活が充実していたことがわかる。

2021 年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

１．調査回答者

１年次　　５０名

2　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人　0%	8 人　16%	42 人　84%	0 人　0%	0 人　0%	50 人
	授業	1 人　2%	4 人　8%	25 人　50%	20 人　40%	0 人　0%	50 人
	授業科目が充実していた	1 人　2%	2 人　4%	24 人　48%	23 人　46%	0 人　0%	50 人
	ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた	0 人　0%	1 人　2%	18 人　36%	31 人　62%	0 人　0%	50 人
	教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた	0 人　0%	3 人　6%	24 人　48%	23 人　46%	0 人　0%	50 人
	運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた	14 人　28%	20 人　40%	10 人　20%	6 人　12%	0 人　0%	50 人
	入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた	1 人　2%	6 人　12%	26 人　52%	17 人　34%	0 人　0%	50 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人　0%	2 人　4%	26 人　52%	22 人　44%	0 人　0%	50 人
	職員のサポート体制	0 人　0%	1 人　2%	27 人　54%	22 人　44%	0 人　0%	50 人
	チューターのサポート体制	0 人　0%	2 人　4%	17 人　34%	31 人　62%	0 人　0%	50 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	2 人　4%	3 人　6%	16 人　32%	29 人　58%	0 人　0%	50 人
	保育学科に入学してよかった	1 人　2%	0 人　0%	27 人　54%	22 人　44%	0 人　0%	50 人
	コロナ対応等に係るサポート体制	0 人　0%	5 人　10%	28 人　56%	17 人　34%	0 人　0%	50 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人　0%	3 人　6%	24 人　48%	23 人　46%	0 人　0%	50 人
	資格取得支援体制	0 人　0%	3 人　6%	22 人　44%	25 人　50%	0 人　0%	50 人
自治会活動	自治会活動全般	0 人　0%	2 人　4%	30 人　60%	18 人　36%	0 人　0%	50 人
施設	図書館	0 人　0%	0 人　0%	15 人　30%	35 人　70%	0 人　0%	50 人
	食堂	1 人　2%	1 人　2%	16 人　32%	32 人　64%	0 人　0%	50 人
	保健室	0 人　0%	0 人　0%	19 人　38%	31 人　62%	0 人　0%	50 人
	学生相談室	0 人　0%	0 人　0%	20 人　40%	30 人　60%	0 人　0%	50 人
	施設や設備全般	1 人　2%	4 人　8%	24 人　48%	21 人　42%	0 人　0%	50 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	1 人　2%	1 人　2%	28 人　56%	20 人　40%	0 人　0%	50 人

※「その他」は、無回答だったものです。

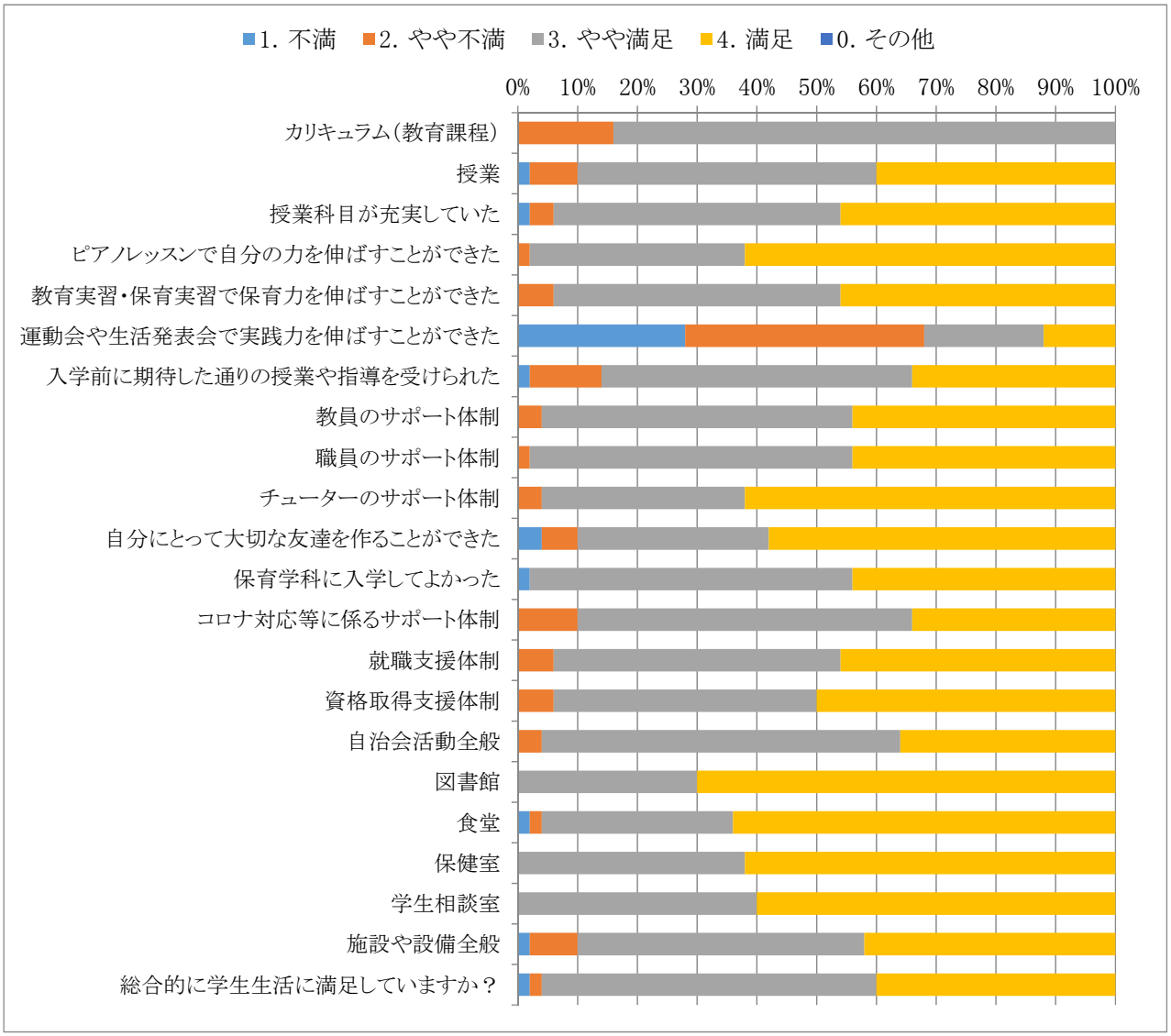
2）自己点検

項目	1.身に付かなかった	2.あまり身に付かなかった	3.やや身に付いた	4.身に付いた	0.その他	計
短大生活を通して専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	0 人 0%	35 人 70%	15 人 30%	0 人 0%	50 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0 人 0%	1 人 2%	27 人 54%	22 人 44%	0 人 0%	50 人
短大生活を通して精神的に成長した	0 人 0%	2 人 4%	30 人 60%	18 人 36%	0 人 0%	50 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	4 人 8%	26 人 52%	20 人 40%	0 人 0%	50 人
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった	0 人 0%	4 人 8%	27 人 54%	19 人 38%	0 人 0%	50 人
チームワークを大切にすることができるようになった	0 人 0%	0 人 0%	22 人 44%	28 人 56%	0 人 0%	50 人
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった	1 人 2%	3 人 6%	23 人 46%	23 人 46%	0 人 0%	50 人
社会や地域など、誰かのために役立ちたいと考えるようになった	1 人 2%	3 人 6%	23 人 46%	23 人 46%	0 人 0%	50 人

※「その他」は、無回答だったものです。

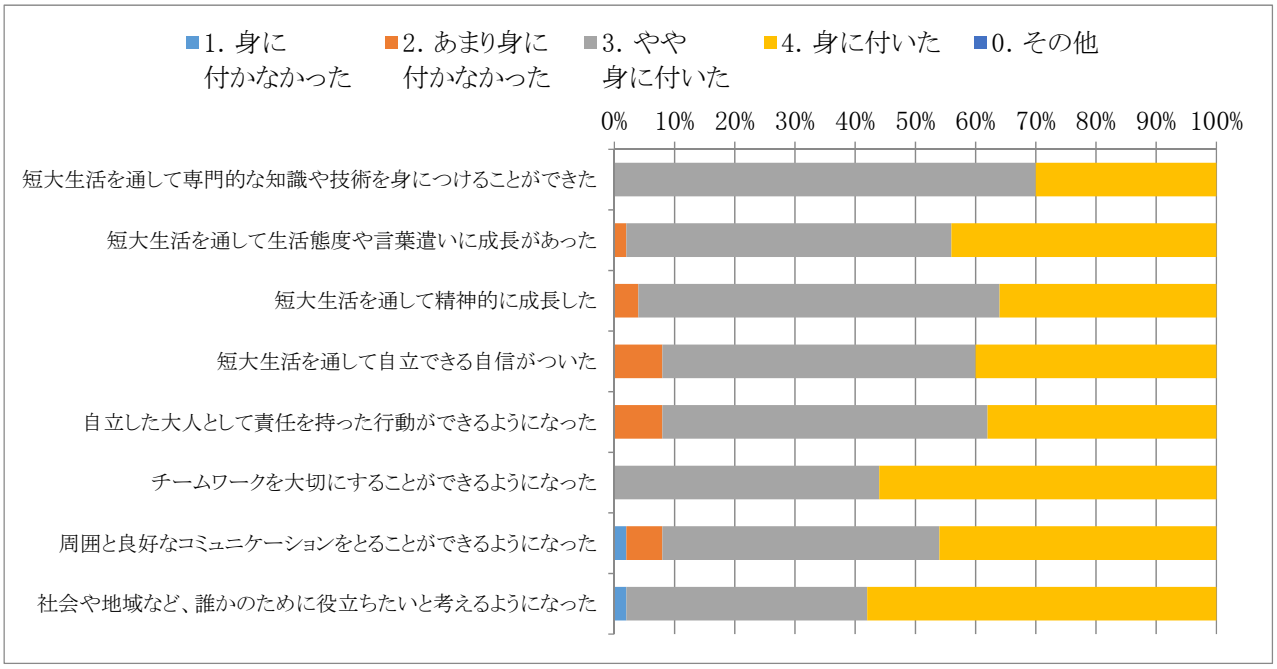
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

４　自由記述

・　普通に楽しい
・　この状況でリモートで出来そうなテストを対面でするのがなぜなのかなと思いました。
・　毎日楽しく勉強できる
・　コロナ禍であまり良い学生生活が送れなかった
・　コロナ禍の中でも、オンライ授業などを通しながら沢山のことを学べて良かったです。
・　コロナで授業があまりなくて大丈夫かなと心配になることはあるけど対面授業の時に先生方がオンラインの時のおさらいをしてくれる教科もあったのでそこは安心しました。どの先生に就職の相談をしたらいいかわからないです。
・　今年は行事が出来なかったので、来年は出来たらいいなと思います。
・　学校への提出物の連絡やオンライン期間中の対面での試験日程などの連絡が急にくるので、実家が遠方にある学生のことも考えて早めに連絡をするようにしてほしいです。
・　保育の知識を学ぶために充実した学生生活が送ることができました。
・　コロナ禍でたくさんのことが制限されていたので来年こそは楽しい学生生活が送れたらいいなと思いました。
・　先生が優しくて過ごしやすいです！
・　リモートが多くて分かりにくかった
・　早く対面授業になってみんなに会いたいです。毎日楽しいです。
・　大切な友達に出会えました。
・　学生生活が楽しかったです。友達と話したり、授業を一緒にしたりができました。コロナの関係で途中からはリモートでした。早くコロナが終息して普段通りの学生生活を送りたいで

す。

- 最初は友達ができるか不安だったけど、沢山友達ができたのでよかったです。学校の中にコンビニがあるのがとても助かりました。学校前の階段がとてもしんどいのでエスカレーター等にして欲しいと思いました。
- とても良い一年を過ごすことができました
- ほとんどの先生が話しやすくて過ごしやすいです。シーラーニングでもわかりやすい資料を載せてくれる先生が多くて、家でもちゃんと勉強できるので安心して受けられる授業がほとんどで良かったです。
- １年間、行事ができなかったことが悲しかったですが、楽しく充実した毎日を過ごすことができたと思います。
- 楽しいです
- うんどう会や生活発表会の行事が出来ず、子どもと関わる機会がなくなったので悲しく思いました。
- コロナで大変だったけど楽しくできたと思います。
- シーラーニングというアプリを文化大学は活用し分からないことは先生に聞くこともできとてもいい事だと思いました。
- ピアノが先生と一対一で教えてもらえるのでありがたいです。

５　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

「教務」の領域では、“満足群”を表す「やや満足」と「満足」の占める割合は全体に高く、特に「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」は 98%となっている。さらに、「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」の項目は共に 94%である。一方で、「運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた」の項目は、大変低い満足度となった。

「学生生活」の領域では、すべての項目において高い満足度となっている。特に「教員・職員・チューターのサポート体制」の満足度はいずれも 96%を超える結果であった。「友達作り」の項目においても、コロナ禍でありながら 90%の高い満足度であった。その結果、「入学してよかった」と思う学生の割合が 98%と高くなっている。

「キャリアアップ」の領域では、「就職支援」「資格取得支援」共に 94%の満足度となっている。1 年生は就職や資格取得についてはさほど意識することなく生活しており、様々なキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

「自治会活動」の領域は、通常通りの実施ができなかったにもかかわらず 96%と高い満足度を示している。困難な中での自治会の取組姿勢を評価していることがうかがえる。

「施設」の領域では、いずれの項目においても 90%を超える割合の学生が満足している。

コロナ禍における行事実施の工夫が、喫緊の課題である。また、全般的に高い満足度の中ではあるが、演習などの授業を通して確かな実践力を育成していくことが目下の課題と思われる。

（2）要因分析

「教務」の領域で「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」が高い満足度となったのは、学科の特徴の一つとして初心者のピアノ指導の充実を謳っており、それを意識しての常勤・非常勤の講師陣の工夫・努力の結果と思われる。さらに、「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」の項目の満足度が高いのは、学生の学びに視点を当てた授業改善の意識が浸透してきたとともに、1 年生にとって初めての幼稚園実習が自身の成長を実感することのできる貴重な体験となったことがうかがえる。一方で、「運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた」の項目の満足度は大変低いのは、コロナ禍における行事実施ができなかったことに起因する。

「学生生活」の領域で、すべての項目において高い満足度となったのは、学生本位のサポート体制づくりの成果と思われる。

「キャリアアップ」の領域でも、様々なキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

「施設」の領域では、例年低い満足度が本年度は高い。この結果は、オンラインでの活動時期が多かった中、大学施設で過ごすことができた喜びの現れではないかと思われる。

（3）本年度の対策

学科の目指す方向性を端的に描き、その実現に向けて、これまで同様に担当教員はもとより学科教員全員が一丸となって取り組む。さらに、学生個々の学びを保証する授業づくりを進め、確かな成長を実感できる細やかな支援に努めていきたい。特に令和4年度からは、学生一人一人が「保育技術」を磨き、自己の強みを育てていけるよう支援に努めていく。

また、コロナ禍における活動の工夫も積極的に進めていきたい。

2）自己点検のまとめ

すべての項目において 90%を超える高い自己評価結果であった。特に、「専門的な知識・技術の習得」「チームワーク」の項目は 100%であり、「生活体道や言葉遣い」「精神的な成長」の項目も非常に高い。例年課題となっている「良好なコミュニケーション力」の項目についても 92%身に付いたとの自己評価であった。この結果は、1 年間の学生生活を通して、保育者としての基礎をはじめ自己の成長を実感している学生が多いということがうかがえる。今後の実習などの様々な活動を通して、更に自己を高めていくことが予想される。

一方で、成長が十分ではないと感じている学生が少なからずいる。自己肯定感の低さが、本学科の学生の顕著な傾向である。現状をしっかりと受け止めつつ、一人一人の学生の伸びていく姿をつぶさにとらえ、自信につながる評価活動を進めていきたいと考えている。

2021 年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

１．調査回答者

２年次　５６名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1．不満	2．やや不満	3．やや満足	4．満足	0．その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	1 人 2%	7 人 13%	33 人 59%	15 人 27%	0 人 0%	56 人
	授業	1 人 2%	10 人 18%	32 人 57%	13 人 23%	0 人 0%	56 人
	授業科目が充実していた	1 人 2%	7 人 13%	28 人 50%	20 人 36%	0 人 0%	56 人
	ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた	1 人 2%	1 人 2%	16 人 29%	38 人 68%	0 人 0%	56 人
	教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた	1 人 2%	0 人 0%	20 人 36%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
	運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた	24 人 43%	14 人 25%	13 人 23%	5 人 9%	0 人 0%	56 人
	入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた	3 人 5%	15 人 27%	26 人 46%	12 人 21%	0 人 0%	56 人
学生生活	教員のサポート体制	1 人 2%	3 人 5%	32 人 57%	20 人 36%	0 人 0%	56 人
	職員のサポート体制	1 人 2%	3 人 5%	30 人 54%	22 人 39%	0 人 0%	56 人
	チューターのサポート体制	1 人 2%	1 人 2%	23 人 41%	31 人 55%	0 人 0%	56 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	1 人 2%	2 人 4%	19 人 34%	34 人 61%	0 人 0%	56 人
	保育学科に入学してよかった	1 人 2%	0 人 0%	26 人 46%	29 人 52%	0 人 0%	56 人
	コロナ対応等に係るサポート体制	4 人 7%	8 人 14%	21 人 38%	23 人 41%	0 人 0%	56 人
キャリアアップ	就職支援体制	1 人 2%	6 人 11%	25 人 45%	24 人 43%	0 人 0%	56 人
	資格取得支援体制	1 人 2%	6 人 11%	25 人 45%	24 人 43%	0 人 0%	56 人
自治会活動	自治会活動全般	8 人 14%	8 人 14%	27 人 48%	11 人 20%	2 人 4%	56 人
施設	図書館	1 人 2%	0 人 0%	20 人 36%	35 人 63%	0 人 0%	56 人
	食堂	2 人 4%	3 人 5%	20 人 36%	31 人 55%	0 人 0%	56 人
	保健室	1 人 2%	0 人 0%	26 人 46%	29 人 52%	0 人 0%	56 人
	学生相談室	1 人 2%	2 人 4%	27 人 48%	26 人 46%	0 人 0%	56 人
	施設や設備全般	3 人 5%	10 人 18%	24 人 43%	19 人 34%	0 人 0%	56 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	1 人 2%	9 人 16%	27 人 48%	19 人 34%	0 人 0%	56 人

※「その他」は、無回答だったものです。

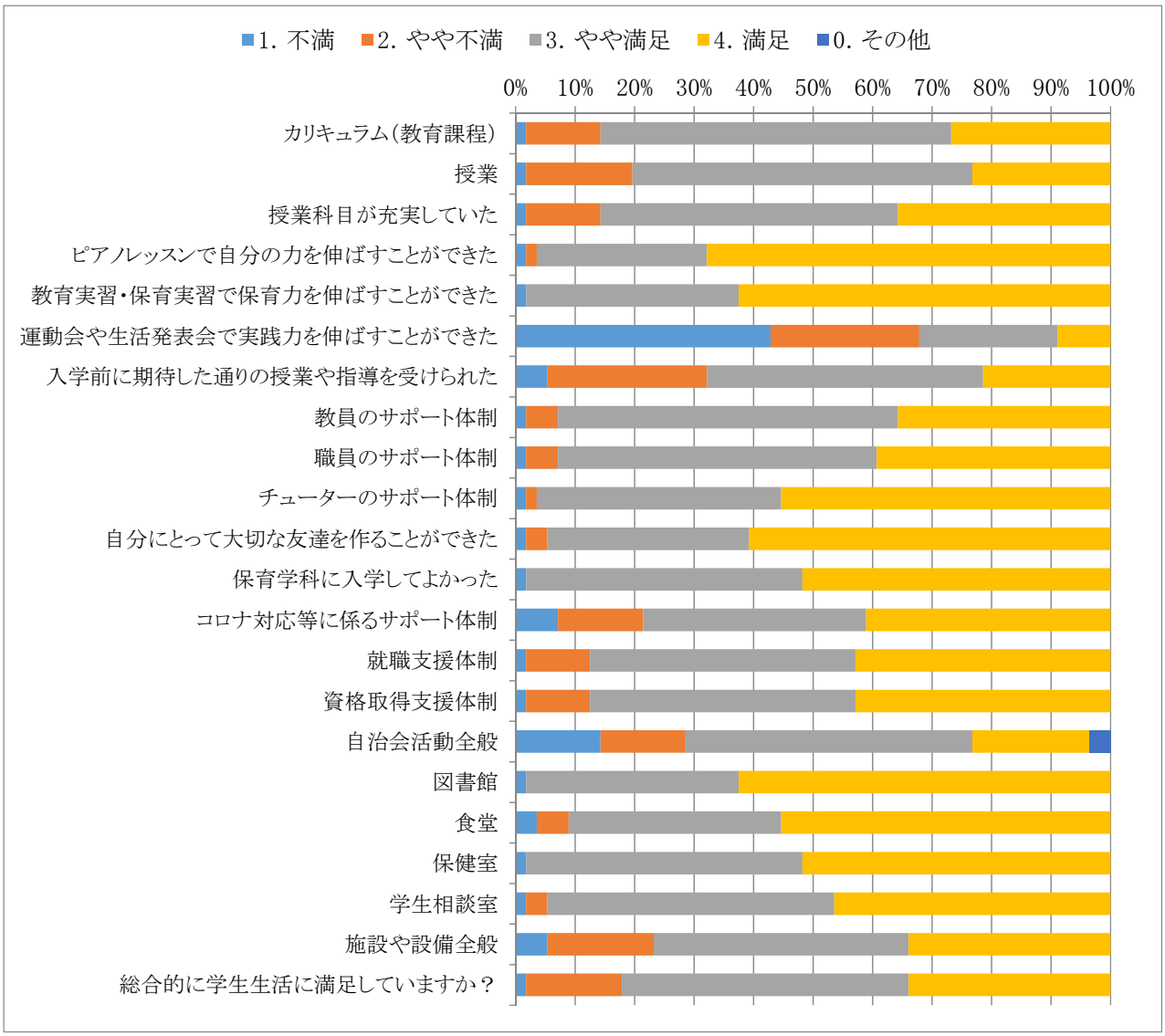
2）自己点検

項目	1.身に付かなかった	2.あまり身に付かなかった	3.やや身に付いた	4.身に付いた	0.その他	計
短大生活を通して専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 2%	30 人 54%	25 人 45%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0 人 0%	1 人 2%	34 人 61%	21 人 38%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して精神的に成長した	1 人 2%	4 人 7%	26 人 46%	25 人 45%	0 人 0%	56 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	6 人 11%	31 人 55%	19 人 34%	0 人 0%	56 人
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった	0 人 0%	2 人 4%	35 人 63%	19 人 34%	0 人 0%	56 人
チームワークを大切にすることができるようになった	0 人 0%	1 人 2%	26 人 46%	29 人 52%	0 人 0%	56 人
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった	0 人 0%	3 人 5%	31 人 55%	22 人 39%	0 人 0%	56 人
社会や地域など、誰かのために役立ちたいと考えるようになった	0 人 0%	3 人 5%	31 人 55%	22 人 39%	0 人 0%	56 人

※「その他」は、無回答だったものです。

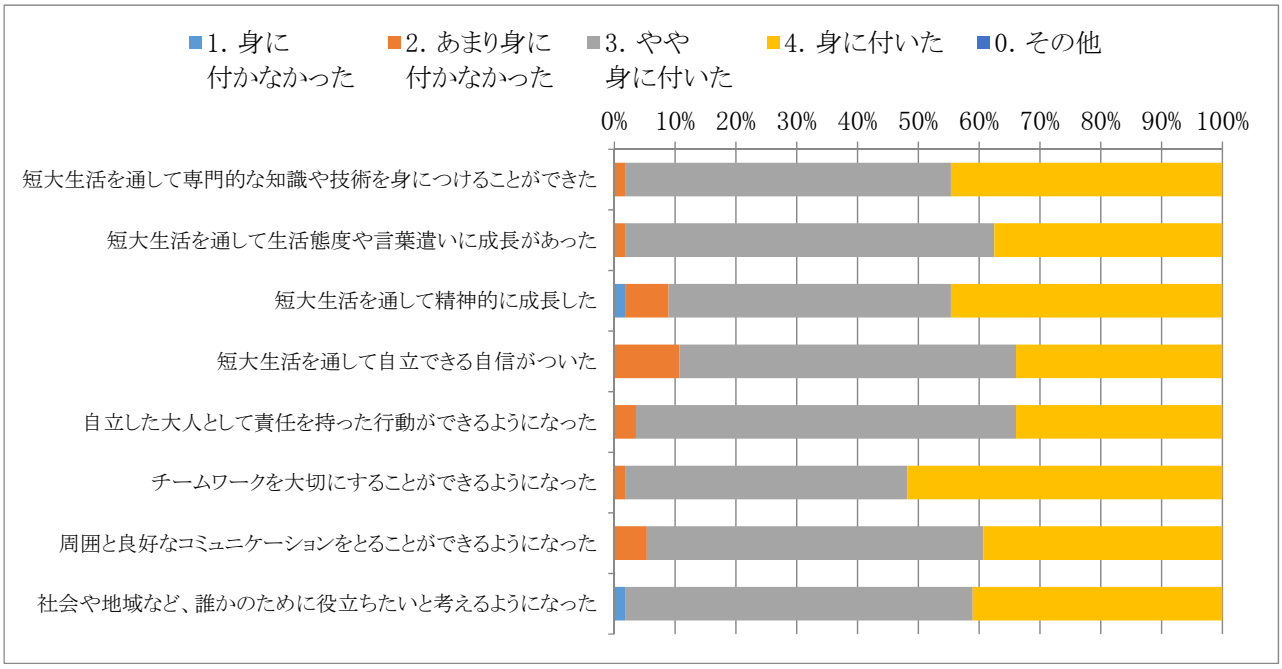
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

２）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

４　自由記述

・　コロナで行事が何も出来なかったのが残念です。
・　もっと行事をしたかったコロナ残念
・　文化最高でした！
・　なにか行事をしたかった
・　行事は全然できなくて残念だったけど、良い2年間を過ごすことができたので良かった。
・　初めは不安も沢山ありましたが、いい友達に恵まれ、先生方も優しく、素敵な学生生活が過ごせました。コロナがなかったらもっと楽しかったのかなと思います。
・　コロナの影響もあるが、学生らしい学校全体で行うイベントはゼロと言って良いくらい何も出来なかった。
・　先生方はたくさん親切に教えて下さりほんとに良かったです。2年生もしっかり頑張りたいです。
・　生活発表など色々な行事がなくなったので、これから分からないことが増えると思った。
・　リモート授業時のファイル形式が pdf に統一されてなく、非常にやりづらかった
・　毎日楽しく過ごせました
・　行事などが無くなってしまったので、進級した時にできるかが不安です。
・　充実して楽しい
・　コロナのため楽しみにしていた行事が全て無くなってしまったので残念でした。
・　教師や友達全員優しくて楽しく学校生活を過ごすことが出来ています。
・　コロナで授業を対面でできてなくて、行事もできてなくて、オンライン授業は学校にいないぶん、電気代とかオンラインをする為に、携帯を使って授業をしていて、一人暮らしは相当

きつかったです！！！！なのに、授業料をそのまま払っていてめちゃくちゃ不満です。一部に給付するっていっても結局成績のいい人ばかり選ばれて、対面でしてないのに成績とかで判断されてもおかしいと思います。少し返すとか無かったのかなと思いました。しかも、一年生の最初は対面もオンラインも全くしてないのに、全額払わされてどうなのかなって思いました。学生生活は楽しかったです！

- あっという間だった
- ほんとに楽しく学生生活を送れました！！
- 相談しやすい先生が多くて良いです

５　まとめ

１）満足度調査

（１）状況と課題

「教務」の領域では、“満足群”を表す「やや満足」と「満足」の占める割合が高い結果となったのは、「ピアノレッスン」97％、「教育・保育実習」99％と実践力の伸長に係る項目であった。「カリキュラム」「授業」「授業科目」「期待通りの授業」の項目においても、すべて80％を超える満足度となっている。一方で、「運動会や生活発表会で実践力育成」「期待した通りの授業や指導」の項目の満足度は大変低い。

「学生生活」の領域では、いずれの項目においても90％を超える高い満足度となっている。特に、「教員のサポート」「職員のサポート」「チューターのサポート」については、95％前後の満足度である。一方で、「コロナ禍におけるサポート体制」の項目は79％とやや低い。

「キャリアアップ」の領域では、「就職支援」「資格取得支援」共に88％と高い満足である。

「自治会活動全般」は68％の満足度と低い結果であった。

「施設」の領域では、「図書館」「食堂」「保健室」「学生相談室」のいずれの項目においても、90％を超える学生が満足しているという結果となった。現状の施設・設備の中での、最善の対応の結果と思われる。一方で、「施設や設備全般」への満足度は77％とやや低い。行事の準備を行ったり空き時間を有意義に過ごしたりするための居場所は十分とは言えない。

課題は、いずれの領域においても、コロナ禍における対応の工夫といえよう。また、就職や資格取得に関して、1 年生時からいかに意識化させていくかも課題だと感じている。

（２）要因分析

教務の領域における高い満足度は、多くの学生が抱えるピアノ演奏への不安を個々の力量に応じた個別レッスンによって解消できるようにする取組や、実習における直接体験をはじめ、学科行事等における体験学習を通して実践力を伸ばしていきたいという、本学科において特に力を入れて取り組んできたことが成果を上げてきたものと思われる。また、2 年生では立て続けに行われる実習での巡回教員とのかかわりや、卒業研究を進める中でのチューターの丁寧な指導、就職活動に向けての学生個々の状況に応じた支援など、学生と教員・職員との密接なかかわりなくしては成り立たない活動が増えてくる。その際の丁寧な支援の結果が、満足度に如実に現れたものと推察される。

一方で、本学年は入学後の2年間をすべてコロナ禍の対応に追われる学生生活を強いられ、その無念さが顕著に表れている。

（3）本年度の対策

今後とも、担当教員はもとより学科教員全員が一丸となり、学生個々の実情に応じた細やかな支援に努め、全員が様々な活動を通して確かな成長を実感できるよう努めたい。また、授業においても一層の指導方法の工夫・改善を進めていきたい。

さらに、学生個々の自立に向けて、求めや状況に応じたサポート体制の一層の充実に努めていきたい。特に、チューターと連動したキャリアセンター職員の細やかなサポート姿勢は、学生にとって大きな支えとなっていることは間違いない。今後とも、現在の体制をしっかりと維持し向上させていきたいと考える。

2）自己点検のまとめ

「自立できる自信」の項目を除き、他のすべての項目において95%前後の高い自己評価結果であった。特に、「専門的な知識・技術の習得」「生活体道や言葉遣い」「チームワーク」の項目は99・98%と非常に高い。例年課題となっている「良好なコミュニケーション力」の項目についても94%の学生が身に付いたとの自己評価であった。この結果は、1年間の学生生活を通して、保育者としての基礎をはじめ自己の成長を実感している学生が多いということがうかがえる。今後の実習などの様々な活動を通して、更に自己を高めていくことが予想される。

一方で、成長が十分ではないと感じている学生が少なからずいる。自己肯定感の低さが、本学科の学生の顕著な傾向である。現状をしっかりと受け止めつつ、一人一人の学生の伸びていく姿をつぶさにとらえ、自信につながる評価活動を進めていきたいと考える。

進路・就職状況

学生部次長　出廣 久司

令和４年３月卒業生の進路状況　　令和４年５月１日現在

データは、令和４年３月卒業の学生分

			広島文化学園短期大学			
			コミュニティ生活学科	食物栄養学科	保育学科	短期大学合計
卒業者数			94 人	40 人	74 人	208 人
内訳	1 .就職	希望者数 A	71 人	38 人	68 人	177 人
		決定者数 B （うち正規採用）※ 1	71 人 （ 63 人）	38 人 （ 37 人）	68 人 （ 66 人）	177 人 (166 人)
		決定率 B/A	100%	100%	100%	100%
	2 進学	希望者数 C	3 人	1 人	2 人	6 人
		決定者数 D	3 人	1 人	2 人	6 人
		決定率 D/C	100%	100%	100%	100%
	3.帰国予定 E ※ 2					
	進路決定率※ 3		100%	100%	100%	100%
	昨年同時期の進路決定率		100%	95. 6%	96. 6%	97. 6%
	4.その他 F 内訳 ・就職希望なし ・家事手伝 。家族滞在(留学生のみ)		20 人 ・就職希望なし	1 人 ・就職希望なし	4 人 ・就職希望なし	25 人

※ 1 正規採用とは、雇用間の定めがない採用

※ 2 帰国予定者とは、国内での就職活動及び受験の実績や意思が無い者

※ 3 進路決定率= (B +D+ E)/(A+C+E)

就職先一覧

学生部次長　出廣 久司

（令和３年度卒業生）

業種	企業別	地域別			職種	就職者数		
		市内	県内	県外		R元年度	R2年度	R3年度
医療福祉	（医）あすか 高橋内科小児科	○			事務			2
	（医）あずさ会 森整形外科	○			事務		1	
	（医）有津むらかみクリニック			○	事務	1		
	（医）うすい会 高陽ニュータウン病院	○			栄養士		2	
	（医）香会 岡村医院		○		事務	1		
	（医）川岡クリニック	○			事務			2
	（医）厚生堂 長崎医院	○			事務	1		
	（医）好縁会　下山記念クリニック		○		事務			1
	（医）たかまさ会 山﨑病院	○			栄養士		1	1
	（医）ともみ会 大倉医院		○		事務		1	
	（医）ひがしの会		○		介護		1	
	（医）飛翔会 呉整形外科クリニック		○		事務		1	
	（医）輔仁会 太田川病院	○			事務			1
	（医）ももの木会 そえだ歯科医院		○		事務		1	
	（医）湧泉会 ひまわり歯科		○		事務			1
	（宗）本願寺広島別院 真和保育園	○			栄養士			1
	（福）あさみなみ	○			保育士・生活支援員	1	1	
	（福）亀甲会		○		調理員	1		
	（福）呉同済義会		○		生活支援員			1
	（福）くるみ会		○		調理員		1	
	（福）交響　第一きつつき共同作業所	○			介護	1		
	（福）寿老園老人ホーム　特別養護老人ホームレークサイド土師		○		調理員		1	

	（福）慈楽福祉会	○			栄養士		1	
	（福）成城会		○		事務			1
	（福）ふたば福祉会 葵保育園			○	栄養士			1
	（福）平成会		○		介護			1
	JA 尾道総合病院		○		事務		1	
	あなぶきメディカルケア（株）	○			介護			1
	有田歯科医院	○			事務	1		
	岡田歯科医院	○			事務	1		
	かなで歯科クリニック	○			事務			1
	（株）アイグラン	○			事務			3
	（株）Seiwa	○			事務			1
	（株）ニチイ学館	○		○	事務・介護職員	4		2
	（株）ニチイ学館 広島支店 中国労災病院		○		事務		1	
	（株）リライアンスコスモス薬局グループ	○			栄養士・事務	2		
	きたがわ歯科クリニック	○			事務			1
	クリスタル歯科クリニック	○			事務	1		
	公園通り歯科クリニック	○			事務	1		
	こうの歯科・矯正歯科	○			事務			1
	河野歯科医院	○			事務			1
	common（株）	○			生活支援員			2
	谷本医院		○		事務			1
	鶴見クリニック	○			事務		1	
	特別養護老人ホームくすの木苑	○			調理員		1	
	豊田内科胃腸科		○		事務			1
	新見歯科医院	○			事務			1
	東区役所前歯科	○			事務			1
	広島祇園スマイル歯科小児歯科医院	○			事務	1	1	
	福島眼科クリニック		○		事務			1
	ほりえ歯科	○			事務			1
	ホワイトエッセンス広島駅前歯科	○			事務		1	
	マイライフ（株）		○		事務	1		
	向洋みらい歯科クリニック		○		事務			1
	山口赤十字病院			○	調理員		1	

	(有)リラックス	○			生活支援員			1
運輸業、郵便業	晃栄産業（株）広島	○			事務			1
	福山通運（株）		○		事務			1
卸・小売業	（有）あんどう花店	○			販売	2		
	ciaopanic by PGO OUTLET	○			販売		1	
	DCM ダイキ安芸白島店	○			販売	1		
	HUF HIROSHIMA	○			販売		1	
	JUMP SHOP 広島店	○			販売		1	
	P&G プレステージ（同） SK-Ⅱ			○	販売		1	
	Ｓｔｕｓｓｙ Hirosima Chapter	○			販売		1	
	who's who Chico（フーズフーチコ） 広島パルコ店	○			販売		1	
	あさみやフーズ（株）	○			事務		1	
	ウンナナクール広島本通り店	○			販売		1	
	（株）ABC		○		事務			1
	（株）ISSEY MIYAKE			○	販売	1		
	（株）NOVA			○	事務	1		
	（株）アデリー			○	製造		1	
	（株）ヰセキ中四国		○		事務			1
	（株）オプティコ		○		販売			1
	カフェベーカリーニューポート	○			接客		1	
	（株）クリエイトグループ			○	販売			1
	（株）クルマックス	○			事務			1
	（株）中央コンタクト	○			販売			1
	（株）デイ・リンク東雲店	○			接客		1	
	（株）ツルハグループ ドラッグ&ファーマシー西日本	○			販売			1
	（株）ドラッグストア モリ			○	栄養士	1		
	（株）にしき堂	○			販売			1
	（株）ビッグモーター			○	販売			1
	（株）ファーマシィ			○	事務		1	
	（株）ファーマフーズコミュニケーション			○	事務			1
	（株）マツダオートザム海田		○		事務・販売	1		1
	（株）万惣	○			販売			1
	（株）メディカルフォレスト フォレスト薬局			○	事務		1	

	（株）レディ薬局		○		接客			1
	東京靴流通センター	○			接客		1	
	光昭（株）			○	事務	1		
	広島トヨタ自動車（株）	○	○		営業・事務		1	
	広島三菱自動車販売（株）	○			事務	1		
	山口トヨタ自動車（株）			○	接客・販売	1	1	
	ゆめタウン呉		○		接客	1		
	ルノー広島（(株）カーバンクニムラ）	○			営業		1	
業種	企業別	地域別			職種	就職者数		
		市内	県内	県外		R元年度	R2年度	R3年度
卸・小売業	（株）JUNグループ			○	販売	1		
	（株）WEST（X-girl）	○			販売			1
	（株）アップスイング　グランジュール山口店			○	販売		1	
	（株）アルビオン			○	販売	1		
	（株）アルファベットパステル		○		販売		1	
	（株）エディオン			○	販売	1		
	（株）大之木ダイモホームセンタータック本店		○		販売		1	
	（株）キャン			○	販売・事務	2		
	（株）京都嵯峨野	○			販売	3		2
	（株）国井産業	○			販売	1		
	（株）コスモス薬品		○		販売	1		
	（株）サマンサタバサジャパンソシテッドシテッド			○	販売	1		
	（株）シーボン			○	販売	1		
	（株）ジェイフルまるやま			○	販売	1		
	（株）セブン-.イレブン・ジャパン	○			販売			2
	（株）ナイスクラップ			○	販売	1		
	（株）ノーリーズ			○	販売	1		1
	（株）パル			○	販売	1		
	（株）バロックジャパンリミテッド		○		販売		1	1
	（株）福屋	○			販売・接客	1	2	

	（株）フランス屋	○			販売	2	1	
	（株）マーキュリー			○	販売	1		
	（株）マイケル・コースジャパン	○			販売	1		
	（株）マッシュスタイルラボ	○			販売			1
	（株）雅		○		販売		1	
	（株）ローズバッド			○	販売	1		
	（株）ワールドストアパートナーズ			○	販売	2		
	日産プリンス広島販売（株）	○			販売		1	
	re_dot.（リードット）	○			販売			1
教育	広島県立広島中学校		○		教員（中）			1
金融・保険業	明治安田生命保険相互会社	○			販売	3		
公務	安芸高田市役所		○		事務			1
	愛媛県松山西警察署			○	事務	1		
	周南市役所			○	事務		1	
	広島市（会計年度任用職員・保育士）	○			保育士			1
サービス業（2その他）	（株）KDDI エボルバ	○			販売			1
	（株）２りんかんイエローハット	○			機械技術者			
宿泊業・飲食サービス業	エームサービス（株）	○		○	栄養士	1		1
	（株）Laugh	○			栄養士	1	1	1
	（株）Laugh 障害者支援施設セルプ宇品	○			栄養士		1	
	（株）LEOC	○		○	栄養士	1		2
	（株）LEOC 社会医療法人同仁会周南記念病院			○	栄養士		1	
	（株）LEOC 谷本クリニック	○			栄養士		1	
	（株）LEOC 野村病院	○			栄養士			1
	（株）LEOC メリィハウス相田	○			栄養士			1
	（株）LEOC メリィハウス五日市	○			栄養士		1	
	（株）LEOC ワカサ・リハビリ病院	○			栄養士		1	
	（株）アスモフードサービス　ベストライフ広島	○			栄養士			1
	（株）栄食メディックス			○	栄養士	1		
	（株）エポカフードサービス	○	○		栄養士	1		

	（株）エポカフードサービス さんさんまりんこども園		○		栄養士		1	
	（株）グリーンハウス			○	栄養士	4	1	1
	（株）グリーンハウス　べにまんさくの里		○		栄養士			1
	（株）ナリコマエンタープライズ	○		○	栄養士・調理員	2		1
	（株）メフォス西日本		○	○	栄養士	3		2
	シダックス（株）		○	○	栄養士	1		
	シダックス（株）　下永病院		○		栄養士		1	
	シダックス（株）　社会福祉法人広島東福祉会 虹の里第２	○			栄養士			1
	シダックス（株）　広島ひかり園		○		栄養士			1
	シダックス（株）　府中市学校給食センター		○		栄養士			1
	西日本フードサービス（株）中国支店 山口県済生会豊浦病院			○	栄養士		1	
	日清医療食品（株）大朝ふるさと病院		○		栄養士			1
	日清医療食品（株）中国支店	○		○	栄養士	1		1
	日清医療食品（株）特別養護老人ホーム たちばな苑		○		栄養士			1
	日清医療食品（株）廿日市野村病院		○		栄養士		1	1
	日清医療食品（株）広島県立障害者発達療育支援センター		○		栄養士		1	1
	日清医療食品（株）広島県立障害者リハビリテーションセンター		○		栄養士		1	
	日清医療食品（株）ふたば病院		○		栄養士			1
	日清医療食品（株）マッターホルンリハビリテーション病院		○		栄養士		1	1
	日清医療食品（株）水永リハビリテーション病院		○		栄養士			1
	ハーベストネクスト（株）大野学校給食センター		○		栄養士		1	
	富士産業（株）	○		○	栄養士	4		

	富士産業（株）荒木脳神経外科病院	○			栄養士		1	
	富士産業（株）佐伯中央病院		○		栄養士			1
	富士産業（株）四国西事業部			○	栄養士			1
	富士産業（株）中国労災病院		○		栄養士		1	
	富士産業（株）横浜東邦病院			○	栄養士			1
	富士産業（株）老健あき事業所	○			栄養士			1
	フジ産業（株）第一屋製パン大阪空港工場			○	栄養士		1	
	淀川食品（株）県立安芸津病院		○		栄養士		1	
	淀川食品（株）福山医療センター		○		栄養士		1	
業種	企業別	地域別			職種	就職者数		
		市内	県内	県外		R元年度	R2年度	R3年度
宿泊業・飲食サービス業	CAFÉ&GRILL MOTEL　広島駅北口店	○			接客		1	
	THE Perth（お好み焼き）	○			接客		1	
	udon dining café 安菜蔵			○	接客		1	
	浅利観光（株）松江ニューアーバンホテル			○	接客			1
	岡山プラザホテル			○	接客	1		
	鍛冶二丁	○			接客		1	
	（株）AICマネジメント	○			接客			1
	（株）B&V（カプセルホテル　広島のお宿）	○			接客			1
	（株）EVENTOS	○			接客		1	
	（株）TANABEグローバルキッチン	○			接客			1
	（株）アロフト	○			販売	1		
	カフェ（3/25）			○	接客			
	（株）グラットン　食辛房		○		調理員			1
	（株）コメダ（コメダ珈琲店）	○			接客			1
	（株）商業藝術			○	接客	1		
	（株）叙々苑	○			接客	1		1
	（株）日米クック	○	○	○	栄養士・調理員	2		
	（株）バサラダイニング（名代竹仙）			○	接客	1		
	（株）プリンスホテル	○			接客		1	

	（株）フレスカ			○	接客		1	
	（株）山の手リゾート			○	接客	1		
	（株）ユキ・コーポレーションアーバインホテルズ	○			接客		1	1
	スターバックスコーヒージャパン（株）			○	販売	1		
	玉造温泉 白石家			○	接客		1	
	とんかつ新宿さぼてん			○	販売	1		
	日清医療食品（株）ワカサ・リハビリ病院	○			調理員	1		
	ピウボーテ	○			接客	1		
	広越（株）	○			接客			1
	ヒロボシ（株）	○			接客		1	
	ベッセルホテル　東広島		○		接客	1		
	レモネードBY レモニカ（シャレオ）	○			接客		1	
情報通信	（株）アイティープロデュース			○	事務	1		
	（株）ビリーフ			○	営業		1	
	（株）フォルテ	○			販売			1
生活関連サービス業	（有）エコロ	○			事務	1		
	（有）このみや	○			販売		1	
	Grace Spirits	○			接客		1	
	IKK ホールディングス（株）（ラシャンス広島迎賓館）	○			接客			1
	TBC グループ（株）			○	接客	1		
	エフプランニングテラサキ	○			事務			1
	（株）coco（cocoplus（ココプラス））	○			接客			1
	（株）LIFE　CREATE			○	インストラクター	1		
	（株）ＲＩＴＡ	○			接客		1	1
	（株）you-2	○			接客		1	
	（株）アビリティライフ脱毛サロン【More twinkle】	○			接客	1	1	2
	（株）サンセルモ	○			接客	1		
	（株）スリムビューティハウス	○			接客			1
	（株）大進創寫館	○		○	写真・接客	1	1	

	（株）テイクアンドギヴ・ニーズ	○			接客		1	
	（株）ボディワークホールディングス	○			接客			1
	（株）メディビューティー			○	接客			1
	（株）ルネティルタ	○			接客		1	1
	木下（株）			○	接客		1	
	ラクサス・テクノロジーズ（株）	○			販売		1	
	リゼクリニック	○			接客		1	
	リム	○			接客		1	
	料亭二葉	○			接客		1	
製造業	（株）あわしま堂			○	栄養士	1		
	（株）母恵夢本舗			○	販売	1		
	（株）やまみ		○		生産工程	1		
	神戸鈑金工業（株）広島クリエイトファクトリー		○		事務		1	
	中国木材（株）		○		事務	1		
専門・技術サービス業	（株）きもの工芸西陣（着物レンタル&フォトスタジオピカソ）		○		事務・接客			1
	（株）サイネックス	○			事務		1	
	京都フォトスタジオ			○	写真		1	
	昭和測量設計事務所			○	事務	1		
その他（環境・リサイクル）	（株）タイヨー	○			営業		1	
	（有）広島シティサービス	○			事務		1	
その他（警備）	綜合警備保障（株）	○			保安職業			2
その他（派遣）	（株）エイジェック	○		○	事務・接客	5		
	（株）テクノサービス	○			事務・接客			1
認定こども園	（学）馬越学園　西条みづき認定こども園		○		保育教諭	1		
	（学）奥山学園 幼保連携型認定こども園 桜ヶ丘幼稚園		○		保育教諭			1
	（学）多幾山学園 認定こども園 焼山こばと		○		保育教諭		1	
	（学）光学園　川尻光幼稚園		○		保育教諭	1		
	（学）ふじさわ学園 せいふう認定こども園	○			保育教諭		1	1

	（学）府中石田学院		○		保育教諭			1
	（学）法輪学園	○			保育教諭		1	
	（学）緑ヶ丘幼稚園 認定こども園 みどりがおかようちえん		○		保育教諭			1
	（学）明徳学園 幼保連携型認定こども園明徳幼稚園		○		保育教諭		1	
	（学）村田学園 ひまわり認定こども園		○		保育教諭	1		
	（学）鯉城学園		○		保育教諭			1
	（学）わかば学園		○		保育教諭			1
	（合）まどころ			○	保育教諭			1
	（福）石川福祉会 桜が丘認定こども園		○		保育教諭	1		
	（福）永照福祉会ロータスプリスクール西原	○			保育教諭		1	
業種	企業別	地域別			職種	就職者数		
		市内	県内	県外		R元年度	R2年度	R3年度
認定こども園	（学）鯉城学園 幼保連携型認定こども園 フレーベル幼稚園		○		保育教諭・保育士		2	
	（福）石川福祉会 桜が丘認定こども園		○		保育士		1	
	（福）永照福祉会ロータスプリスクール横川	○			保育教諭		1	
	（福）恵泉福祉会 愛育認定子ども園		○		保育教諭		1	
	（福）信楽会 認定こども園 至心保育所		○		保育教諭			1
	（福）認定こども園 日脚保育園			○	保育教諭		1	
	（福）八岩華福祉会 仁方こども園		○		保育教諭		1	
	（福）花の村 保育所型認定こども園 さくらこども園			○	保育士		1	
	（福）広島光明学園	○			保育教諭			2
	（福）広島修道院 広島修道院保育園	○			保育教諭			2
	（福）伴福祉会とも認定こども園	○			保育教諭	1		

	（福）紅楓福祉会		○		保育教諭			3
	（福）法輪福祉会	○			保育教諭			2
	（福）法輪福祉会 幼保連携型認定こども園 ほうりんこころ保育園	○			保育教諭	1		
	（福）来迎寺学園			○	保育教諭		1	
	（福）りじょう福祉会 幼保連携型認定こども園りじょう認定こども園	○			保育教諭			1
	（福）立正たちばな会川西・りぼん保育園			○	保育教諭	1		
	伊部認定こども園			○	保育教諭	1		
	うさぎ山こども園			○	保育教諭		1	
	河戸こども園	○			保育教諭	3		
	スカウトランドひまわり幼稚園		○		保育教諭		1	
	大乗こども園		○		保育教諭	1		
	認定こども園　さざなみの森		○		保育教諭	1		
	認定こども園　くすの木	○			保育教諭	1		
	認定こども園 サムエル広島こどもの園	○			保育士		1	
	認定こども園 サムエル美鈴が丘こどもの園	○			保育教諭		1	
	認定こども園 サムエル薬師が丘こどもの園	○			保育教諭		1	
	認定こども園 しろはと		○		保育教諭	1		
	認定こども園 月見幼稚園		○		保育教諭		1	
	認定こども園 みそのうこばとの森		○		保育教諭	1	1	
	みなと子ども園			○	保育教諭	1		
	幼保連携型認定こども園　安芸幼稚園	○			保育教諭	1		
複合サービス業	JA 佐伯中央		○		事務			1
	JA 三次		○		事務			1
不動産業、物品賃貸業	（株）KIZUKU	○			事務	1		
保育園	（一社）あおぞら会 ONE 保育所	○			保育士		1	
	（学）田中学園 みつる保育園	○			保育士	1		

	（学）曙学園　クレシュ新横浜			○	保育士			1
	（独）国立病院機構 浜田医療センター おおぞら保育園			○	保育士		1	
	（特非）キッズNPO にこにこの森保育園		○		保育士	1		
	（福）FIG福祉会ピッコロゴード保育園		○		保育士	1	1	
	（福）愛育会 平田保育園			○	栄養士	1		
	（福）愛児福祉会 口田なかよし保育園	○			保育士		1	
	（福）愛児福祉会 高陽なかよし保育園	○			保育士		1	
	（福）あい福祉会 あい保育園 祇園	○			保育士・栄養士		2	1
	（福）葵新生会西条あおい保育園		○		保育士	1	2	
	（福）有心福祉会 落走保育園		○		保育士		1	
	（福）大田市社会福祉事業団 相愛保育園			○	保育士	1		
	（福）柏学園		○		保育士			1
	（福）川内福祉会　保育所みのり愛児園	○			保育士			1
	（福）川内福祉会　保育所みのり祇園	○			保育士		1	2
	（福）喜清会 うじな保育園	○			保育士		1	
	（福）くじら 廿日市くじら保育園		○		保育士	1		
	（福）桜が丘学園 桜が丘愛育園	○			保育士		1	
	（福）新庄保育園			○	保育士	1		
	（福）須子保育園			○	保育士			1
	（福）住田学園福祉会	○			保育士		1	
	（福）住田学園福祉会　おさんぽ保育園	○			保育士		1	
	（福）住田学園福祉会　さいわい保育園		○		保育士		1	
	（福）すみれ福祉会　すみれ保育園			○	保育士	1		

	（福）宙　つきのひかり国際保育園		○		保育士		1	
	（福）それいゆの会 それいゆやまもと保育園	○			保育士	2	1	
	（福）大社福祉会 こぐま保育園			○	栄養士		1	
	（福）中央正聖愛育会 こんごうさくら保育園		○		保育士		1	
	（福）中央福祉会 子供の館保育園		○		保育士		1	
	（福）東城有栖会		○		保育士			1
	（福）ともえ福祉会 ともえ保育園	○			栄養士	1		
	（福）原浜福祉会			○	保育士			1
	（福）広島愛育会	○			保育士			2
	（福）明顕福祉会 玉法保育園		○		保育士			1
	（福）明徳福祉会 山本まごころ保育園	○			保育士			2
	（福）めばえ福祉会 めばえ保育園			○	保育士			1
	（福）和光保育園			○	栄養士		1	
	（福）和福祉会 のんの・みどり坂保育園	○			栄養士	1		
	（福）和福祉会 のんの保育園	○			調理員		1	
	（株）JP ホールディングス			○	栄養士	1		
	広島医療（生協） 共立どんぐり保育園	○			調理員		1	
業種	企業別	地域別			職種	就職者数		
		市内	県内	県外		R 元年度	R2 年度	R3 年度
保育園	（福）中央正聖愛育会 金剛保育園		○		保育士・栄養士	4	3	
	（福）ナーガ保育園	○			保育士・栄養士	2	1	2
	（福）長浜福祉会 長浜東保育所		○		保育士	1		
	（福）入野福祉会 入野光保育園		○		保育士	1		
	（福）乃木愛育会 乃木保育所			○	保育士	1		

	（福）ひまわり福祉会 ひまわり第１保育園			○	保育士		1	
	（福）微妙福祉会 みみょうグループ	○			保育士	3		4
	（福）微妙福祉会 第二みみょう保育園	○			保育士		1	
	（福）平田保育会 平田保育所			○	保育士	1		
	（福）二葉会　千田保育園	○			保育士	1		
	（福）法輪福祉会 こころはるか保育園	○			保育士		2	
	（福）法輪福祉会 ほうりんフレンズ保育園	○			保育士	2	1	
	（福）法輪福祉会 法輪保育園	○			保育士	1		
	（福）まちや会 ぎおんナーモ保育園	○			保育士		1	
	（福）まちや会 みいりナーモ保育園	○			保育士		1	
	（福）みかわ 美川保育園			○	保育士		1	
	（福）みその児童福祉会 呉聖園マリア園		○		保育士	1		
	（福）みどり会 みどりの森保育園	○			保育士	1		1
	（福）みどり会 みどりの森ようこう保育園		○		保育士	1	1	
	（福）みのり会 可部保育所	○			保育士		1	
	（福）明徳福祉会 まごころ保育園	○			保育士	1	1	
	（福）明徳福祉会山本まごころ保育園	○			保育士	2		
	（福）文殊会 ルンビニ第二保育園			○	保育士		1	
	（福）龍渓福祉会 あさひが丘ルンビニ保育園	○			保育士		1	
	（福）若竹福祉会 横浜若竹こども園		○		保育士	1		
	（有）スマイル 保育所花キュー園	○			保育士	1	2	

	あい保育園　古江	○			保育士		1	
	青崎保育園	○			保育士	1		
	あおぞらキッズスクール		○		保育士	2		
	あすなろ第２保育園			○	保育士	1		
	いつかいち　ちびっこの森保育園	○			保育士			1
	いづみ保育園			○	保育士		1	
	オーエヌ第１保育園		○		保育士	1		
	（株）HOPPA			○	保育士		3	
	（株）TIC ふるいち ちびっこの森保育園	○			保育士			2
	（株）あい 観音本町保育園	○			保育士	2		
	（株）アイグラン	○			保育士・栄養士	3	1	1
	（株）アイグラン　大田市立病院たんぽぽ保育所			○	保育士		1	
	（株）アイグラン　あい保育園	○			保育士			1
	（株）アンジェリカ　西大井えほん保育園			○	保育士	1		
	（株）アンジェリカ　東品川保育園			○	保育士	1		
	（株）オウエン SunSun 保育園	○			保育士			1
	（株）桜の杜	○			保育士	2	1	
	（株）桜の杜（こはる保育園）	○			保育士		1	
	（株）敷信村農吉 （敷信みのり保育所・庄原市立庄原保育所）		○		保育士		1	
	（株）テノコーポレーション　ほっぺるランド			○	保育士		1	
	（株）ポピンズホールディングス			○	保育士		1	
	共立ひよこ保育園	○			保育士			1
	久賀保育園			○	保育士		1	
	コネクタ（株）さつき保育園		○		保育士			1
	シシィ保育園舟入園	○			保育士	1		
	（社）あおぞら会 小規模保育事業所 保育所和ちゃん	○			保育士			1
	庄原市総合サービス（株）		○		保育士			1
	廿日市いちご保育園　佐方		○		保育士	1	1	

	廿日市保育園（公私連携型保育所）		○		保育士	1		
	広島市公立保育園	○			保育士	1		
	広島大学病院たんぽぽ保育園	○			保育士	1		
	ふたばすくすく保育園こころ	○			保育士	1		
	プティット矢野保育園	○			保育士		1	
	放光保育園			○	保育士		1	
	(有)スマイル 保育所花キュー園	○			保育士			1
	ライクアカデミー（株）			○	保育士	1		
	レガロ・バンビーニ保育園	○			保育士	1	2	2
幼稚園	（学）安芸みのる学園 安芸みのる幼稚園	○			幼稚園教諭	1		2
	（学）一心学園ふじ幼稚園		○		幼稚園教諭	1		
	（学）海空学園 阿賀中央幼稚園		○		幼稚園教諭			1
	（学）大塚学園 吉島幼稚園	○			幼稚園教諭	1		
	（学）樟学園 東広島くすのき幼稚園		○		幼稚園教諭		1	
	（学）呉山手教会学園 山手幼稚園		○		幼稚園教諭		1	
	（学）至徳学園　公認　井口ルンビニ―幼稚園	○			幼稚園教諭			2
	（学）杉原学園 松永幼稚園		○		幼稚園教諭			1
	（学）多幾山学園 焼山こばと幼稚園		○		幼稚園教諭	1		
	（学）菜の花学園 川内菜の花幼稚園	○			幼稚園教諭			1
	（学）ナミュール・ノートルダム学園 高屋幼稚園		○		幼稚園教諭	1		
	（学）法輪学園 ほうりんこころ幼稚園	○			幼稚園教諭	1		
	（学）三次伊達学園 三次中央幼稚園		○		幼稚園教諭	1		

職員 SD・FD 研修の実施状況

事務部長　冨永　泰三

	期　　日	研修名	研修内容	対象者
1	4 月 1 日	理事長・学長講話		全職員
		合同教職員研修	①ガバナンスコード、②経営財務の状況、③中期経営計画Ⅳ	全職員
		事務職員研修	①大学・短大組織・運営 ②キャンパス間を越えた業務運営	全事務職員
		新任職員研修	①中期経営計画Ⅳ、②各種事務手続 ③大学案内　等	新規採用職員
2	7 月 29 日、 8 月 26 日、 9 月 22 日、 10 月 21 日、 11 月 26 日、 12 月 27 日、 1 月 25 日、 2 月 22 日、 3 月 28 日	庶務担当研修会	①人事関係（各種手続・様式の見直し、人事異動通知書） ②給与関係(常勤、非常勤等) ③私学共済 ④人事・労務関係規程の改正　等	総務担当職員
3	7 月 20 日、 8 月 24 日、 10 月 19 日、 11 月 18 日、 12 月 14 日、 2 月 4 日、 2 月 25 日	会計担当研修会	①伝票の摘要記入の統一 ②会計業務手順書 ③令和 4 年度予算 ④令和 3 年度決算書類作成　等	会計担当職員
4	9 月 7 日 ～9 月 30 日	研究倫理研修	e-ラーニングによる研究倫理研修	全職員
5	10 月 15 日、 11 月 11 日、 12 月 14 日、 1 月 18 日、 2 月 22 日、 3 月 18 日	教務課長会議（研修会）	①教職課程の自己点検評価 ②教育職員免許状更新講習 ③教職課程及び養成施設の設置基準等	教務課長
6	10 月 18 日、 11 月 22 日、 12 月 20 日、	学生係長会議（研修会）	①嚶鳴奨学金の検討課題 ②機関別認証評価から見る学生課の諸課題	学生係長

	1月17日、 2月21日、 3月24日		③原級留置　等	
7	10月26日	事務職員部次課長研修会	「認証評価からみる事務運営（管理・監督者）の在り方について」 ①管理･監督者の役割 ②法令･学園規程の遵守　等	課長以上の事務職員
8	11月9日 ～11月11日	令和4年度事業計画・予算作成説明会	①令和4年度事業計画及び予算の策定 ②予算編成システムの導入	全職員（キャンパス別）
9	12月22日	全学FD・SD障害学生支援に関する研修会	「発達障害について～充実した学生支援のために」	全職員
	12月24日	学外研修報告会	①理事長講話 ②大学機関別認証評価を受審して ③就職部課長担当者研修会より ④教育ﾈｯﾄﾜｰｸ中国第1回研修会より ⑤文書管理、⑥経常費補助金の仕組み	全事務職員
11	3月4日	文化学園大学・短期大学・呉工専合同研修会	テーマ：スマート治療室の導入から5Gを用いた遠隔手術教育の試みまで	看護学部全職員 他学部希望職員

	期　　日	研修名	対象者
1	4月～3月(適宜)	各部署で生起した事象を中心に実施し、職務の遂行に必要な知識、技能及び応用能力の向上に努めた。	所属職員

執筆者一覧	
学長	坂越 正樹
副学長	松元　健治
法人事務局長	安藤　充昭
ＩＲセンター長	松元　健治
事務部長	冨永　泰三
学生部長・入試本部長	廣兼　孝信
図書館長	萱島　隆之
コミュニティ生活学科長	海切　弘子
食物栄養学科長	村田 美穂子
保育学科長	清見　嘉文
栄養専攻主任・学科長	村田 美穂子
学生部次長（社会連携）	江坂 美佐子
学生部次長（学生生活）	西川　勝利
学生部次長（教務）	岡田 正浩
学生部次長（就職）	石尾 はつみ
学生部次長	出廣 久司
ＡＬＯ	矢野下 美智子

学校法人広島文化学園
広島文化学園短期大学
〒731-0136　広島市安佐南区長束西三丁目５-１
電　話　（082）２３９―５１７１㈹
呉 阿賀サテライトキャンパス
〒737-0004　呉市阿賀南二丁目10-３
電　話　（0823）７４―５５１１